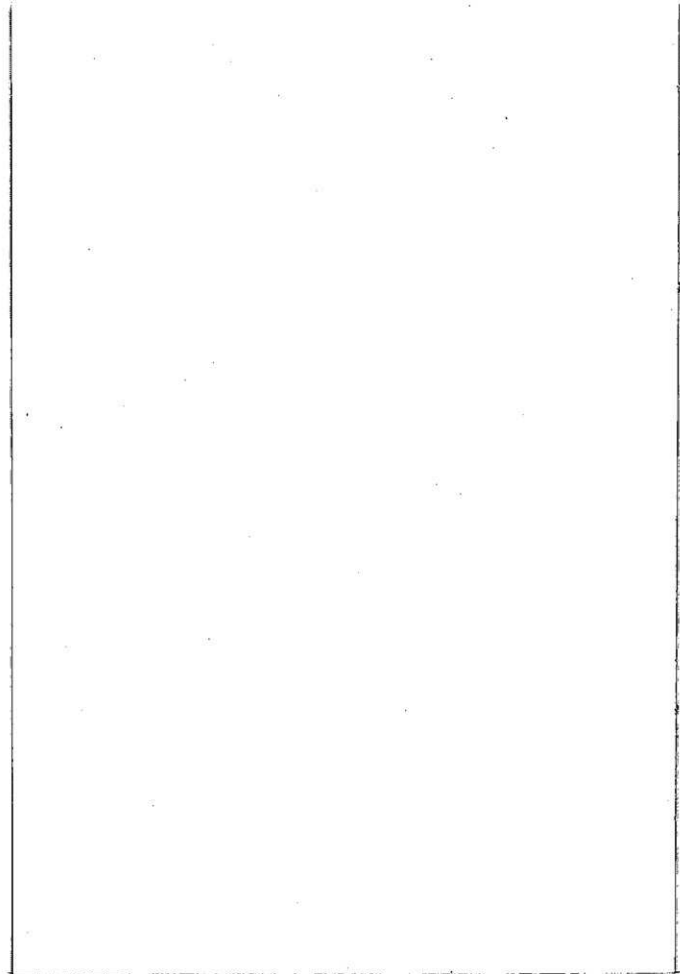


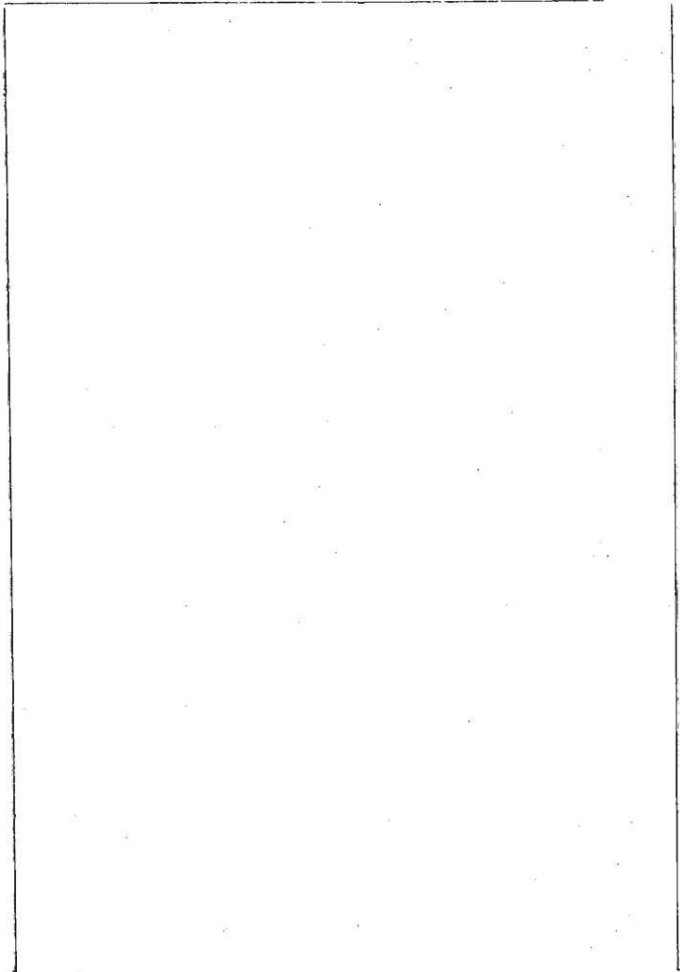
新千歳空港用地内埋蔵文化財 発掘調査報告書

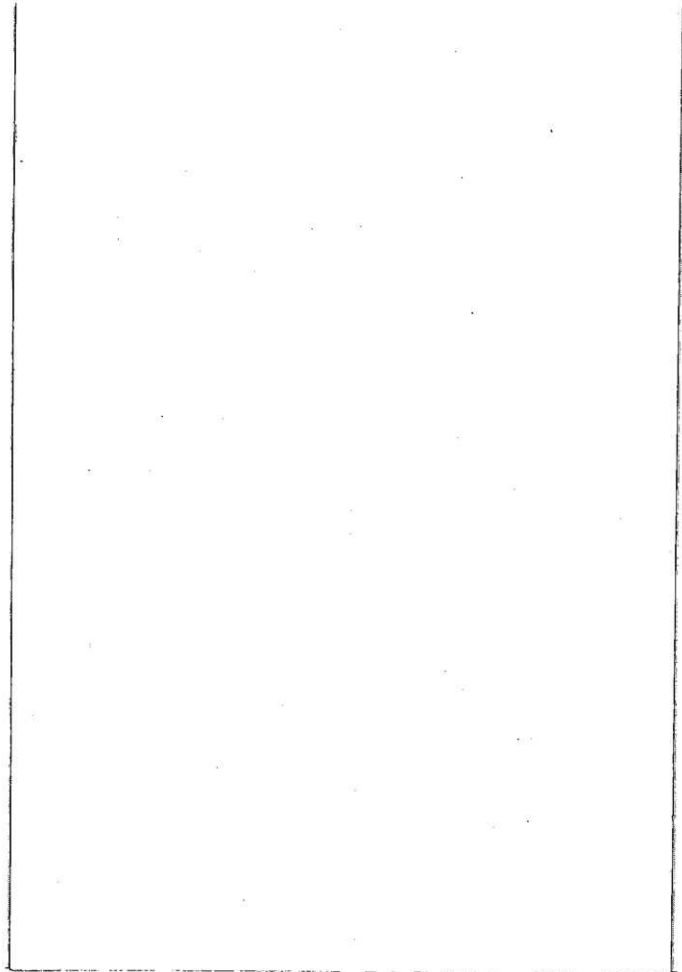
第3分冊 ペンケナイ川流域の遺跡群Ⅱ

昭和62年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター





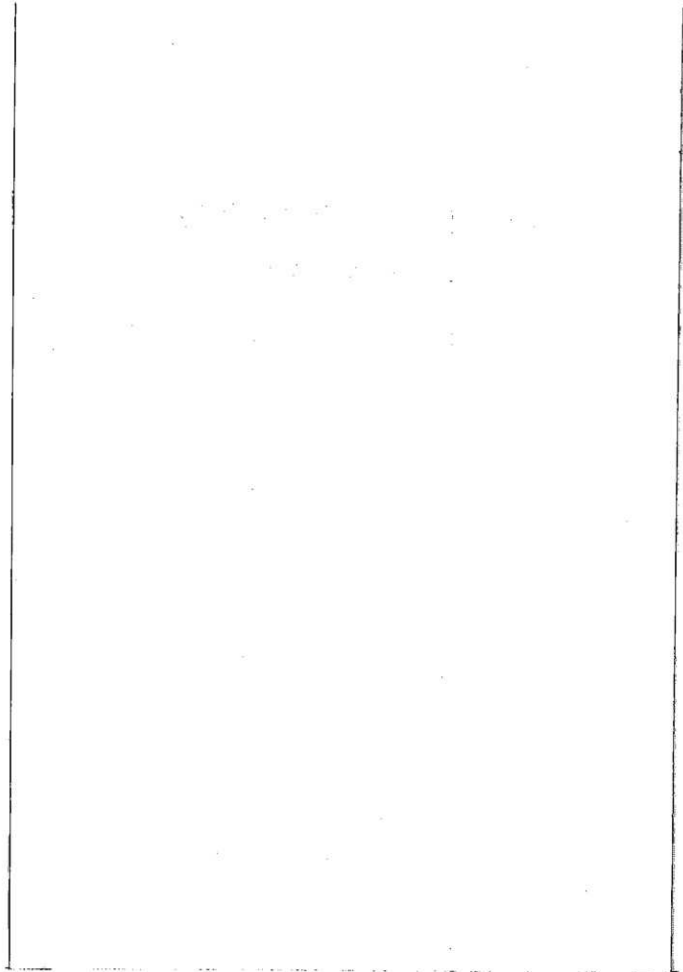


新千歳空港用地内埋蔵文化財 発掘調査報告書

第3分冊 ペンケナイ川流域の遺跡群Ⅱ

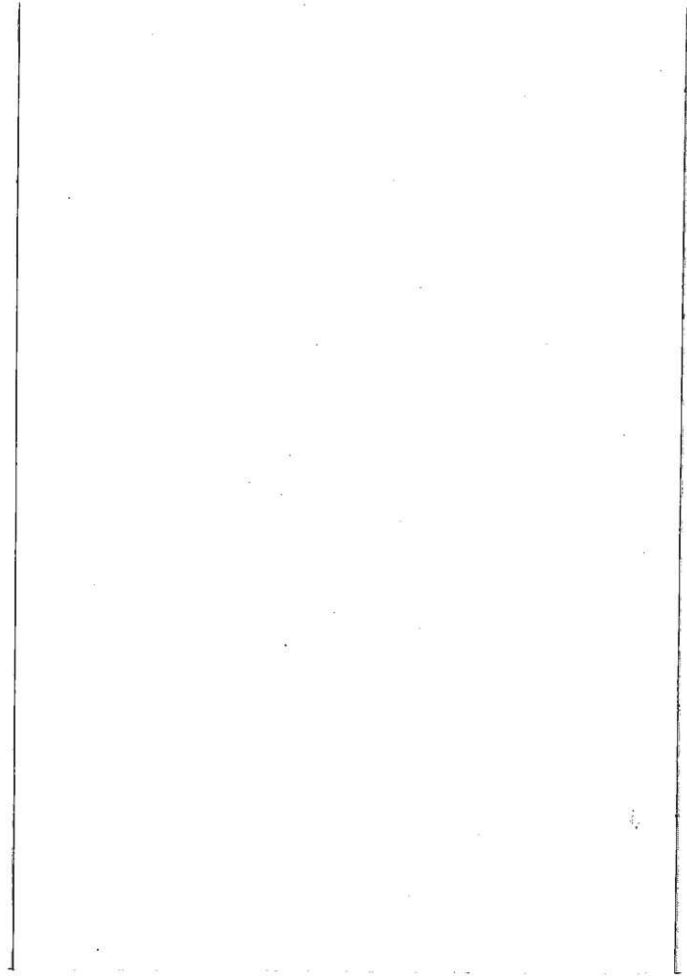
昭和62年度

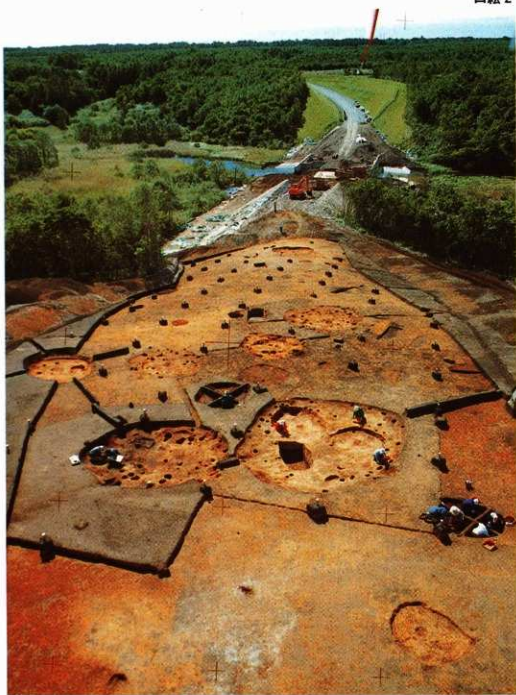
財団法人 北海道埋蔵文化財センター



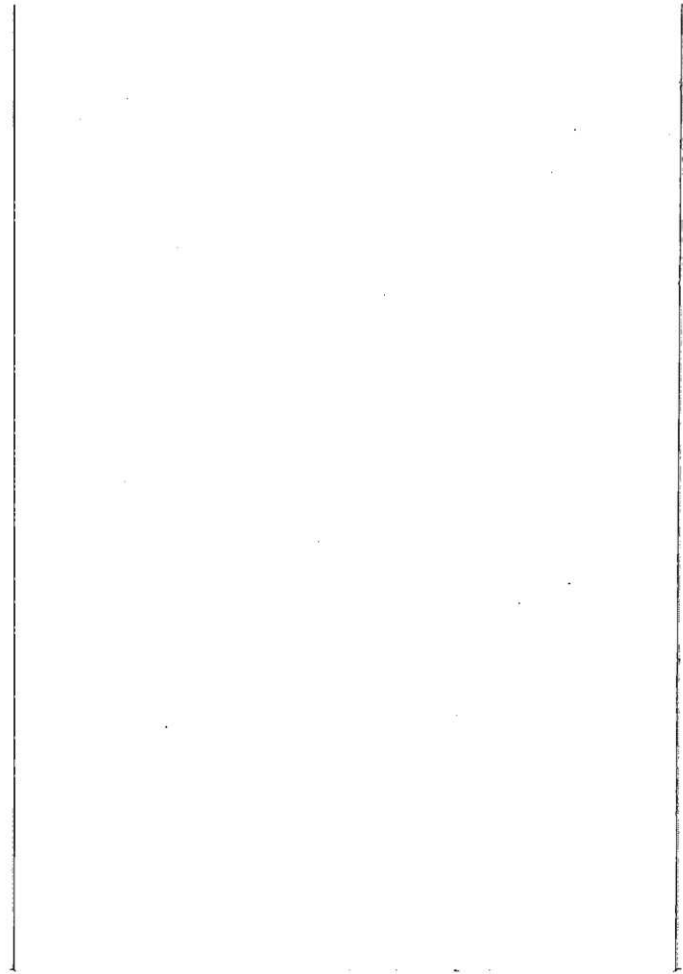


ベンケナイ川（北東から、遺跡から上流側を望む）





住居跡群全景（北から、R.C.ヘリコプターから撮影）



目 次

口絵 1	(2) 遺物	103
口絵 2	1) 土器	103
挿図目次	2) 石器	116
表目次	4. II 黒層上面にみられた動物の足跡と 風倒木痕	134
図版目次	5. 火災住居跡出土木炭の液体シンナ レーション炭素年代	135
美沢11遺跡の調査	6. 美沢10・美沢11遺跡出土の土器胎土 分析	135
1. 概要	7. まとめ	138
2. I 黒層の遺構	(1) 縄文早期末葉の遺物と遺物分布	138
3. II 黒層の遺構と遺物	引用参考文献	141
(1) 遺構	写真図版	145
1) 住居跡		
2) 土壌		
3) Tピット		
4) 焼土		

挿 図 目 次

図1 調査地区	1	図14 H-8の遺物	25
図2 遺構位置図とP-17	3	図15 H-8・15の遺物	26
図3 遺構位置図(1)	5	図16 H-16の遺物	27
図4 II 黒層上面の地形と遺構位置	7	図17 H-9と遺物	29
図5 遺構位置図(2)	9	図18 H-10	31
図6 H-7・8・10・11・12周辺の地形と掘り 上げ土範囲	11	図19 H-17	33
図7 H-7	13	図20 H-10の遺物	35
図8 H-7の遺物(1)と遺物分布	15	図21 H-10・17の遺物	36
図9 H-7の遺物(2)	16	図22 H-11	37
図10 H-7の遺物(3)	17	図23 H-11の遺物	40
図11 H-8	19	図24 H-18	41
図12 H-15	22	図25 H-18の遺物	43
図13 H-16	23	図26 H-12	45
		図27 H-19	47

図28 H-12・19遺物	48	図62 T-31・32	97
図29 H-13	49	図63 T-33・34	98
図30 H-20	51	図64 T-35・37	99
図31 H-13の遺物分布図と遺物	53	図65 Tビットの遺物(1)	100
図32 H-20の遺物	54	図66 Tビットの遺物(2)	101
図33 H-14の掘り上げ土範囲	55	図67 F-1・2・3・4・5・6・7・8と遺物	102
図34 H-14	57	図68 包含層の土器(1)	105
図35 H-22	59	図69 包含層の土器(2)	106
図36 H-14・22の遺物	61	図70 包含層の土器(3)	107
図37 H-21と遺物	62	図71 包含層の土器(4)	108
図38 H-23と遺物	64	図72 包含層の土器(5)	109
図39 H-24	65	図73 包含層の土器(6)	110
図40 H-24の遺物	66	図74 包含層の土器(7)	111
図41 H-26	67	図75 包含層の土器(8)	112
図42 H-26炭化材出土状況図と遺物	69	図76 包含層の土器(9)	113
図43 P-111・113・114・115と遺物	74	図77 包含層の土器(10)	114
図44 P-116・117・118・119と遺物	75	図78 包含層の土器(11)	115
図45 P-120・121・122・123と遺物	76	図79 包含層の石器(1)	118
図46 P-124・125と遺物	77	図80 包含層の石器(2)	119
図47 P-126・127・128・129・130と遺物	78	図81 包含層の石器(3)	120
図48 T-1・2	83	図82 包含層の石器(4)	121
図49 T-3・4	84	図83 包含層の石器(5)	122
図50 T-5・6	85	図84 包含層の石器(6)	123
図51 T-7・8	86	図85 包含層の石器(7)	124
図52 T-9・12	87	図86 包含層の石器(8)	125
図53 T-10・11	88	図87 包含層の石器(9)	126
図54 T-13・14	89	図88 包含層の石器(10)	127
図55 T-15・16	90	図89 包含層の石器(11)	128
図56 T-17・18	91	図90 包含層の石器(12)	129
図57 T-19・20	92	図91 Ⅱ鳳凰上面の地形と動物の足跡	134
図58 T-21・22	93	図92 土器胎土の一次鉱物組成	137
図59 T-23・24	94	図93 I b-4 類土器の分布頻度と 集中地区別の遺物	139
図60 T-25・26	95		
図61 T-28・29	96		

図 版 目 次

口絵 1	ベンケナイ川 (北東から、遺跡から上流側を望む)	
口絵 2	住居跡群全景 (北から、R. C. ヘリコプターから撮影)	
図版 1	遺跡遠景 (南から、右上は新空港滑走路)	145
図版 2	調査風景	146
	1) 住居跡群周辺 (北から) 2) 火山灰 (Ta-c) 除去 3) 斜面部 (南から)	
図版 3	住居跡群の調査	147
	住居跡群全景 (南から、RCヘリコプターから撮影)	
図版 4		148
	1) 住居跡群近景 (西から) 2) 調査前風景 (北東から、水糸部分が住居跡)	
図版 5		149
	1) H-22 (南西から) 2) H-22の石器	
	3) 斜面下部の住居跡群 (北から、昭和61年度の調査)	
	4) H-7 (北東から) 5) H-7遺物出土状況 (東から)	
図版 6		150
	1) H-7炭化材出土状況 (南東から) 2) H-7炭化材・遺物出土状況 (西から)	
	3) H-8 (北から) 4) H-9 (南から)	
	5) H-9炭化材出土状況 (南東から)	
図版 7		151
	1) H-10・17 (南東から) 2) H-17周溝部 (東から)	
	3) H-17 (北西から) 4) H-17遺物出土状況 (東から)	
	5) H-11遺物出土状況 (北から) 6) H-18遺物出土状況 (北西から)	
	7) H-11・18 (西から)	
図版 8		152
	1) H-12・19 (西から) 2) H-13炉跡 (西から)	
	3) H-13遺物出土状況 (北から) 4) H-13 (西から)	
	5) H-20土器出土状況 (北西から) 6) H-20土器出土状況 (南西から)	
図版 9		153
	1) H-20 (南東から) 2) H-14掘り上げ土範図 (南から)	
	3) H-14遺物出土状況 (北から) 4) H-14 (北から、上方はH-22)	
図版 10		154
	1) H-15・16 (北から、上方がH-16) 2) H-15遺物出土状況 (東から)	
	3) H-15炭化材出土状況 (南から) 4) H-16確認状況 (南西から)	
	5) H-16遺物出土状況 (南から) 6) H-16遺物出土状況 (東から)	

図版11

1) H-21 (南東から)

2) H-23 (北東から)

3) H-24 (北東から)

4) H-24炭化材出土状況 (北から)

図版12

1) H-26 (南東から)

2) H-26周溝部 (東から)

3) H-26遺物出土状況 (北から)

4) H-26跡 (南東から)

5) H-26炭化材出土状況 (北西から)

図版13 住居跡の土器(1)

1)・2) H-7

3) H-10

4) H-11

5)・6) H-20

7) H-14

8) H-18

9)・10) H-26

図版14 住居跡の土器(2) H-7

図版15 住居跡の土器(3) H-8

図版16 住居跡の土器(4)

1) H-10

2) H-17

3) H-12

図版17 住居跡の石器(1)

1) H-7 剥片石器

2) H-7の台石・石皿

3) H-7の石斧・たたき石

4) H-8の礫石器

図版18 住居跡の石器(2)

1) H-8 剥片石器

2) H-17の石皿

3) H-17床面の石斧接合資料と礫石

4) H-17床面の石斧片および剥片

5) H-10剥片石斧

6) H-10礫石器

7) H-16剥片石器

8) H-16の石斧

図版19 住居跡の石器(3)

1) H-12の剥片石器

2) H-12の石斧

3) H-11の石斧

4) H-11の剥片石器

5) H-19の石斧

6) H-14の礫石

7) H-13の石槍

8) H-13の石皿

9) H-18の剥片石器

10) H-16床面のフレイク・チップ

図版20 土壌の調査-1) I 黒層の土壌・2) ~11) II 黒層の土壌-

1) P-17 (西から)

2) P-120 (西から)

3) P-120遺物出土状況 (西から)

4) P-130 (東から)

5) P-124 (東から)

6) P-119 (北東から)

7) P-115 (北西から)

8) P-123 (北東から)

9) P-125 (西から)

10) P-116 (南西から)

11) P-122 (東から)

図版21

1) P-126 (北から)

2) P-113 (北東から)

3) P-128 (東から)

4) 土壌出土の剥片石器

5) 土壇出土の礫石器	6) P-113出土の焼成粘土塊	
7) 土壇出土の土器		
図版22 Tピットの調査一調査地区南半部に分布する一群一		166
1) Tピット群配列風景(南東から)	2) T-7土層断面(南西から)	
3) T-4(西から)	4) T-7(南から)	
5) T-8(北から)	6) T-9(南から)	
図版23 調査区中央部付近のTピット群		167
1) Tピット群配列風景2(北東から)	2) Tピット群確認状況(北東から)	
3) Tピット群配列風景3(北西から)	4) Tピット群配列風景4(北西から)	
5) T-23・24(南西から)	6) T-23・24土層断面(南西から)	
図版24 調査区北側のTピット群と小判形のTピット		168
1) T-35土層断面(北から)	2) T-35(北から)	3) Tピット配列風景(北西から)
4) T-31(西から)	5) T-33(南から)	6) T-25(南東から)
図版25 Tピット出土の土器		169
図版26 焼土の調査		170
1) Tピット出土の剥片石器	2) Tピット出土の礫石器	3) Tピット出土の小礫
4) F-2(南東から)	5) 焼土出土の土器	
図版27 動物の足跡と風倒木痕の調査		171
1) 動物の足跡列(東から)	2) 風倒木痕の土層断面	
図版28 包含層の調査		172
1) I群b-4類土器集中地区出土状況(北東から)	2) 同上(南西から)	
3) II群b類土器出土状況(南東から)		
図版29		173
1) V群C類土器出土状況(東から)	2) 礫出土状況(南から)	
3) 礫集中地区出土状況(南東から)	4) ~7) I群b-4類土器	
図版30		174
1) ~3) I群b-4類土器	4) II群b類土器	5)・6) V群c類土器
図版31 I群b-3・4類土器		175
図版32 I群b-4類土器		176
図版33		177
1) I群b-4類土器	2) I群b-4類文様各種	
3) 土器の胎土分析用資料(本文6参照)		
図版34 II群土器		178
図版35		179
1) II群b類土器内面の文様	2) III群土器	

図版36 III群b類土器	180
図版37	181
1) III群b類土器 2) IV群土器 3) V群土器	
図版38 A・B・C類土器	182
図版39 D・E類土器	183
図版40	184
1) 01a・00類土器 2) F類土器	
図版41 G・J・K類土器	185
図版42	186
1) M類土器 2) N類土器	
図版43 焼成粘土塊	187

表 目 次

表1 遺構一覧	2	表12 Tビット一覧	81
表2 遺物一覧	2	表13 Tビットの遺物一覧	82
表3 住居跡一覧	68	表14 Tビットの掲載拓影土器一覧	82
表4 住居跡の遺物一覧	70	表15 Tビットの掲載石器一覧	82
表5 住居跡の実測・推定復元土器一覧	70	表16 焼土一覧	101
表6 住居跡の掲載拓影土器一覧	70	表17 焼土の掲載拓影土器一覧	101
表7 住居跡の掲載石器一覧	71	表18 包含層の掲載実測・推定復元土器一覧	130
表8 土壌一覧	73	表19 包含層の掲載拓影土器一覧	130
表9 土壌の遺物	73	表20 包含層の掲載石器一覧	131
表10 土壌の掲載拓影土器	73	表21 供試土器の表面観察	136
表11 土壌掲載石器一覧	73		

美沢11遺跡の調査

1. 概要

今年度の調査地区は、ベンケナイ川左岸の台地上から斜面に広がりをもつ遺跡のうちの台地縁辺部から斜面中腹（5,710㎡）である。調査の対象層は主にⅡ黒層で、Ⅰ黒層、Ⅲ黒層、En-a層下位のローム質土層についても一部調査した。

Ⅰ黒層からは、縄文時代晩期末葉のものと考えられる土壌が台地縁付近から1個（P-17）検出されただけである。

Ⅱ黒層からは住居跡、土壌、Tピット、焼土などの遺構と58,549点の遺物が検出された。

住居跡は19軒あり、いずれも台地縁から斜面中腹に分布している。斜面中腹にある1軒が縄文前期に属するほかは、中期後半の柏木川式・北筒式、後期初頭の余市式のものである。これらの住居跡の中で特筆されることは、柏木川式期の住居跡はほとんどが火災にあっていることと北筒式期のものが柏木川式期の住居跡廃絶後にできた凹地を利用して構築している点である。

土壌は縄文前期、中期、晩期末に属するものを含めて19個ある。これらはおもに、住居跡群周辺と縄文時代早期末～前期の遺物が集中する調査区中央部に分布している。用途はいずれも不明で墓と考えられるものもない。

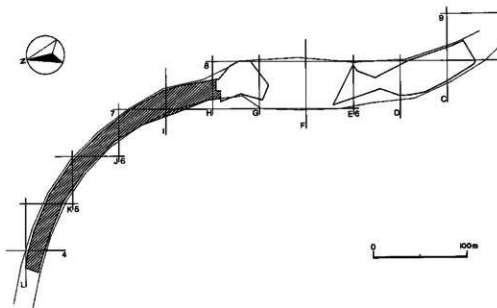


図1 調査地区

Tピットは34個あり、おもに調査区中央部付近と北端付近に並んでいる。斜面中腹にある1個が杭穴を伴う小判形のタイプのほかはすべて溝状の細長いものである。

焼土は住居跡群周辺から8か所検出された。Ⅱ黒層基底部から検出された1か所を除き、縄文時代中期～後期初頭の住居跡に関連するものと思われる。

遺物は縄文時代早期～晩期に属し、このうちの47%が土器である。土器はⅠb～4類が最も多く、Ⅲb～2・3類がこれに次ぐ。石器類では縄文時代早期末～前期のものが多出している。(野中一宏)

表1 遺構一覧

	Ⅰ 黒層	Ⅱ 黒層	計
住居跡		19	19
土	1	19	20
Tピット		34	34
焼土		8	8
計	1	80	81

表2 遺物一覧

土					石				
分	類	遺構	包含層	計	分	類	遺構	包含層	計
土	Ⅰ b	2		3	石	D	3	1	20
		3	36	154			4		27
		4	477	15,058			5	1	3
	Ⅱ a	1		2		破片	2	29	31
		2		2		E		49	206
	Ⅲ b		50	2,142			破片	10	104
		a		1		F		2	24
	Ⅳ a	1		23			1	1	2
		2	2,488	3,138		破片	2	13	22
		3	1,143	1,925			3	2	7
土	Ⅴ a		129	181	石	破片	244	224	468
		c		1		G		5	
	Ⅵ c		302	213			1		4
		計	4,629	22,843		破片	2	6	7
	Ⅶ 0		4	18			3		3
		1・2	15,160	6,134		破片		1	1
		1 a	36	261			4	39	43
	Ⅷ A			3	土	J			1
		2		3			1		4
		3	3	69			2	1	1
		4	5	47		破片		6	6
		5	2	8			破片	14	202
		6	4	6		K	1	19	25
		7	1	39			破片	32	40
土	Ⅸ B	破片	11	145	土	M		8	11
			3	1			破片	2	42
		1	3	14		N		1	2
		2	2	4			1		6
		3	3				2		12
	Ⅹ C	4	1	1			3		1
		破片	2	21			破片	5	81
			2	1		X	0	52	1,865
		1	1	4			1	501	4,957
		2	2	4	土製品			2	25
土	Ⅺ D	破片	2	2		計	16,229	14,848	31,077
			3	31	合 計		20,858	37,691	58,549
土	Ⅻ 1		2	32					

2. I 黒層の遺構

I 黒層では、調査対象地区の S.P. 2,600～S.P. 2,640間 (640m²) から遺構、遺物は全く出土しなかった。しかし、調査区南側の台地縁付近から土壇 1 個 (P-17) が検出された。

P-17 は 17-75 区内にあり、Ta-c 火山灰をまき込む局倒木痕を切っている。確認した部分から推定される平面形は、長径 1 m ほどの楕円形である。II 黒層上面からの深さは 10 cm で掘り込み面からは 50 cm ほどあったものと思われる。遺物は全くない。

本遺跡における I 黒層の土壌は、舌状台地の突端部から下る南向きの斜面中腹～下位 (昭和 61 年度調査地区) に分布している。これらは縄文時代晩期末葉と統縄文時代後半に属し、統縄文期のものは墓と考えられる。美沢川流域で検出された晩期末葉の土壌は墓を含めて台地縁から斜面および川沿いの低地に分布している。本遺跡においても、昨年度の調査結果からみて美沢川流域と同様の有り方を示すものと思われ、今年度に唯一発見された P-17 についても、これらの一群のひとつである可能性が高い。(野中一宏)

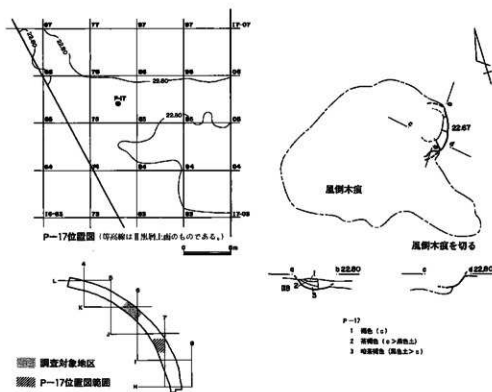


図2 遺構位置図とP-17

3. II 黒層の遺構と遺物

(1) 遺構

II 黒層からは住居跡19軒、土壇19個、T ピット34個、焼土8ヵ所の遺構が検出され、縄文時代早期～晩期にかけての土器、石器類20,858点や炭火材1,107点の遺物が出土した。

1) 住居跡 (図6～42)

19軒の住居跡はベンケナイ川に向かって突き出た舌状部の台地縁から南向きの緩斜面中腹にかけて分布している。これらは大きく縄文時代前期、中期、後期に時期を区分でき、互いに近接もしくは切り合っている。各住居跡間の新旧関係は出土遺物や直接の切り合いまたは掘り上げの分布状態などから判断して次のようになる。

II	III		IV
a - 2	b - 2	b - 3	a
H-1 H-2 H-3 H-4 H-9[※] H-24[※] H-26[※]	H-8 → H-16 → H-15 → H-7 [※] H-17 H-18 H-19 H-20	H-10 [※] H-12 H-13 H-21	H-11 H-14
H-22			

()内は昭和61年度の調査
昭和61年度のH-5・6、本年度のH-23は時期を特定できなかった住居跡である。
※印は火災住居跡

縄文前期に属する住居跡はII a-2 類期の1軒(H-22)だけで、斜面中腹に位置している。この時期の住居跡は斜面中腹から下位にかけて(昭和61年度調査地区、図3)の尾根上にも4軒ある。H-22の平面形は隅丸方形で、北側の一边は若干膨らんでいる。炉跡はなく、柱穴は北西および南東コーナーに配されている。床面からは無茎石鍬やつまみ付ナイフが出土した。

縄文中期に属する住居跡は16軒ある。すべて台地縁辺に分布しており、さらに、III b-2 類期とIII b-3 類期に細分される。このうち6軒はII 黒層上面の凹みからその存在が予想されていたもので、これらの竪穴の周囲には構築時の掘り上げ土が盛られているのが確認された。

III b-2 類期に属する住居跡は11軒で、長径8～9mほどの大型3軒、5m前後の中型2軒、3m以内の小型6軒からなる。平面形は楕円形、隅丸方形、隅丸五角形で、前者は大型～中型に、後2者は小型の住居跡に多くみられる。楕円形のは長軸方向の一方が尖るかまたは直線もなしている。このうち、H-17～20の4軒とH-9・15・16・24・26の5軒は向きが違うもののそれぞれ弧状に配されている。規模別の構成では前者は大型1軒、中型2軒、小型1軒から、後者はすべて小型の住居跡からなる。住居跡の構造は規模によって二つの違いがみられる。1点目は大型～中型に属するものはすべてベンチを有しており、H-17を除き、ベンチ上および内壁沿いに柱穴がめぐらされている。これに対し、小型の住居跡には、ベンチを有

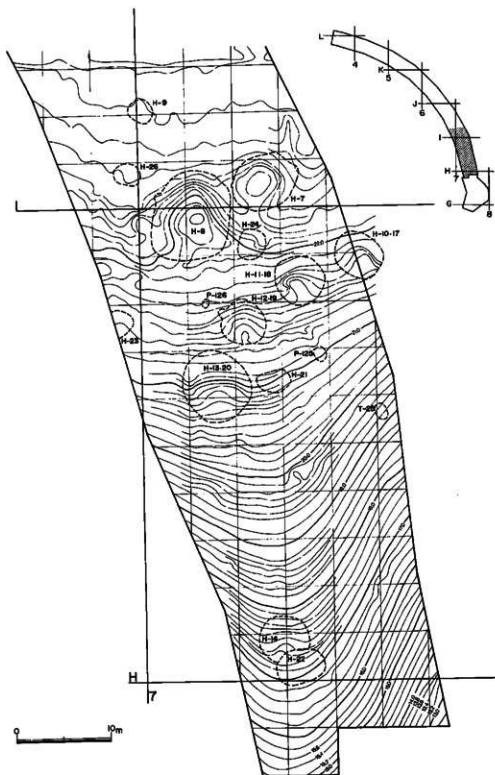


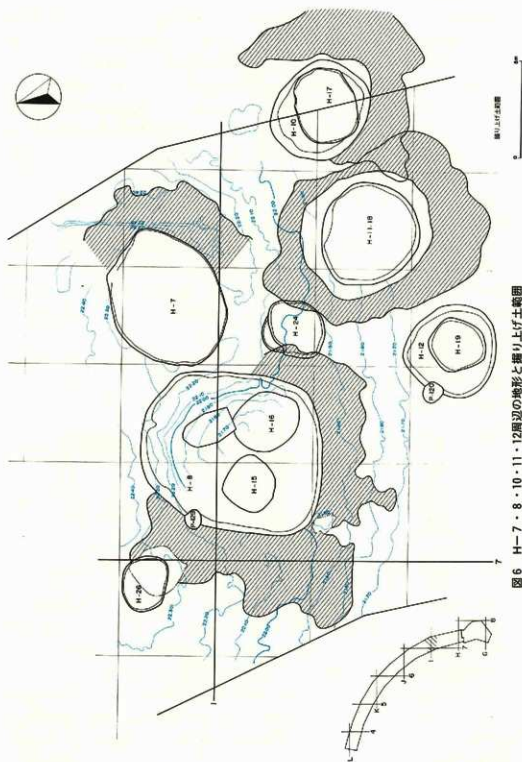
図4 I 黒層上面の地形と遺構位置

するものがH-24だけで、柱穴が少なく、配列も不明瞭な点である。2点目は壁際に周溝を有する住居跡が小型のものには4軒あるが、大型～中型のものでは中型に属する1軒しかない点である。炉跡はH-8を除き、床面中央部にあり、いずれも浅い掘り込みを伴う地床炉である。床面は硬く踏み固められている。壁の立ち上がりは小型の住居跡がほぼ直角に近いほかは崩落のため緩やかで、特にH-7・8では内壁の立ち上がりを確認できなかった部分もある。これら11軒の住居跡のうち、6軒(H-7・9・15・16・24・16)は火災にあっており、家屋の構造材と考えられる丸太、割材、草本類などの炭化材が合計1,107点検出された。炭化材の種類別出土頻度はどの住居跡も丸太が70%以上を占めている。また、垂直分布をみると、これらの材はおおむね覆土中部から出土する一群と床面に分布する一群とに分離できる。炭化材の¹⁴C年代測定結果はおおよそ4,000 y.B.P.前後の値が得られている(第3分冊-5)。炭化材以外の遺物のうち、床面から検出されたものは、Ⅲb-2類土器のほか、石器の中では石皿、石斧、複数の砥面を有する砥石が多い。また、黒曜石のフレイク、チップや石斧片が炉跡周辺に散乱しているものがあるほか(H-16・17)、どの住居跡もこれらの出現頻度が比較的高いことからみて、住居内で石器製作もしくは再加工を行なっていることがうかがえる。

Ⅲb-3類期に属する住居跡は4軒(H-10・12・13・21)である。このうち3軒は弧状に分布するⅢb-2類期の竪穴跡地を利用して構築されている(H-10・12・13)。平面形はいずれも楕円形で、このうちの3軒(H-10・12・13)は長幅化が小さくⅢb-2類期のものと同様、長軸方向の一方が尖るかまたは直線をなす。規模は長径5m前後のもの(H-10・12・13)と3mほどのもの(H-21)がある。このうち、H-21は床面が平坦ではなく、しかも大型の付属ピットを伴うことからみて、住居とは考え難い。むしろH-10・12・13のいずれかに伴う付帯施設として扱えられた方がよいものであろう。炉跡はH-21を除き中央部にあるが、中には4か所検出されたものもある(H-13)。床面はⅢb-2類期の住居跡ほど硬く踏みしめられてはいない。また、柱穴の配列も不明瞭である。この時期の住居跡からも火災にあったと考えられるものが1軒検出された(H-10)。炭化材以外の遺物の中で床面から出土したものは少なく、土器では他の時期のものが混在する比率がⅢb-2類期の住居跡に比べ高く、特にⅢb-2類が多く混在している。石器ではⅢb-2類期に比較的多くある石斧、石皿、砥石類はあまりない。

後期に属する住居跡は2軒あり(H-21・24)、両者とも後期初頭の余市式期のものである。H-11は台地縁に、H-14は斜面中腹に分布しており、H-11はⅢb-2類期の竪穴跡地(H-18)を利用して、H-14は前期のもの(H-22)の一部を切って作られている。平面形は円形(H-14)、楕円形(H-11)を呈しており、両者とも径5mほどの中型の住居跡である。炉跡はH-14にはなくH-11で3か所検出された。一方、柱穴はH-14からしか検出されていない。H-14は柱穴の位置からみて、方形に配された6本によって主柱を構成していたものと思われる。遺物は少なく、床面から出土したものはほとんどない。

(野中一宏)



H-7 (図7~10)

標高22.5mほどの台地縁に位置し、西側にはH-8が接するようしてある。周辺の住居跡との新旧関係は前述の表および図6に示すとおりで、Ⅲb-2類期の住居跡の中では最も新しいものと考えられる。また、西側壁の一部はP-130を切っている。平面形は北東-南西方向を長軸とし、北東側の一边がほぼ直線をなす楕円形である。床面は本来、一段高いベンチ部となっていたと考えられる壁沿いの幅50cmほどが傾斜し柔かいほかは比較的平坦で硬く踏み固められている。壁の立ち上がりは緩やかで、内壁と考えられる部分は崩落のため立ち上がりをほとんど確認できなかった。炉跡はなく、付属ピットはベンチ上に5個、一段低い床面(内壁沿いと思われる)に2個ある。柱穴は60か所あり、主にベンチ部および内壁と考えられる部分に設けられている。このうち、主柱穴は内壁と思われる部分に沿って配された比較的大型の一

群と考えられる。炭化材は覆土9層中~床面直上にかけて検出された。遺存状態は比較的良好である。平面的には、大型の材が北半部に集中する傾向があり、しかも求心状に倒れているものが多い。種類別の材の中では丸太および割材が多く、丸太は覆土中に、割材は床面直上に多い。丸太は主に径2cm前後のものと径5cm以上のものに分けられ、後者の出現率が高い。また、割材の中では板状のものが比較的多い。

炭化材以外の遺物のうち、床面から出土した遺物では剥片類を除きⅢb-2類土器が最も多い。一方、同時期の住居跡に比べⅢb-3類土器の出現率も高い。石器ではスクレイパーのほか礫石器の出現率が高い。

H-7

覆土	1 黒色(ⅡB)	2 黒色(ⅡB>d ₁)	3 黒色(ⅡB>d ₁)
	4 褐色~暗褐色(ⅡB>d ₁ >d ₂)	5 黒り上げ土	6 H-8黒り上げ土(図10の覆土6~7層に対応する。)
	7 黒褐色(ⅡB>d ₁ >d ₂)	8 黒褐色(ⅡB>d ₁ >d ₂)	9 黒褐色(ⅡB>d ₂)
	10 黒色(ⅡB)	11 暗褐色(ⅡB>d ₁ +d ₂)	12 暗褐色(ⅡB+d ₁ >d ₂)
	13 黒褐色(ⅡB d ₁ +d ₂)	14 暗褐色(ⅡB>d ₁ +d ₂)	15 黒褐色(ⅡB>d ₁ d ₂)
	16 暗褐色(ⅡB+d ₁ +d ₂)	17 暗褐色(ⅡB>d ₂)	18 黒褐色(ⅡB>d ₁ +d ₂)
	19 暗褐色(d ₂ >d ₁)	20 暗褐色(ⅡB+d ₂)	21 暗褐色(d ₁)
	22 黒色(ⅡB+d ₁)	23 暗褐色(ⅡB+d ₂ +d ₁)	24 暗褐色(d ₂)
	25 暗褐色(礫土)	26 黒色(ⅡB>d ₁)	27 黒色(ⅡB>d ₁ +d ₂)
	28 暗褐色(d ₂)	29 暗褐色(d ₂)	30 黒褐色(ⅡB+d ₂)
	31 黒色(ⅡB>d ₂)	32 黒色(ⅡB>d ₂)	33 黒色(ⅡB>d ₂)
	34 黒色(ⅡB>d ₁ +d ₂)		

遺物(図8~10)、土器 1・3・4・6~12・15はⅢb-2類、2・4・13・14はⅢb-3類である。1は推定口径36cmほどの深鉢で、胴上半部が膨らみ、口縁部は大きく外反する器形である。4か所に小突起を有し、突起下には頸部まで貼付帯が垂下する。口縁及び突起下には半篋竹管状工具による横走沈線がめぐり、突起下の貼付帯間にも沈線が垂下する。

石器 16は黒曜石のC類、17・18は黒曜石の剥片を用いたO1a類、19・20・32は泥岩製のF₂類、21は片麻岩製のG類、22~24は安山岩製のM類、25は黒曜石製のA₄類、26は黒曜石製のB類、27はメノウ製のD類、28~30は黒曜石製のE類、31は黒曜石の石核、33・34は砂岩製の礫石である。

(野中一宏)

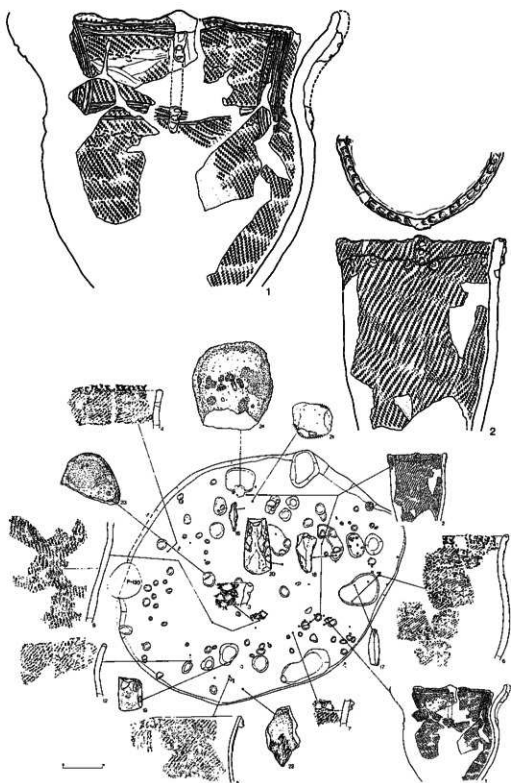


図8 H-7の遺物(1)と遺物分布

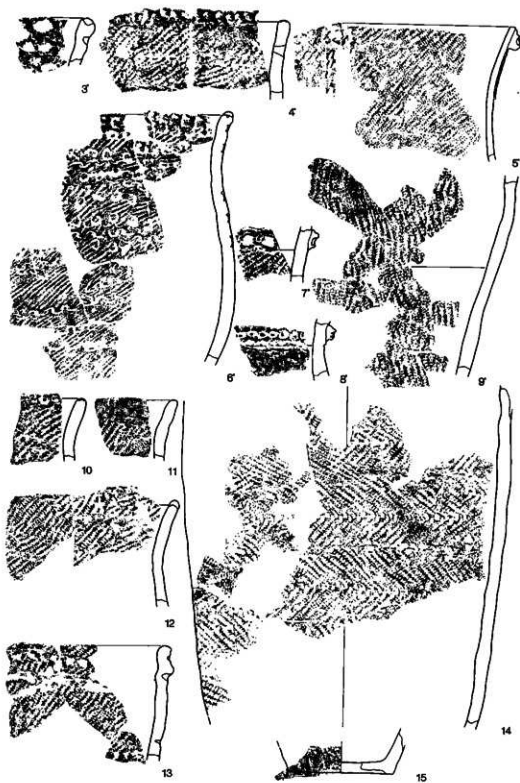


図9 H-7の遺物(2)

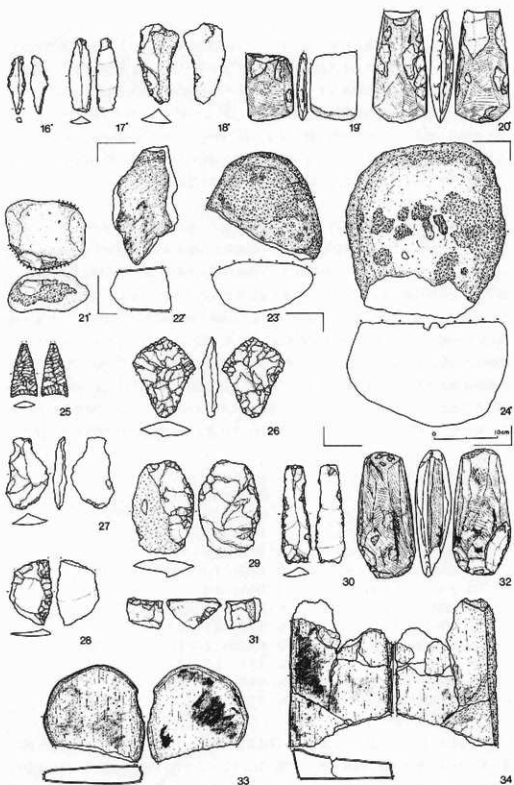


図10 H-7の遺物(3)

H-8・15・16

標高22.5mほどの台地縁に位置する。H-8はⅡ黒層上面の凹みおよび範囲確認調査トレンチの観察によって当初からその存在が判明していた。H-15・16はH-8調査中に確認されたもので、掘り込みの位置からH-8→H-16→H-15の順に構築されていることが判明した。また、堅穴構築時の掘り上げ土の分布から(図6)、近接するH-7・H-24・H-26との関係も判明し、これら6軒の順序はH-24・26→H-8→H-16→H-15→H-7であることが確かめられた。ただ、H-15・H-16の関係については、その差がH-8の覆土1層しかないことからみて大きな時間差はないものと思われる。

H-8 (図11・14・15)

住居跡群の中で最も大きなもののひとつで、北西壁の一部は晩期に属するP-129に切られている。平面形は北東-南西方向を長軸とし、南側壁が直線をなす楕円形である。床面は壁沿いの幅50cmほどが一段高くなる二段構造で、一段低い部分は非常に硬く踏み固められている。壁の立ち上がりは崩落のため外壁、内壁ともに緩やかで、内壁では立ち上がりを確認できなかった部分もある。炉跡はない。付属ピットは北西側の内壁際にあり(HP-1)北東-南西方向を長軸とする0.5×0.3mの楕円形を呈している。柱穴は大小様々な大きさのものが60か所検出された。このうち、主柱穴はベンチ上にめぐらされた比較的大きな一群と考えられる。

遺物は覆土のものが大半を占めており、床面の遺物はⅢb-2類土器6点のほか剥片や礫など32点が出土しただけである。図示した遺物のうち図14-10・11と同一の個体片がH-9からも出土している。また、推定復元した図14-1はH-16や周辺の包含層からも検出されている。

覆土1 黒色(ⅡB)	2 暗褐色(ⅡB+d ₂)
3 黒褐色(ⅡB>d ₁ >d ₂)	4 暗黒褐色(ⅡB>d ₁ >d ₂)
5 茶褐色(ⅡB+d ₁ >d ₂)	6 黒色(ⅡB>d ₁)
7 明黒褐色(ⅡB>d ₁ d ₂)	8 黒褐色(ⅡB>d ₁ +d ₂)
9 暗褐色(ⅡB>d ₁ d ₂)	10 暗褐色(ⅡB+d ₂)
11 暗褐色(ⅡB>d ₁ +d ₂)	12 黄褐色(d ₁ >d ₂ ⅡB)
13 黒褐色(ⅡB>d ₁ >d ₂)	14 暗褐色(ⅡB+d ₂)
15 暗褐色(ⅡB+d ₁ >d ₂)	16 黒色(ⅡB>d ₁ >d ₂)
17 暗黄褐色(d ₁ >d ₂)	18 暗褐色(ⅡB+d ₁ +d ₂)
19 黒色(ⅡB>d ₂)	20 暗褐色(d ₂ >d ₁)
21 暗褐色(d ₁ >d ₂)	22 黒褐色(ⅡB>d ₁)
23 黒褐色(ⅡB>d ₂)	24 暗褐色(ⅡB+d ₁)
25 暗赤褐色(d ₂ >ⅡB)	26 黒色(ⅡB)
27 黒色(ⅡB>d ₁)	

遺物(図14・15-1-33) 土器 1-13はⅢb-2類、14-16はⅢb-3類、17・18はⅡb類、19はⅠb-3類、20はⅠb-4類に細分される。1は口径13cmほどで、胴上半部に最大径をもつ筒形と推定される。4か所に小さな突起を有し、口縁および頸部には幅1.5cmほ

どの貼付帯が横断する。貼付帯上には棒状工具の側面を利用した刻みが付されており、突起下には3条1組で山形文を構成する押し引き文が施文されている。地文はLRの斜行縄文である。2～5は縄文だけが施文されたもので2の口唇上には縄の圧痕文がみられる。9には平行沈線と刺突列が施文されている。7・8は突起下に貼付帯がみられるもので、7は縦位に、8は弧状に付されている。7は貼付帯上と口唇に縄の圧痕文が、8の貼付帯上には押し引き文が施文されている。9～11は貼付帯上に刺突文や押し引き文が施されたもので、10・11は貼付帯以外にもみられる。12・13はくの字状に張り出す底部で、13には底部縁に縄の圧痕文がめぐらされている。14・15は口縁が肥厚するトコロ6類、16は口縁に刺突列がめぐる煉瓦台式で、14・15の肥厚帯上には押し引き文が施されている。

石器 21は頁岩製のA₅類、22は頁岩製のD類、23～26はE類、27は黒曜石の切片を素材としたOla類、28・29は緑色泥岩製のF₂類、30・31はJ₄類、32・33は砂岩製のK₁類である。D類は片面全面加工のものである。E類はいずれも縦長の切片の周縁に二次加工を施したもので、23・24は黒曜石、25・26は頁岩を石材としている。J₄類は両者ともに欠損品で、30は砂岩、31は安山岩を用いている。31には黒色の付着物が認められる。K₁類は両者ともに複数面が使用されている。

(野中一宏)

H-15 (図12・15)

H-8南西部に作られており、H-8覆土11層上面から掘り込まれている。平面形はH-9に近似する一辺が長い隅丸方形である。床面は平坦で非常に硬く踏み固められている。壁はほぼ垂直に立ち上がっており、壁際には幅10cm、深さ5cmほどの溝が途切れながらもめぐらされている。床面の中央部はわずかに凹んでいる。炉跡と考えられるが、焼土は検出されなかった。柱穴は南側コーナー付近から1個と南西、および南東側の周溝内から6個検出された。周溝内のものは支柱穴と思われる。

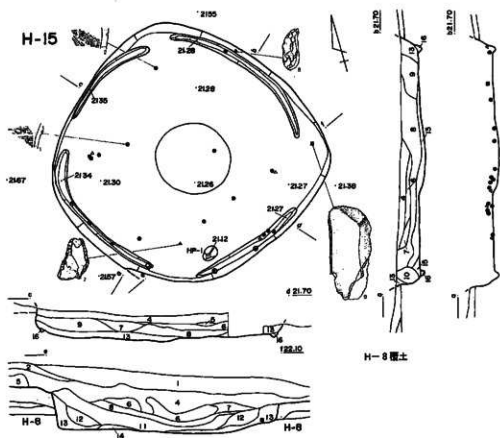
炭化材は覆土6～9・13層中から検出された。材の出土量は少ないが、遺存状態は比較的良好である。平面的には主に中央部から北西側にかけて分布しており、東西方向に向く材が多い。材の種類には丸太、割材があり、丸太が主体を占めている。H-9と比較すると径5cm以上の丸太が多いようである。草本類はほとんどない。

炭化材以外の遺物のうち、床面から出土したものはⅢb-2類土器28点のほか石器32点である。覆土からはⅢb-2類土器77点のほかIb-4類土器、石器など43点が検出された。

覆土1・2・4・5層はH-8の覆土説明を参照

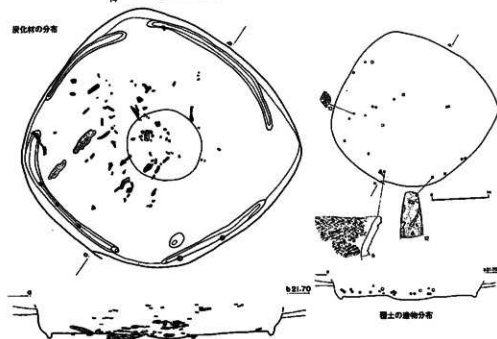
- | | |
|---|--|
| 6 暗褐色 (ⅡB > d ₁ + d ₂) | 7 暗褐色 (d ₂ > ⅡB) |
| 8 黒色 (ⅡB) | 9 黒褐色 (ⅡB + d ₁ > d ₂) |
| 10 黒色 (ⅡB) | 11 暗褐色 (ⅡB + d ₂ > d ₁) |
| 12 暗褐色 (d ₂ > ⅡB) | 13 黒色 (ⅡB > d ₁ > d ₂) |
| 14 暗褐色 (d ₁ + d ₂) | 15 暗褐色 (d ₂) |
| 16 暗褐色 (d ₂ > ⅡB) | |

土層番号のうち、6層以下はH-15の覆土として扱っており、H-8の覆土6層以下と



H-8 掘土

炭化材の分布



掘土の遺物分布

図12 H-15

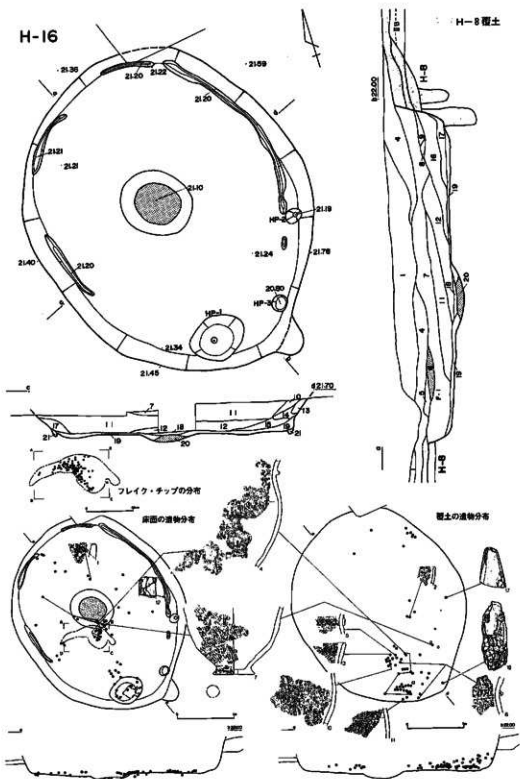


図13 H-16

は一致しない。なお、1層はH-8覆土1層、2層は同5層、4層は同8層、5層は同10層に対比される。

遺物(図15) 土器 1・3～6はⅢb-2類、2はIb-4類である。1は沈線を引きことによって粘土紐を貼付したもので、貼付帯上には刺突文が施されている。3はRLの縄文だけが施されている。4は口縁に縄の圧痕文が施文されている。5は大きく外反する口縁部破片で、口縁に2条の縄文が施されている。また、縄文の下部には押し引き文が斜位に施文されている。6はLRの斜行縄文を地文とする底部破片である。

石器 7・8・11は黒曜石製のE類、9は片麻岩製のJ₁類、10は黒曜石製のA₅類、12は緑色泥岩製のF₂類、13は砂岩製のK₁類である。7・11は片面の両側縁に、8は側縁の両面に二次加工が施されており、7・8には原石面が残されている。9は三角柱状の礎を擦ったもので、表面はかなり風化している。13は腹背面だけでなく側面も使用している。(野中一宏)

H-16(図13・16)

H-8の南東部にあり、H-8覆土11層下面から掘り込まれている。平面形は南東側が若干尖る楕円形で、北西-南西方向を長軸としている。床面は平坦で硬く踏み固められている。壁の立ち上がりは南西側を除き急である。炉跡は中央部にあり、0.8×0.65m、深さ10cmほどのピットを伴っている。南側の壁際には0.6×0.45m、深さ15cmほどの付属ピット(HP-1)がある。柱穴は南東側の壁際で2個検出された。また、北半部の壁際からは幅10cm、深さ5mmほどの溝が検出された。

炭化物は覆土19層中とHP-1内に含まれているが、ほとんどが土壌化している。取り上げることができたものについても薄片、小片ばかりで材の種類を判別するまでには至らなかった。

床面から出土した遺物の分布状態は図に示したとおりで、炉跡の南側には黒曜石のフレイク・チップが密集している。覆土出土の遺物は南側壁付近に多く分布しており、床面出土のものと接合するケースもみられる。

覆土1・4層はH-8の覆土説明を参照。

- | | |
|--|---|
| 5 暗茶褐色(ⅡB>d ₁ +d ₂) | 6 橙色(焼土) |
| 7 黒褐色(ⅡB>d ₁ +d ₂) | 8 暗赤褐色(ⅡB+d ₂) |
| 9 黒褐色(ⅡB+d ₁) | 10 黒褐色(ⅡB>d ₁) |
| 11 暗褐色(ⅡB+d ₂) | 12 黒褐色(ⅡB>d ₂) |
| 13 橙褐色(d ₂) | 14 暗橙褐色(d ₂ >ⅡB+d ₁) |
| 15 暗褐色(d ₁ >ⅡB) | 16 黒色(ⅡB>d ₁ +d ₂) |
| 17 黒褐色(ⅡB+d ₁) | 18 暗赤褐色(ⅡB>d ₂) |
| 19 黒色(ⅡB>d ₂) | 20 赤褐色(焼土) |
| 21 暗橙褐色(d ₂ >ⅡB) | |

土層番号はH-8・15とは一致しない。なお、1層はH-8覆土1層に、3層は同2層に、4層は同8層に対比される。

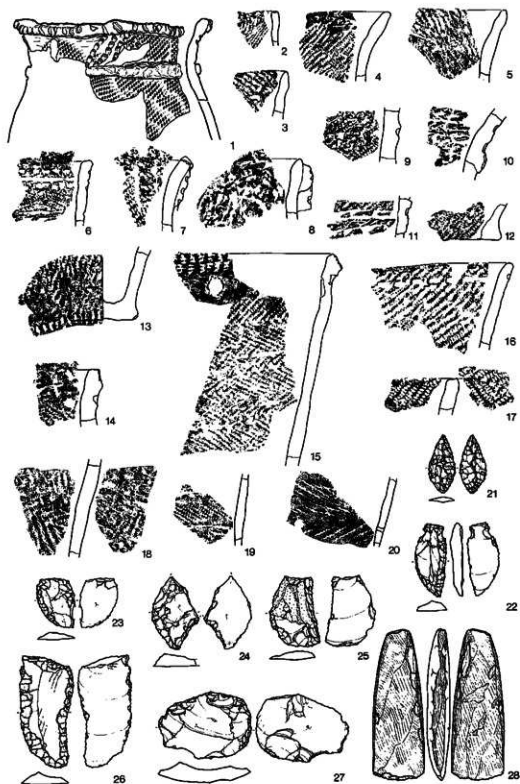
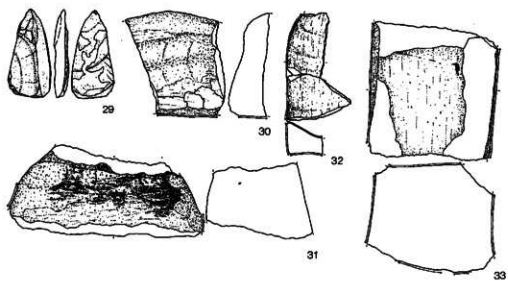


図14 H-Sの遺物



H-8

H-15

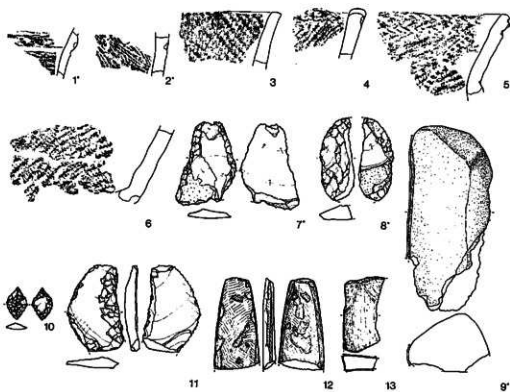


図15 H-8・15の遺物

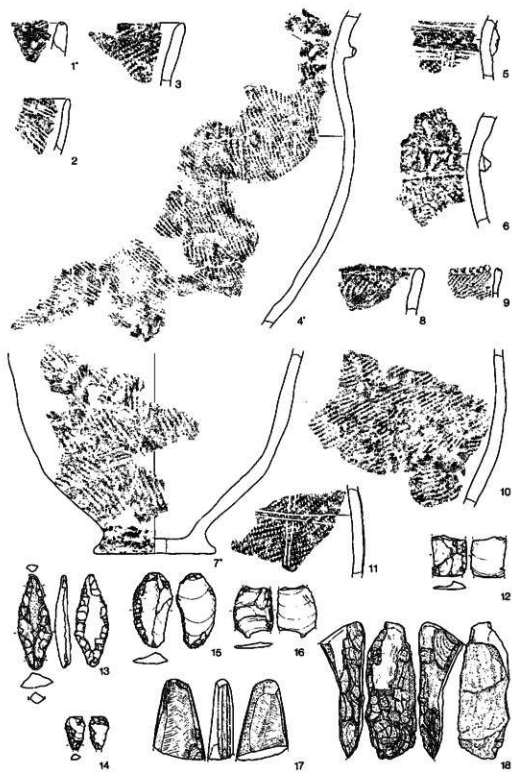


図16 H-16の遺物

遺物 (図16-1~18) 土器 すべてⅢb-2類である。1~3・8・9は表面に縄文だが施されたものである。1・9の口唇には刺突文、縄の圧痕文が施されている。地文は1・3・8・9がLR、2がRLの斜行縄文である。4~6は頸部に貼付帯がめぐらされたもので、貼付帯上には竹管文(5)、棒状工具の側面圧痕による刻み(4・6)が施文されている。地文はLR(5)、RL(4・6)の斜行縄文である。7は底径が9.6cm、胴下半部の径が25cmほどと推定されるものである。底部は大きく張り出しており、RLの斜行縄文を地文としている。10はLRの斜行縄文を地文とした胴部破片である。11は2条1組の沈線をクロスさせており、LRの斜行縄文を地文としている。

石器 12・15は黒曜石製のE類、13は頁岩製のB₂類、14はメノウ製のC類、16は黒曜石の剥片を用いたO1a類、17・18は緑色泥岩製のF類である。12・15は側縁に二次加工を施して刃部としたもので、15は背面にも加工痕がみられる。14は両端が若干磨耗しており、石鏟として使用された可能性もある。16は両側縁に細かい刻痕がみられる。17は身部下半を欠いており、一側縁にはベッキングによる調整痕がみられる。18は身部片面から刃部にかけて欠損しており、側縁から身部下端にかけては剝離調整痕が認められる。

(野中一宏)

H-9 (図17)

台地縁から16mほど離れた平坦面にあり、住居跡群の中で最も北に位置する。Ⅱ黒層上面ではその存在を予想できなかったもののひとつである。平面形は北西-南東方向を長軸とする一辺が長い隅丸方形である。壁は比較的ゆるやかに立ち上がり、床面は硬く踏み固められている。中央部に直径50cm、床面からの深さ10cmほどのピットがある。炉跡ではないかと思われるが焼土は確認できなかった。柱穴や壁沿いの周溝もない。

炭化材は覆土3層下部から床面にかけて出土した。材の出土量は比較的少ないが、遺存状態は良好である。平面的には主に中央部から北側にかけて分布しており、北西-南東方向に向く材が多い。材の種類には丸太、割材があり、他に草本類も認められた。材の中では径2~3cmほどの小径丸太が主体を占めている。草本類は茎の一部で、北東側付近からまとまって検出された。

炭化材以外の遺物は非常に少なく、床面からもわずかにⅠb-4類1点、Ⅲb-2類4点、礫片1点が出土しただけである。床面および覆土の遺物分布は図17に示す。

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| 覆土 1 暗茶褐色(ⅡB>d ₂) | 2 茶褐色(d ₂ >ⅡB) |
| 3 黒褐色(ⅡB>d ₂) | |

遺物 (図17-1~5) 1~3はⅢ群b-2類の口縁部破片である。1・3は頸部に幅広の貼付帯が付されており、1には竹管による円形刺突文が、2には押し引き文が施文されている。2は口唇に縄の圧痕文が施され、RLの原体を斜位に回転押捺して地文としている。5は緑色泥岩製の石斧片である。

(野中一宏)

H-10・17

調査区の東側境界付近、標高22mほどの台地縁にある。2~3mほどの間隔で弧状に並ぶも

ののひとつで、Ⅱ黒層上面の凹みからその存在が予想されていたものである。当初1軒と想定していたが、調査の途中でH-10がH-17を切っているのが確認された。竪穴外の南から東側にかけては竪穴構築時の掘り上げ土が広がっている。また、西側では、H-10構築面の下部からH-18の掘り上げ土も確認された。

覆土の説明についてはまとめて下記に記す。なお1-12層はH-10、13-20層はH-17の覆土、21-22層はH-10の掘り上げ土、23-24層はH-18の掘り上げ土である。また、H-17覆土16層はH-17構築時の掘り上げ土が流入したものである。

覆土1 黒色 (ⅡB>d ₁ >d ₂)	2 黒褐色 (ⅡB>d ₁)
3 暗茶褐色 (ⅡB>d ₁ >d ₂)	4 暗黄褐色 (ⅡB+d ₁)
5 暗橙褐色 (ⅡB>d ₂)	6 暗橙褐色 (ⅡB>d ₂)
7 黒褐色 (ⅡB>d ₁)	8 茶褐色 (ⅡB>d ₁ +d ₂)
9 黒褐色 (ⅡB>d ₁ +d ₂)	10 茶褐色 (焼土)
11 暗茶褐色 (ⅡB>d ₁)	12 黒褐色 (ⅡB>d ₂)
13 暗黒褐色 (ⅡB>d ₁)	14 暗橙褐色 (ⅡB+d ₂)
15 茶褐色 (ⅡB>d ₁ +d ₂)	16 暗黒褐色 (ⅡB+d ₁)
17 黒褐色 (ⅡB>d ₁)	18 明褐色 (焼土)
19 暗橙褐色 (d ₂ >ⅡB)	20 黒褐色 (ⅡB>d ₁)
21 暗黒褐色 (ⅡB>d ₁ >d ₂)	22 暗黒褐色 (ⅡB>d ₁ >d ₂)
23 暗褐色 (ⅡB+d ₁)	24 暗黒褐色 (ⅡB>d ₁ >d ₂)

H-10 (図18・20・21)

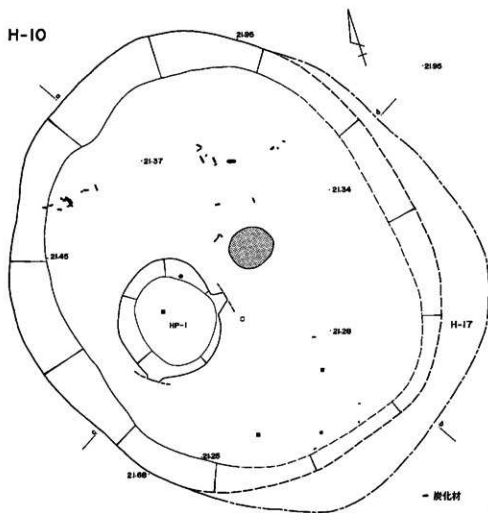
平面形は北西-南東方向を長軸とした楕円形を呈すると思われる。床面は北側の一部がTa-d₂層であるほかはH-17覆土14層中に作られ、壁は緩やかに立ち上がる。中央部からは0.5×0.3mの焼土が検出された。また、焼土西側には北西-南東方向を長軸とする径1.2×1.1m、床面からの深さ30cmほどのピットがある。柱穴や壁沿いの周溝は検出されなかった。

炭化材は主に竪穴北東部と北西壁付近の覆土3層中から6層にかけて検出された。材の大半は丸太と思われるが、遺存状態が悪く判然としない。

炭化材以外の遺物は覆土中から出土したものが多く、覆土出土の遺物の中には下位のH-17覆土中から出土したもの(図20-1)や隣接するH-11・18から出土したもの(図20-13)と接合するケースがみられる。また、図20-3の同一個体片が若干離れたH-16から検出されている。

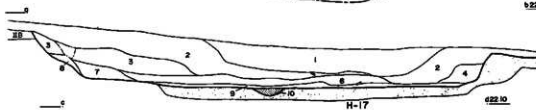
遺物(図20-1-21・図21-22-25)土器 2・3は床面、他は覆土出土のものである。1は口径22cmと推定されるⅢb-3類である。4か所に小型の突起を有し、口縁は比較的肥厚している。肥厚帯上および口唇には押し引き文が施され、口縁下3cmほどには内面に明瞭な突瘤を伴う円形刺突文が2-3cm間隔でめぐらされている。地文は結束第1種の羽状縄文で、口縁部内面にも縄文が施されている。2・4・5・7・12はⅢb-3類の口縁部破片である。口縁部が肥厚するもの(5・12)としないもの(2・4・7)に分かれる。5・12は肥厚帯上に押し引き文が施文され、12には垂下する貼付帯もみられる。2・4は口唇に縄の圧痕文が付

H-10



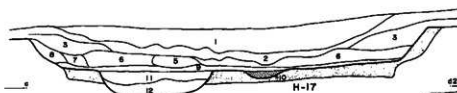
— 炭化材

622.10



H-17

622.10



H-17

621.80

H-17 礫土
— 炭化材

圖18 H-10

されており、内面にも縄文が施されている。7には幅1cmほどの貼付帯が付され、その上には刺突文が施文されている。3・8-11はⅢb-2類である。3は2条1組の沈線に区切られた幅広の貼付帯が付されており、貼付帯上には円形刺突文がみられる。8-10は縄文だけが施されたもので、10の口唇には縄の圧痕文がみられる。11は突起下に4条の沈線が描かれている。6はⅢb-1類の口縁部破片で突起上および口縁の肥厚帯上には半截竹管による刺突文が施文されている。13・14はI群土器で、13はb-3類に、14はb-4類に細分される。

石器 15-17は床面、他は覆土出土である。15は黒曜石のフレイクの一端に加工痕がみられるUフレイク。16・17は緑色泥岩、片麻岩の偏平礫を使用したたたき石で、16は側縁に、17は腹背面に敲打痕がみられる。18は黒曜石製のA₂類石鏃、19-22はスクレイパーである。石材は黒曜石(20)、頁岩(19・21・22)で、19・20が比較的人畜二次加工によって刃部が作出されているのに対し、21・22は縦長の素材の側縁を簡単に加工して刃部としている。23・24は砂岩製の砥石で、23は角礫を素材としている。25は片麻岩の石錘片である。(野中一宏)

H-17 (図19・21)

平面形は東西を長軸とする兩丸形で、南側には一段高いベンチが確認された。このベンチは、南半部の外壁からみてH-10に壊されている北側にもあったものと思われる。南側の外壁の立ち上がりは緩やかであるが、内壁はほぼ直角に立ち上がり、床面は平坦で硬くしまっている。炉跡は中央部にあり、0.7×0.6m、深さ5cmほどの掘り込みを伴う。また、東壁際には0.7×0.6m、深さ10cmほどの付属ピット(HP-1)が作られている。柱穴は9本確認された。支柱穴と考えられるものは1×2mほどの方形に位置するHP-2・3・5・7である。このほか北東から南側の内壁沿いにかけては幅10cm、深さ5cmほどの溝が途切れながらもめぐらされている。

床面から検出された遺物は比較的多く、これらは主に炉跡からHP-1の間に密集している。土器はⅢb-2類が大半を占めており、同一個体の石斧片(図21-13-15)も散乱していた。図示した遺物のうち、3・4は同一個体のもので、H-10やH-16からも破片が出土している。また、6と同一個体の破片はH-15や包含層(図76-126)からも検出されている。

遺物(図21) 土器 1-6はⅢb-3類、8は1b-3類、9は1b-4類に細分される。Ⅲb-2類は縄文だけのもの(1・2)、沈線が描かれたもの(3-5)、縄線文が施されたもの(6)があり、4には竹管文が施文された貼付帯がある。

石器 10はかえしが不明瞭な黒曜石のA₂類。11・12は黒曜石製のE類とOla類。13-15は緑色泥岩製の石斧片で、側縁には剝離調整およびベッキングがみられる。16は砂岩製の偏平砥石。17は安山岩の石皿。使用面はほぼ平坦で多数の凹みがみられる。(野中一宏)

H-11・18 (図22-25)

H-10・17の西隣に位置する。H-11はII黒曜石上面で、わずかな凹みが確認されたことからその存在が予想されていた。H-18は、H-11の調査中に土層断面の観察から検出されたもので、H-11はH-18の跡地を利用して構築されたものである。

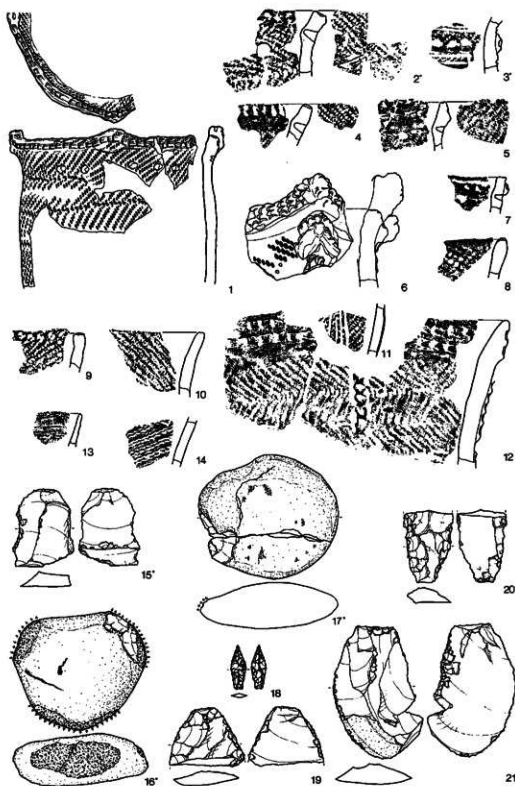


図20 H-10の遺物

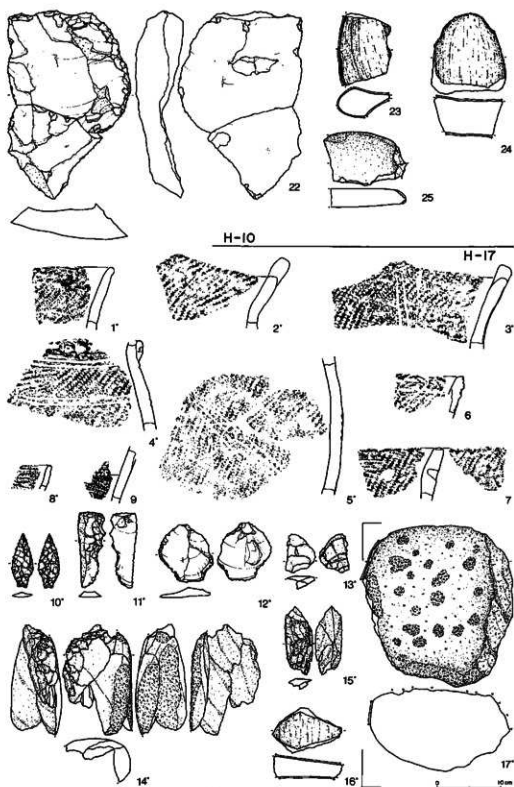


図21 H-10・17の遺物

- | | |
|--|---|
| 覆土 1 黒色 (II黒>d ₁) | 2 黒褐色 (II黒>d ₁ >d ₂) |
| 3 暗茶褐色 (II黒>d ₁ >d ₂) | 4 暗黒褐色 (II黒>d ₁) |
| 5 茶褐色 (II黒<d ₁) | 6 暗褐色 (H-11・F-1・2・3焼土) |
| 7 暗褐色 (II黒>d ₂) | 8 黒褐色 (II黒>d ₁ >d ₂) |
| 9 暗黄褐色 (II黒+d ₂ <d ₁) | 10 暗黒褐色 (II黒>d ₂ , H-18・HP-1) |
| 11 暗褐色 (H-18焼土) | 12 黒色 (II黒>d ₁) |
| 13 黒褐色 (II黒>d ₁) | 14 明黒褐色 (II黒>d ₁ >d ₂) |
| 15 黒褐色 (II黒>d ₁ >d ₂) | 16 明黒褐色 (II黒>d ₁ >d ₂) |
| 17 灰褐色 (d ₁) | 18 黒褐色 (II黒>d ₁) |

H-11

平面形は、北西側が若干突き出た楕円形である。床面はH-18覆土8層中に作られ、南側へ傾斜する。壁高は北側壁で40cm程あり、壁は緩やかに立ち上がる。炉跡は、住居跡の中央部に2か所、さらに西寄りに1か所ある。柱穴および付属ピットはない。掘り上げ土は住居跡周辺に分布し、南側へ広がる。

遺物は覆土中から出土しているものが多く、そのほとんどが土器片である。床面からは土器24点、石器2点のほか、フレイク・チップ、礫が少量出土した。また、図23-6・7は覆土中から出土した破片であるが、H-18覆土8層の破片と接合している。

遺物 (図23) 土器 1は、床面から出土したIV a類の深鉢土器である。口縁部と胴部には細い貼付帯がめぐらされている。2-10は、覆土から出土した破片である。2・3は、III b-2類の口縁部破片。4-8はIII b-3類の破片で、7・8は同一個体と思われる。9はI b-3類の口縁部破片。10はI b-4類の胴部破片である。

石器 11・12は、床面から出土した粘板岩製の石斧と石のみである。13-18は、覆土出土の石器である。17は緑色泥岩製の石斧で、両側縁部に剝離調整が施されている。

H-18

平面形は楕円形である。床面はTa-d₂層中に作られ、中央部が一段低くなる二段構造である。しかし、床面が南側へ傾斜しているため、内壁は北半部しか確認できなかった。炉跡は、中央部にあり、0.8×0.4cmの浅い付属ピット (HP-1) を伴う地床炉である。柱穴は26個確認され、これらはおもにベンチ上の壁沿い、および内壁沿いにめぐらされている。

遺物は、大半が覆土中から検出されている。床面から出土したものは土器片9点とフレイク2点だけである。このうち図25-4は、H-11出土の破片と接合している。また、北側の内壁際より炭化物が少量出土した。

遺物 (図25) 土器 1・2は、床面と覆土出土のIII b-2類復元実測土器である。1は結束羽状縄文を地文とし、口縁部に5-6条の縄線文がめぐる。2はLRの斜行縄文を地文とし、内面にも施されている。口縁部には貼付帯がめぐり、貼付帯上部は大きく外反する。3-9は、覆土8層中から検出されたものである。3は、III b-2類の口縁部破片。4-9は、III b-3類の口縁部および底部破片である。

石器 全て覆土中から出土したものである。14は砂岩製の砥石である。 (森岡健治)

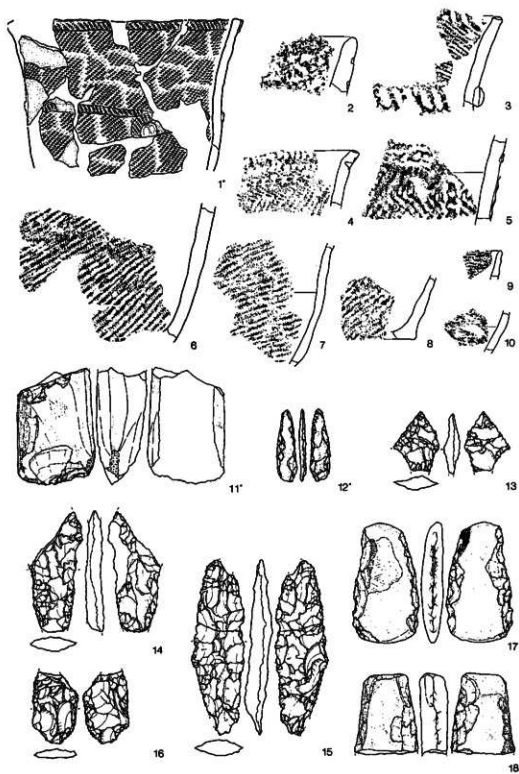


図23 H-11の遺物

遺物 (図25) 土器 1・2は、床面と覆土出土のⅢb-2類復元実測土器である。1は結束羽状縄文を地文とし、口縁部に5～6条の縄縞文がめぐる。2はLRの斜行縄文を地文とし、内面にも施されている。口縁部には貼付帯がめぐり、貼付帯上部は大きく外反する。3～9は、覆土8層中から検出されたものである。3は、Ⅲb-2類の口縁部破片。4～9は、Ⅲb-3類の口縁部および底部破片である。

石器 全て覆土中から出土したものである。14は砂岩製の礫石である。 (森岡健治)

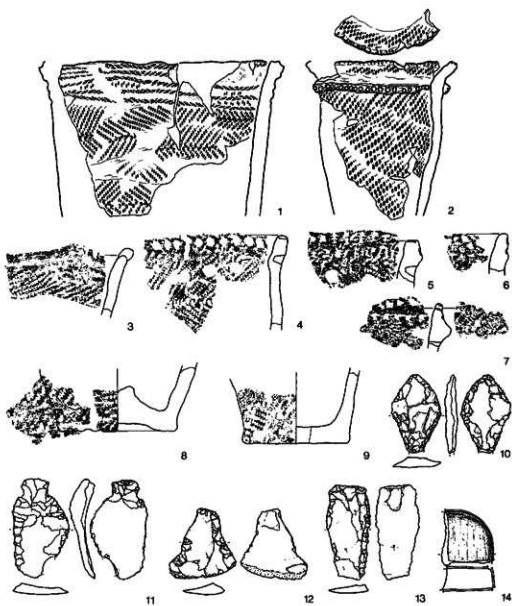


図25 H-18の遺物

H-12・19 (図26~28)

H-13・20の北東側に隣接する。H-12は、Ⅱ黒層上面の浅い凹みからその存在が予想されていた。H-19は、H-12を床面まで掘り下げた段階で確認された。H-12はP-120によって北西側壁を一部切れ、西壁際の上面にはF-2・3がある。

覆土 1 黒色 (Ⅱ黒> d_1+d_2)	2 黒褐色 (Ⅱ黒> d_1)
3 暗茶褐色 (Ⅱ黒> d_1+d_2)	4 茶褐色 (Ⅱ黒> d_1+d_2)
5 黒褐色 (Ⅱ黒> d_1+d_2)	6 黒褐色 (Ⅱ黒> d_1+d_2)
7 暗茶褐色 (Ⅱ黒> d_1+d_2)	8 暗橙褐色土 (Ⅱ黒> d_1+d_2)
9 暗茶褐色 (Ⅱ黒> d_1+d_2)	10 暗茶褐色 (Ⅱ黒> d_1+d_2)
11 茶褐色 (Ⅱ黒> d_1+d_2)	12 暗黄褐色 (Ⅱ黒< d_1)
13 暗黄褐色 (Ⅱ黒< $d_2<d_1$)	14 暗橙褐色 (Ⅱ黒< d_2)
15 暗茶褐色 (Ⅱ黒< d_1)	16 橙褐色 (H-12、焼土)
17 黒褐色 (Ⅱ黒> d_2 、HP-14)	18 暗橙褐色 (Ⅱ黒< d_2)
19 暗黒褐色 (Ⅱ黒> $d_1>d_2$)	20 黒褐色 (Ⅱ黒> d_1+d_2)
21 暗黒褐色 (Ⅱ黒> d_2)	22 黒褐色 (Ⅱ黒> d_2)
23 暗橙褐色 (Ⅱ黒< d_2)	24 暗灰褐色 (H-19、焼土)
25 暗黒褐色 (Ⅱ黒> d_1 、H-8掘り上げ土)	
26 明黒褐色 (Ⅱ黒> d_1 、H-8掘り上げ土)	
27 明褐色 (Ⅱ黒> $d_1>d_2$)	28 明黒褐色 (Ⅱ黒+ d_1)
29 暗黒褐色 (Ⅱ黒> $d_1>d_2$)	

H-12

平面形は、北側が若干突き出た楕円形である。床面はTa-d₂層中に作られ堅く締まっているが、中央部はH-19覆土18・19層中にあるため軟かい。壁高は北側壁が40cm、南側壁が30cm程で、立ち上がりは北側の方が緩い。炉跡はほぼ中央にある。柱穴は13個検出された。このうち、主柱穴と考えられるものはHP-14だけである。支柱穴は、壁沿いにめぐるHP-2~12と考えられる。付属ビットは、北東壁際より1個(HP-1)確認された。

遺物は覆土中から多く出土している。床面からのものは非常に少なく、炉跡周辺から若干出土しただけである。このうち、図28-1・3は同一個体の破片が、H-19の覆土中やH-13の盛土、およびH-14、17、26、29にも見られる。

遺物(図28-1~13) 土器 1~3はⅢb-3類である。1・2は、口縁部に刺突文をもつ。3は口縁部が外反し、胴部に1条の縄線文が施されている。4・5は、口縁部に押し引き文や沈線文が施されるⅢb-2類の破片である。

石器 6は、黒曜石製のA₃類。7・8は頁岩製のD₁類とE類である。10・11は、掘り上げ土中より検出されたF₂類で、10は内厚な素材を敲打し、研磨を施している。12は覆土中から出土したF₃類。13は床面から出土したG₂類で、円礫の周囲に使用痕が見られる。

H-19

平面形は隅丸五角形である。床面は南側へ傾斜しており、やや凹凸であるが堅くしまっている。柱穴は、南側から3個検出された。このうち、HP-2は比較的大きめで、主柱穴と考えられる。また、HP-1、3は壁際より検出されたもので、支柱穴と思われる。

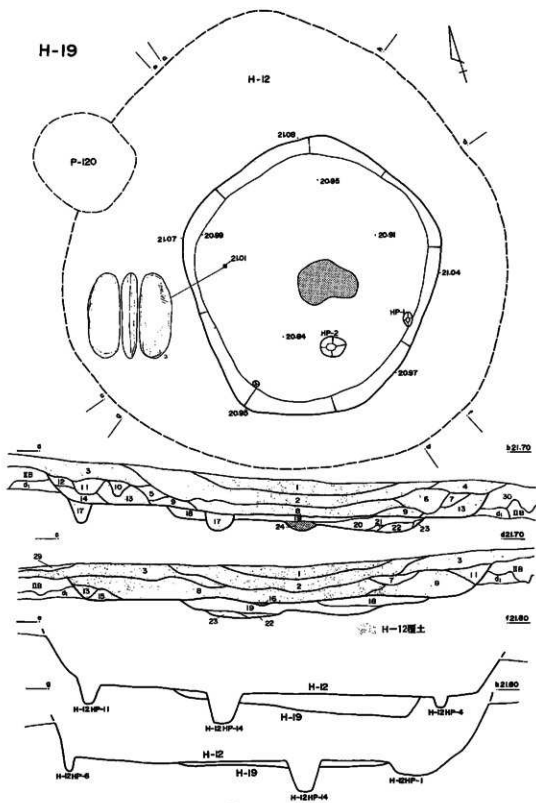


図27 H-19

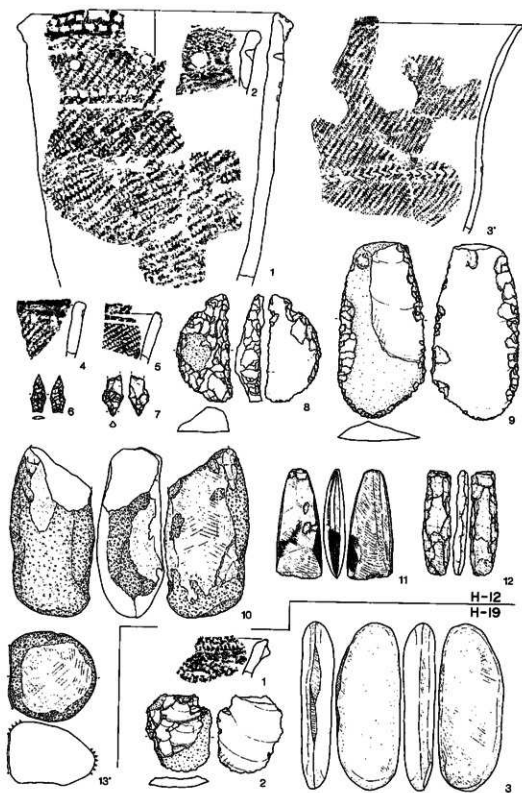


図28 H-12・19の遺物

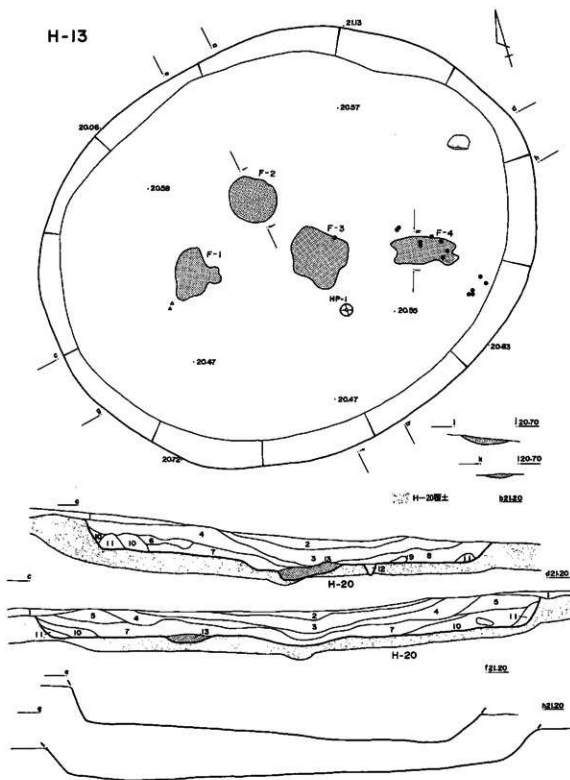


图29 H-13

遺物は非常に少なく、覆土中から土器片10点、石器等12点出土したほか、床面からは石斧の未製品が1点出土しただけである。

遺物(図28-1~3) 土器 1は、口縁の肥厚帯上に刺突文を施したⅢb-1類である。

石器 2は、側縁部に刃角の低い剝離調整痕を有するE類。3は素材を大きく変えることなく、片面端部と側縁の一部に研磨が施されたF₂類の未製品である。(森岡健治)

H-13・20(図29~32)

H-21の西側に隣接する。H-13は、Ⅱ黒層上面の凹みからその存在が予想されていた。

H-20は、H-13の調査中に土層断面の観察から確認された。

覆土 1	明褐色(Ⅱ黒<d ₁ ,掘り上げ土)	2	黒色(Ⅱ黒>d ₁)
3	暗黒褐色(Ⅱ黒>d ₁)	4	黒褐色(Ⅱ黒>d ₁ >d ₂)
5	暗茶褐色(Ⅱ黒+d ₁)	6	暗黒褐色(Ⅱ黒>d ₂)
7	暗茶褐色(Ⅱ黒<d ₁ +d ₂)	8	茶褐色(Ⅱ黒<d ₂ <d ₁)
9	暗黄褐色(Ⅱ黒<d ₁)	10	茶褐色(Ⅱ黒<d ₁)
11	暗橙褐色(Ⅱ黒<d ₂)	12	黒色(HP-1覆土)
13	橙褐色(H-13,焼土)	14	暗茶褐色(Ⅱ黒>d ₁ >d ₂)
15	黒褐色(Ⅱ黒>d ₁)	16	茶褐色(d ₁ >Ⅱ黒>d ₂)
17	黒褐色(Ⅱ黒>d ₂ >d ₁)	18	暗黒褐色(Ⅱ黒>d ₁ >d ₂)
19	黒褐色(Ⅱ黒>d ₂)	20	暗黒褐色(Ⅱ黒>d ₁ >d ₂)
21	茶褐色(Ⅱ黒+d ₁ >d ₂)	22	黒褐色(Ⅱ黒>d ₁)
23	黒色(Ⅱ黒>d ₁)	24	黄褐色(d ₁)
25	黒褐色(Ⅱ黒>d ₁)	26	暗黄褐色(Ⅱ黒<d ₂ <d ₁)
27	橙褐色(焼土)	28	明黒褐色(Ⅱ黒>d ₂ , H-8掘り上げ給土)

H-13

平面形は東西を長軸方向とする楕円形である。床面はH-20覆土18層中に作られ、F-3の周辺が若干凹んでいるほかは平坦で、やや南側へ傾斜する。壁高は北側で約40cm、南側で20cm程であり、立ち上がりは崩落のため緩い。炉跡は中央部の北側、南側、西側と南東寄りの4か所から検出された。焼土の厚さは、F-3が最も厚く14cmある。柱穴は、F-3の南側から1個だけ検出された。深さは12cmである。付属ビットはない。

遺物は覆土や掘り上げ土から出土したほか、床面ではF-4周辺から土器片がいくつかまとまって出土した。

遺物(図31) 土器 1~3はⅢb-3類である。1・2は、床面、覆土1層およびH-20覆土22層から出土した破片で、胎土や文様などから同一個体と考えられる。1・3の口縁部には、刺突文が施される。4・5はⅢb-2類で、口縁部には押し引き文が施されている。

石器 6・7は、床面から出土したB₃類およびM類である。8はチャート質のB₁類。9は急に研磨されたF₂類。刃先は、刃こぼれしている。

H-20

平面形は北西-南東方向を長軸とする楕円形である。床面はTa-d₂層中に作られ、中央部が一段低くなる二段構造になっており、南側へ傾斜する。炉跡は、中央部で検出された付属

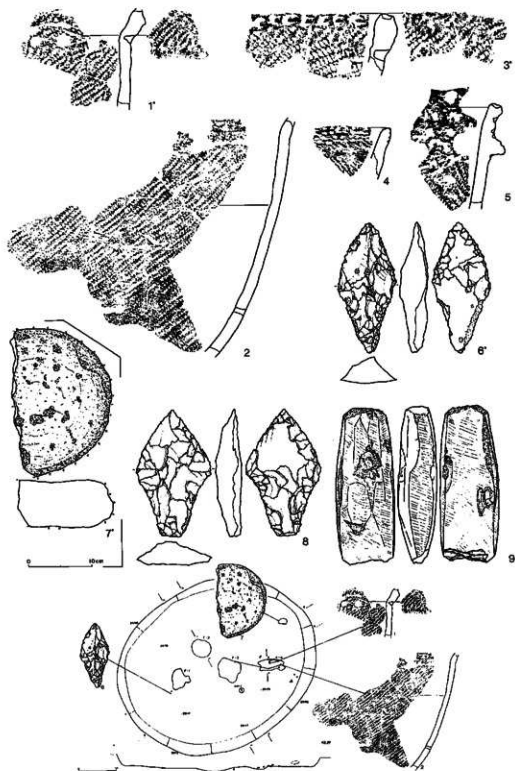


図31 H-13の遺物分布図と遺物

ビット（HP-2）の南側に接して確認された。柱穴は57個検出され、HP-37・50のようなやや大きめで深いものが支柱穴の可能性をもつ。さらに、壁沿いにめぐるHP-4・5・10・12・14・17・18・23・25やベンチ内をめぐるHP-13・15・19・21・22・26などが支柱穴と考えられる。付属ビットは、HP-2のほか、東寄りに浅いビットが2個検出されている。

遺物は、覆土中からⅠb-4類115点、Ⅲb-2類103点、Ⅲb-3類2点、石器等43点が出土した。このうち、図32-1は覆土22層から一括出土したもので、H-21覆土中から出土した破片と接合した。また、図32-5は東壁際からまとまって検出されたが、復元できるまでには至らなかった。床面からは、Ⅲb-2類1点とF類未製品1点が出土しただけである。

遺物（図32） 土器 1～3は、Ⅲb-2類である。1は斜行縄文を地文とする深鉢土器で、底部は欠失している。口縁部には、小突起と貼付帯が3段あり、貼付帯上には縄の圧痕が付く。2は羽状縄文を地文とし、口縁部に二列二段の押し引き文と縦二列の押し引き文が施される。3は、Ⅲb-2類の口縁部破片。4～6は、Ⅰb-4類の胴部破片。

石器 7は素材を大きく変えず、側縁部の剝離調整と若干の研磨が施された石斧である。

（森岡健治）

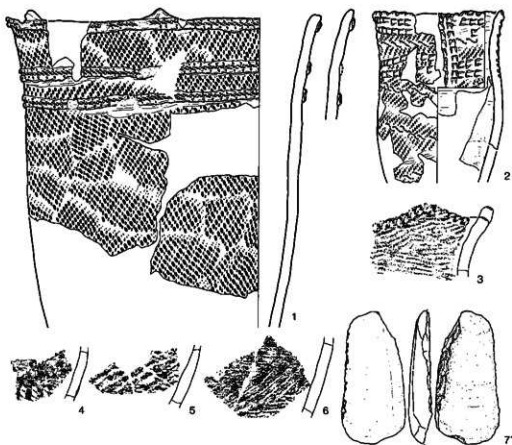


図32 H-20の遺物



図33 H-14掘り上げ土範囲

H-14・22 (図33~36)

本年度調査された住居跡群と昨年度の住居跡群のほぼ中間、標高17~18mの尾根上に位置する。H-14は、Ⅱ黒層上面で浅い大きな皿状の凹地とその周辺に広がる掘り上げ土が確認されたため、当初から大型住居跡が予想されていた(図33)。H-22は、H-14の調査終了後にセクションラインに沿ってトレンチ調査を行なった際、土層観察によって検出された。なお、調査の結果からH-22は、昨年度の住居跡と同様に縄文時代前期に属するものと判明した。

H-14

平面形は円形である。床面はTa-d₂層中に作られ、堅くしまっているが、南側の一部はH-22と重複しているため若干柔かい。炉跡はなく、柱穴は住居跡内部から15個、周辺から7個検出され、主柱穴は方形に、支柱穴は壁沿いにめぐらされていると考えられる。付属ピットはない。

遺物は、覆土中からI b-4類16点、IV a類104点と若干の石器等が出土している。このうち、IV a類は中央のやや南寄りから一括出土した。また、図36-2・3はH-22の覆土中から出土したもの(1)と同一個体である。これは、H-22の覆土中にあったものが、H-14の構築の際に掘り上げられ、再び流れ込んだものと考えられる。

覆土	1 黒色(Ⅱ黒>d ₁)	2 暗黒褐色(Ⅱ黒>d ₁ +d ₂)
	3 黒褐色(Ⅱ黒>d ₁ +d ₂)	4 暗茶褐色(Ⅱ黒>d ₁ +d ₂ 、掘り上げ土)
	5 黒褐色(Ⅱ黒>d ₁ 、掘り上げ土)	6 暗茶褐色(Ⅱ黒>d ₁ +d ₂)
	7 茶褐色(Ⅱ黒>d ₁ +d ₂)	8 暗黒褐色(Ⅱ黒>d ₁ +d ₂)
	9 暗橙褐色(Ⅱ黒<d ₂)	10 暗茶褐色(Ⅱ黒>d ₁ +d ₂)
	11 黒褐色(Ⅱ黒>d ₂)	12 茶褐色(Ⅱ黒>d ₂ +d ₁)
	13 黒褐色(Ⅱ黒>d ₂)	14 暗橙褐色(Ⅱ黒>d ₂)
	15 茶褐色(Ⅱ黒>d ₁ +d ₂ 、掘り上げ土)	16 茶褐色(Ⅱ黒>d ₂ +d ₁ 、掘り上げ土)
	17 暗茶褐色(Ⅱ黒>d ₁ +d ₂)	18 暗橙褐色(Ⅱ黒>d ₂)
	19 黒褐色(Ⅱ黒>d ₁)	20 茶褐色(Ⅱ黒>d ₁ +d ₂)
	21 黒褐色(Ⅱ黒>d ₁ +d ₂)	22 茶褐色(Ⅱ黒>d ₁ +d ₂)
	23 黒褐色(Ⅱ黒>d ₂ +d ₁)	24 茶褐色(Ⅱ黒<d ₁)
	25 暗黄褐色(Ⅱ黒<d ₂ +d ₁)	26 黄褐色(d ₁ >d ₂)
	27 暗茶褐色(Ⅱ黒>d ₁ +d ₂)	28 暗黄褐色(Ⅱ黒<d ₂ +d ₁)

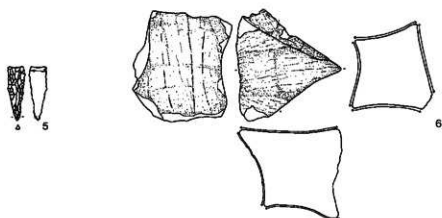
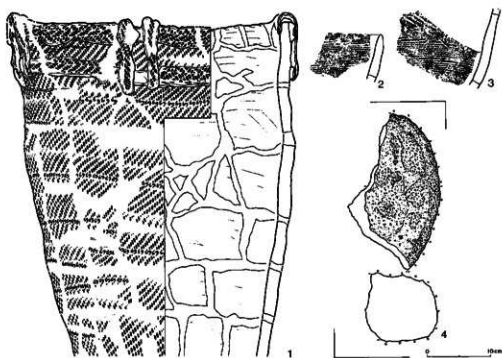
遺物(図36) 土器 1はIV a類の深鉢土器である。底部は欠失している。地文は結束のある斜行縄文が施され、口縁部には二段の貼付帯が横環し、4か所には二本一組で垂下する貼付帯が付されている。貼付帯上には、縄の丘文が施されている。2・3は、I b-4類の同一個体破片で、硬質である。

石器 4は、1と同じ層から出土したM類。5は黒曜石製のC₁類で、断面は三角形である。6は砥面を5面有した砂岩製のK₁類で、よく使いこまれている。

H-22

平面形は隅丸長方形である。床面は北側半分が3層上面、南側がTa-d₂層中に作られている。壁の立ち上がりは、北側壁が急なほかは緩い。炉跡はない。柱穴は、北西隅と南東隅で1個ずつ検出されただけである。

遺物は、床面から石鏃4点とつまみつきナイフ1点が出土したほか、北・西・東の壁際から



H-22

H-14

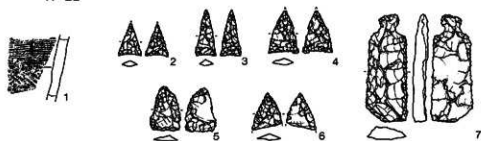


図36 H-14・22の遺物

総数13,248点のフレイク・チップが検出された。

- 覆土 1 黄褐色 (d_1) 2 暗茶褐色 ($\text{II黒} > d_1 > d_2$)
 3 茶褐色 ($\text{II黒} > d_1 > d_2$) 4 暗橙褐色 ($\text{II黒} < d_2$)
 5 黒褐色 ($\text{II黒} > d_2 > d_1$) 6 暗黄褐色 ($\text{II黒} < d_2 < d_1$)
 7 黒褐色 ($\text{II黒} > d_2$) 8 橙褐色 ($\text{II黒} < d_2$)
 9 黒褐色 ($\text{II黒} > d_2$) 10 暗茶褐色 ($\text{II黒} > d_2$)
 11 橙褐色 ($\text{II黒} < d_2$) 12 黒褐色 ($\text{II黒} > d_2$)
 13 暗橙褐色 ($\text{II黒} < d_2$) 14 黒褐色 ($\text{II黒} > d_2$)
 15 暗茶褐色 ($\text{II黒} > d_2$) 16 暗黒褐色 ($\text{II黒} > d_2$)
 17 茶褐色 ($\text{II黒} + d_2$) 18 暗黄褐色 ($\text{II黒} < d_1$)
 19 暗黒褐色 ($\text{II黒} > d_1$) 20 黒褐色 ($\text{II黒} > d_2$)
 21 黄褐色 (Spfl) 22 暗橙褐色 ($\text{II黒} < d_1$)
 23 暗茶褐色 ($\text{II黒} > d_2 > d_1$) 24 茶褐色 ($\text{II黒} > d_2$)
 25 暗橙褐色 ($\text{II黒} < d_2$) 26 暗黒褐色 ($\text{II黒} > d_2$)
 27 黒褐色 ($\text{II黒} > d_2$) 28 橙褐色 ($\text{II黒} < d_2$)
 29 茶褐色 ($\text{II黒} + d_2$) 30 黄褐色 (Spfl)
 31 黒褐色 ($\text{II黒} > d_2$) 32 暗橙褐色土 ($\text{II黒} < d_2$)

遺物 (図36) 土器 1はI b-4類の胴部破片で、H-14出土の2・3と同一個体。

石器 2-6は、黒曜石製のA₄類。7は頁岩製のD₅類である。

(森岡健治)

H-21 (図37)

H-13・20の東側に位置する。平面形は、東西方向を長軸とする若干歪んだ楕円形である。床面はTa-d₂層中に作られ、中央部が大きく凹む。残存する部分には炉跡はなかった。柱穴は西側に4個ある。付属ビットは、東壁に接して検出された。

遺物は、覆土中からI b-4類2点、II b-2類54点、III b-3類84点が出土した。床面からは、III b-3類が2点検出されただけである。

- 覆土 1 黒色 ($\text{II黒} > d_1 + d_2$) 2 黒褐色 ($\text{II黒} > d_1$)
 3 暗黒褐色 ($\text{II黒} > d_1 + d_2$) 4 暗茶褐色 ($\text{II黒} > d_1$)
 5 暗橙褐色 ($\text{II黒} < d_1 < d_2$) 6 茶褐色 ($\text{II黒} < d_1$)
 7 暗橙褐色 ($\text{II黒} < d_2$) 8 黒色 ($\text{II黒} > d_1 + d_2$)
 9 茶褐色 ($\text{II黒} + d_1$)

遺物 1・2は、同一個体の口縁部と胴部下半から底部にかけての破片である。口唇および口縁部には押し引き文、円形刺突文がある。地文は結束羽状縄文である。

(森岡健治)

H-23 (図38)

標高21mほどの緩斜面にあり、住居跡群の中では最も西に位置する。Ta-d₂層上面で確認され、西半分は調査区外に及んでいる。平面形は楕円形と推定される。壁は緩やかに立ち上がる。床面は凹凸でしまりもない。柱穴や炉跡などの施設も検出されなかった。

遺物はすべて覆土から出土した。

- 覆土 1 黒褐色 ($\text{II B} > d_1$) 2 明黒褐色 ($\text{II B} > d_1 > d_2$)
 3 明茶褐色 ($\text{II B} > d_1 > d_2$) 4 明黒褐色 ($\text{II B} > d_1 > d_2$)
 5 暗褐色 ($\text{II B} + d_2$) 6 黒褐色 ($\text{II B} > d_1 > d_2$)

遺物 (図38-1-6) 1-3はIII b-2類の口縁部破片で、1はLR、2・3はRLを地文としている。4はIb-3類、5はIb-4類、6は黒曜石製のE類である。(野中一宏)

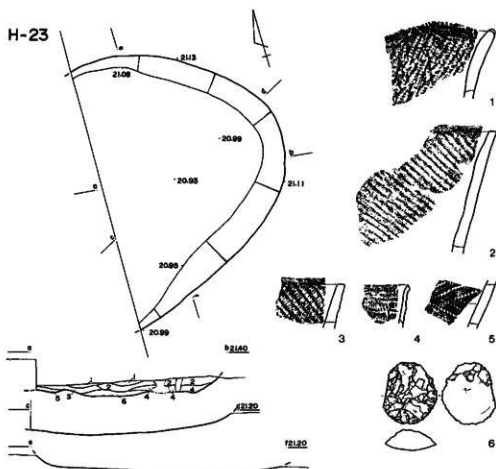


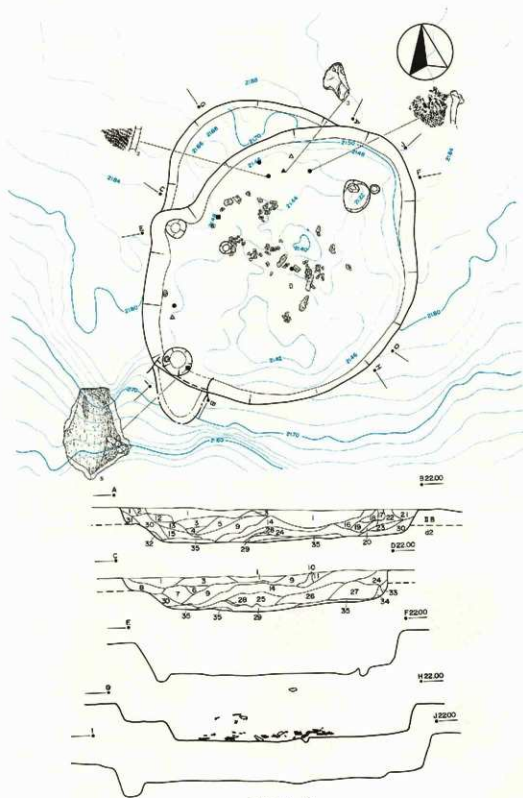
図38 H-23と遺物

H-24 (図39・40)

H-8から南東側へ2mほど離れた地点にある。Ⅱ黒層上面で確認できなかったもののひとつで、覆土上部はH-7・8の掘り上げ土によって覆われている。平面形は北東-南西方向を長軸とする楕円形で、北側に一段高いベンチを有する二段構造となっている。壁は比較急傾斜で立ち上がっており、南西壁の一部は木の根の攪乱によって壊されている。一段低い床面は、若干波打っているが、硬くしまっている。炉跡はなく、北東壁付近から 0.35×0.30 cm、深さ25cmほどの付属ピットが1個（HP-1）検出された。柱穴は7個あり、このうち西壁と南西壁際に配されたもの（HP-4・6）が支柱穴かと考えられる。

炭化材は主に覆土上部と床面付近から出土している。材の出土量は少ないが、遺存状態は良好である。平面的には中央部から北東側にかけて分布している。材の種類には丸太や割材があり丸太が主体を占めている。

炭化材以外の遺物は少なく、床面からはⅢb-2類土器5点を含む11点が出土した。



- 覆土 1 黒褐色 ($\text{II B} > d_1 > d_2$) 2 暗褐色 ($\text{II B} > d_2$)
 3 暗黒褐色 ($\text{II B} > d_1 > d_2$) 4 明黒褐色 ($\text{II B} > d_1 > d_2$)
 5 暗褐色 ($\text{II B} > d_2 > d_1$) 6 茶褐色 ($\text{II B} > d_1 > d_2$)
 7 明褐色 ($\text{II B} + d_2$) 8 明黒褐色 ($\text{II B} > d_1$)
 9 明黒褐色 ($\text{II B} > d_1 > d_2$) 10 褐色 ($\text{II B} + d_2$)
 11 黒褐色 ($\text{II B} > d_1$) 12 黒褐色 ($\text{II B} > d_1 > d_2$)
 13 明黒褐色 ($\text{II B} > d_1 + d_2$) 14 暗赤褐色 ($d_2 > \text{II B}$)
 15 褐色 ($\text{II B} > d_2$) 16 茶褐色 ($\text{II B} > d_1 > d_2$)
 17 明黒褐色 ($\text{II B} > d_1$) 18 暗褐色 ($\text{II B} + d_2$)
 19 暗茶褐色 ($\text{II B} > d_2$) 20 黒褐色 ($\text{II B} > d_1$)
 21 明黒褐色 ($\text{II B} > d_1$) 22 明褐色 ($\text{II B} + d_2$)
 23 茶褐色 ($\text{II B} + d_1$) 24 黒褐色 ($\text{II B} > d_1$)
 25 明赤褐色 ($d_2 > \text{II B}$) 26 暗黒褐色 ($\text{II B} > d_2 > d_1$)
 27 暗茶褐色 ($\text{II B} > d_2 > d_1$) 28 黒褐色 ($\text{II B} > d_1$)
 29 暗赤褐色 ($\text{II B} + d_2 > d_1$) 30 黒褐色 ($\text{II B} > d_1$)
 31 茶褐色 ($\text{II B} > d_1$) 32 暗褐色 ($\text{II B} > d_1$)
 33 暗赤褐色 (d_1) 34 暗黒褐色 ($\text{II B} + d_2$)
 35 暗褐色 ($\text{II B} > d_2$)

遺物 (図40-1~5) 1・2はⅢb-2類の口縁部、胴部破片、3はⅢb-3類の口縁部破片である。3の口縁は肥厚せず、口唇および口縁部には押し引き文が施文されている。4は黒曜石製の01の類、5は安山岩のM類の破片である。5の使用面は平坦で、一部に敲打痕が認められる。

(野中一宏)

H-26 (図41-42)

H-8の北西側に位置し、Ta-d₂層上面で確認された。南側壁の上部は風倒木痕によって壊されている。平面形は、北西-南東を長軸とする楕円形である。床面は平坦で、堅くしまっている。壁は南側壁以外、比較的急な傾斜で立ち上がる。炉は中央にある。柱穴は4個確認さ

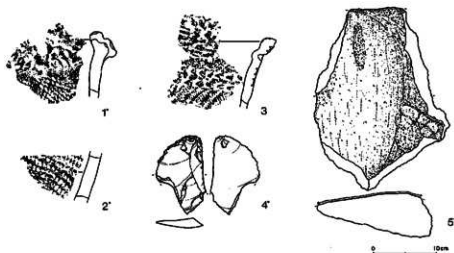


図40 H-24の遺物

れた。深さはいずれも5cm内外である。南側を除く壁際には周溝がある。付属ピットはない。
北東壁際より、Ⅲb-2類の深鉢土器(1)が倒立した状態で検出された。底部はない。
周辺の床面直上からは、石斧片2点、すり石1点、台石1点と同一個体のⅢb-2類土器片15点(2)が出土しており、図42-2はH-8の盛土中からの破片とも接合した。

炭化材は、主に覆土25層から床面直上にかけて検出された。炉跡より西側に分布し、特に中心部と南西部に集中する。材の遺存状態は悪い。種類の判別できた材は、割材、丸太、小径丸太で、草本類、樹皮等は確認されなかった。丸太は、覆土中から床面にかけて多く出土したが、割材の多くは25層から床面直上にかけて検出されている。

- 覆土 1 黒褐色(黒色土) d_2 、風倒木痕) 2 褐色(c_2 、風倒木痕)
3 黒色(風倒木痕) 4 橙褐色(d_2)
5 黒褐色(Ⅱ黒 d_1+d_2) 6 暗橙褐色(Ⅱ黒 d_2)
7 橙褐色(d_2) 8 暗黒褐色(Ⅱ黒 d_1+d_2)
9 暗橙褐色(Ⅱ黒 $d_2>d_1$) 10 黒褐色(Ⅱ黒 $d_2>d_1$)
11 暗黒褐色(Ⅱ黒 d_2) 12 暗橙褐色(Ⅱ黒 d_2)
13 黒褐色(Ⅱ黒 d_1) 14 黒褐色(Ⅱ黒 d_1)
15 暗茶褐色(Ⅱ黒 d_1+d_2) 16 暗黒褐色土(Ⅱ黒 d_2)
17 黒褐色(Ⅱ黒 $d_2>d_1$) 18 暗茶褐色土(Ⅱ黒 d_1)
19 黒色(Ⅱ黒 d_1) 20 暗橙褐色土(Ⅱ黒 d_2)
21 茶褐色(Ⅱ黒 d_1+d_2) 22 暗橙褐色(Ⅱ黒 d_2)
23 黒色土(Ⅱ黒) 24 黒色土(炭化材を含み、ボソボソする)
25 黒色土(Ⅱ黒 d_2 、炭化材を含む) 26 黒色土(Ⅱ黒)、炭化材を含む

遺物(図42) 土器 1・2はⅢb-2類の深鉢土器である。1は、推定口径20cm、口縁部は外反し、LRの斜行縄文を地文としている。2は、口径23cmほどと推定される。胴部が膨らみ、口縁部は外反する翻形で、地文はRLの斜行縄文である。

石器 2は床面出土の石斧片接合図である。熱破壊のため、変色している。4は、偏平礫を素材としたすり石で、両端部に剝離調整痕を有する。(森岡健治)

表3 住居跡一覧

名称	位置	平面形	大きさ(m)		長軸方向	溝・溝跡	その他
H-7	H7-20-20-20-21	楕円形	6.92×5.91	8.66×5.72	0.54	N-63°-E	H-8より断れる 大気作層
H-8	H8-25-25-25	*	6.48×8.21	8.84×7.70	0.60	N-27°-E	H-15-16に切られる 大気作層
H-9	H7-10-20-16-18-20	楕円形	2.71×2.42	2.52×2.37	0.19	N-58°-W	H-12-5° 大気作層
H-10	H7-48-48-50-52	楕円形	4.87×4.30	4.85×3.51	0.46	N-12.5°-W	H-17-4° *
H-11	H7-28-37-38	*	5.41×4.71	4.92×4.31	0.62	N-22.5°-W	H-18-5° *
H-12	H7-17-27-28	*	4.82×4.89	4.27×4.14	0.43	N-30.5°-W	H-19-5° *
H-13	H7-15-25-14-26	*	5.39×4.97	4.33×3.95	0.53	N-78°-E	H-20-5° *
H-14	H7-20-30-21-31	円形	5.26×5.12	4.96×4.75	0.41	-	H-22-5° *
H-15	H7-20-19	楕円形	1.63×1.62	1.45×1.50	0.11	N-56°-E	H-8-5° 大気作層
H-16	H7-19	楕円形	3.59×3.90	3.28×2.53	0.63	N-10°-W	H-16-5° *
H-17	H7-48-49-50-52	楕円形	3.66×3.10	3.64×2.87	0.62	N-96°-E	H-10に切られる *
H-18	H7-28-37-38	楕円形	5.43×4.93	4.96×4.52	0.64	N-33.5°-W	H-11に切られる *
H-19	H7-17-27	楕円形	2.97×2.73	2.83×2.46	0.53	N-33°-E	H-12に切られる *
H-20	H7-20-15-25-30-16-26	楕円形	7.37×6.76	7.14×6.30	0.93	N-25.5°-W	H-13に切られる 大気作層
H-21	H7-26-36	*	3.52×2.41	3.22×2.04	0.53	N-96°-E	- *
H-22	H7-26-36	楕円形	5.15×3.14	4.54×3.30	0.60	N-86°-E	H-14に切られる *
H-23	H7-26-36	楕円形	5.43×4.93	4.96×4.52	0.64	N-33.5°-W	H-11に切られる *
H-24	H7-28-29	楕円形	3.17×2.86	2.94×2.60	0.58	N-62°-W	- 大気作層
H-25	H7-28	*	2.80×1.32	1.60×1.09	0.30	N-80°-W	- *

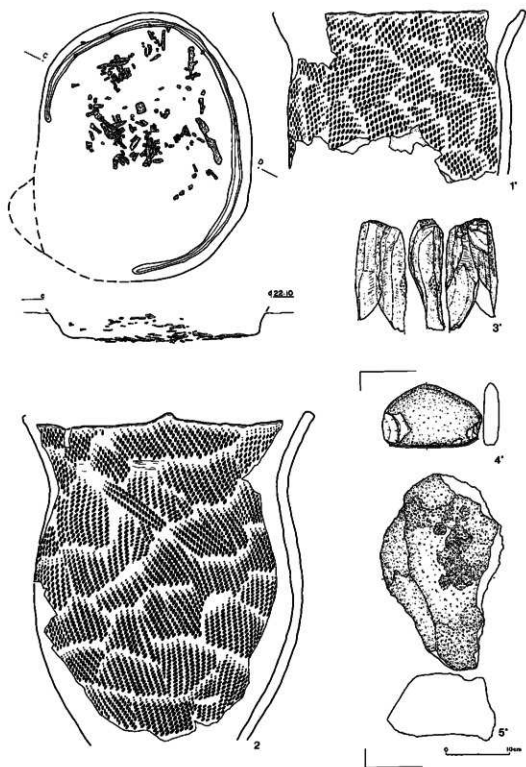


图42 H-26炭化材出土状況図と遺物

表4 住居跡の遺物一覧

No.	I										II										III										IV										Σ
	A					B					C					D					E					F					G					H					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35						
0-1	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-2	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-3	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-4	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-5	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-6	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-7	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-8	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-9	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-10	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-11	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-12	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-13	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-14	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-15	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-16	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-17	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-18	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-19	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-20	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-21	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-22	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-23	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-24	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-25	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-26	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-27	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-28	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-29	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-30	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-31	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-32	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-33	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-34	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-35	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-36	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-37	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-38	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-39	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-40	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						
0-41	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5						

表5 住居跡の実測・推定復元土器一覽

層番号	図番号	名称	分	層位	大 小 身 (m)			備 考
					幅	口	深	
H-7	B-1	溝底	Ⅲ-b-2	床	(30.0)	(36.4)	—	
—	—	—	—	—	(30.4)	(18.0)	—	H-7-17出土と整合
H-8	14-1	—	Ⅲ-b-2	壁土	(12.5)	(21.0)	—	推定還元H-16・H-7-18・H-7-26出土と整合
H-10	20	—	Ⅲ-b-3	—	(16.4)	(20.0)	—	H-17出土と整合
H-11	23-1	—	Ⅲa	床	(16.4)	—	—	
H-12	28-1	—	Ⅲ-b-3	壁土	—	(21.9)	—	推定還元H-13・H-7-14・H-7-17・H-7-26出土と整合
H-14	36-1	—	Ⅲa	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	—	—	(9.6)	推定還元
H-18	25-1	—	Ⅲ-b-2	床	—	—	—	H-7-39出土と整合
—	—	—	—	—	(16.3)	(36.0)	—	
—	—	—	—	—	(16.8)	(28.0)	—	
H-20	32-1	—	—	—	(33.5)	(33.5)	—	H-13・H-21出土と整合
—	—	—	—	—	(18.1)	14.0	—	H-13・H-7-27出土と整合
H-21	37-2	—	Ⅲ-b-3	—	—	—	11.0	推定還元
H-24	42-1	—	Ⅲ-b-3	床	(17.9)	(28.0)	—	
—	—	—	—	壁土	(34.7)	(31.0)	—	H-8-17-20-19-31出土と整合

表6 住居跡の掲載拓影土器一覧

[illegible]

[illegible]

表7 住居跡の掲載石器一覧

[illegible]

2) 土壌 (図43~47)

今年度の調査では19個検出された。これらは調査区南半部に集中しており、おもに住居跡群周辺とJ 5-59区を中心とした縄文時代早期末~前期の遺物が集中する地区周辺(調査区中央部)に分布している。時期が判明した土壌は4個あり、その内訳は縄文時代前期1個(P-124)、中期1個(P-130)、晩期2個(P-120・129)である。以下、住居跡群周辺の一群と調査区中央付近にある一群に分けて記す。なお、各土壌の覆土の土層説明は図中に記載している。

住居跡群周辺の一群 (P-113~118・120・125・126・130)

本群は11個からなり、縄文中期、晩期の土壌も本群に属する。平面形は円形、楕円形、隅丸方形を呈しており、その内訳は2個(P-115・118)、8個、1個(P-124)である。

円形のものは直径50cmほどの小型の土壌である。このうちP-115は二段構造で、減底部が尖っており、杭を打ち込んだような形態である。楕円形の土壌はP-130を除き、いずれもTa-d₂層をわずかに掘り込む比較的浅いものである。規模はP-120・129が長径1mほどであるほかは長径が50~70cm程度である。P-130はH-8構築面から掘り込まれ、H-7に東側上半部を切られている。また、P-120・129は両者とも中期の住居跡を、P-117は風倒木痕を切っている。遺物が出土した土壌は4個(P-113・120・125・126)があるが、これらから検出された遺物はいずれも焼絶後に混入したものである。このうちP-120-1(図45)のVc類土器は、塚口付近にまとまって出土した同一個体のひとつである。隅丸方形の土壌は一辺が1.4mほどあり、19個の土壌のうち最大であるが、時期、用途は不明である。

調査区中央部付近に分布する一群 (P-111・119・121~124・127・128)

本群には8個あり、縄文前期の土壌(P-124)もこの中に含まれている。平面形は円形または楕円形で、それぞれ4個ずつあるが、P-123・124を除き時期、用途ともに不明である。

円形の土壌は遺物集中地区に2個(P-123・124)、その南寄りに2個(P-111・119)ある。P-123はT-28を切っており、構造的にはP-115に近似している。P-124はⅡb類土器を伴うもので、これらは減底からまとまって検出された。P-119は壁下部がオーバーハングするフラスコ状の土壌である。楕円形の土壌(P-121・122・127・128)はいずれも深さ10~20cmほどの浅いものである。P-121はT-20に切られた比較的大型の土壌である。

遺物 P-113-1・2は明褐色~黄褐色を呈した掌大の焼成粘土塊の破片で、指圧痕がみられる。P-119-1はⅡb-4類の胴部破片。P-120-1は口唇および口縁に刺突列を有するVc類深鉢片。同2はLRの斜行縄文を地文とするⅢb-2類胴部片。P-122-1は2条一組の燃糸文が施文されたⅡb-4類胴部片。P-124の1・2は同一個体のⅡb類土器。推定口径28cm、底径15cmで口縁部には幅1.5cmほどの貼付帯がめぐらされている。地文は羽状縄文。同3は長軸に打ち欠きをもつと思われる片麻岩製のN類片。P-125-1は微隆起縁が施されたⅡb-3類胴部片。同2はLRの斜行縄文を地文とするⅢb-3類胴部片。P-127-1はⅡb-4類胴部片。同2は黒曜石のフレイクの一端に細かい刺痕がみられる。

(野中一宏)

表8 土壌一覧

美沢11

名称	位置	平面形	規模 (m)			長軸方向	備考
			横断面	縦断面	最大深		
P-111	J ₁ -24	(円形)	0.30×—	0.23×—	0.10		
P-113	I ₁ -05	楕円形	0.57×0.44	0.45×0.30	0.16	N-45.5°W	
P-114	I ₁ -95	*	0.69×0.54	0.59×0.43	0.14	N-70.5°E	
P-115	I ₁ -14	円形	0.45	0.07	1.00		
P-116	I ₁ -23	楕円形	—	—	0.34	—	
P-117	I ₁ -12-22	*	0.73×0.61	0.60×0.53	0.06	N-70.5°W	
P-118	I ₁ -14	円形	0.50×0.47	0.37×0.36	0.11		
P-119	J ₁ -15	*	0.74×0.70	0.54	0.51		
P-120	H ₁ -17	楕円形	(1.05)×0.95	0.76×0.61	0.55	N-21.5°W	H-12を切る
P-121	K ₁ -30	*	1.53×0.81	1.38×0.71	0.09	N-45°W	T-20に切られる
P-122	J ₁ -59	*	1.53×0.81	1.38×0.71	0.09	N-48°E	
P-123	K ₁ -50	円形	0.30×(0.29)	0.07×0.05	1.38		T-28を切る
P-124	J ₁ -68-78	*	(0.51)	0.45×0.44	0.19		
P-125	H ₁ -36-37	隅丸方形	1.40	1.28×1.21	0.30	N-24°W	
P-126	H ₁ -17-27	円形	0.80×0.74	0.67	0.10	—	
P-127	J ₁ -69	楕円形	0.63×0.47	0.46×0.33	0.16	N-56°E	
P-128	K ₁ -60-61	*	0.35×0.27	0.21×0.17	0.14	N-15°E	
P-129	I ₁ -00	*	(0.96)×(0.89)	0.59×0.47	0.62	N-57.5°W	H-8を切る
P-130	I ₁ -10-20	*	(0.86)×(0.80)	0.60×0.42	0.75	N-29°E	足跡に当たる土層が位置する

表9 土壌の遺物一覧

遺構 番号	土 器					石 器 類					土製品	計
	Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ	Ⅴ	Ⅶ 群		Ⅹ	Ⅺ群		
	a	b	c	d			1	2				
番 号	3	4	b	2	3	C	1 a	1-2	0	1	N	
P-113												2
P-119		1										1
P-120				6	300		3					309
P-122		2										2
P-124		2	42							2	1	47
P-125	7				4					1		12
P-126									1			1
P-127		2					1					3
計	7	7	42	6	4	300	1	3	1	3	1	377

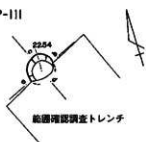
表10 土壌の掲載拓影土器一覧

図番号	遺構番号	分類	部位	層位	備考	図番号	遺構番号	分類	部位	層位	備考
44-1	P-119	I b-4	胴	覆土		46-2	P-124	II b	底	覆土	
45-1	P-120	VC	口	*		47-1	P-125	I b-3	胴	*	
46-1	P-120	II b-2	胴	*		47-2	P-125	II b-3	*	*	
47-1	P-122	I b-2	胴	*		47-3	P-127	I b-4	*	*	
48-1	P-124	II b	口	*							

表11 土壌の掲載石器一覧

図番号	遺構番号	名称	分類	大きさ (cm)	重さ (g)	材質	層位	備考
43-1	P-113	土製品	—	6.6×5.2×3.3	46.1		覆土	焼成粘土塊
44-2	P-113	*	—	5.0×4.8×2.8	34.1			*
46-3	P-124	石 錘	N	5.1×6.9×2.1	90.4	CaI	*	
47-2	P-127	Uフレイク	Ol a	2.1×3.2×0.8	4.2	Obs	*	

P-111

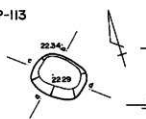


P-111
1 高台 (1 B)
2 深溝 (1 B + d1)

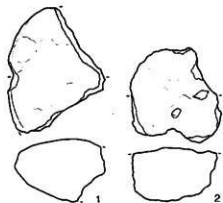


総面積調査トレンチ

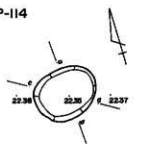
P-113



P-113
1 高台 (1 B > d1 > d2)

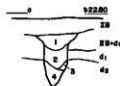
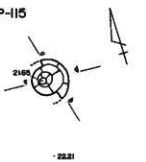


P-114



P-114
1 高台 (1 B > d1 > d2)
2 高台 (1 B > d1)
3 高台 (1 B)
4 高台 (1 B > d1 + d2)

P-115



P-115
1 高台 (1 B > d1)
2 高台 (1 B > d1)
3 高台 (d1 + d2)
4 高台 (1 B > d1)

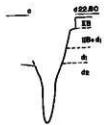
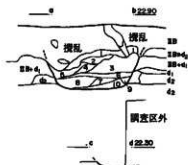
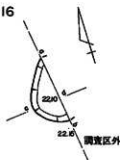


図43 P-111・112・113・114・115と遺物

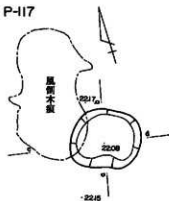
P-116



P-116

- 1 調査地 (1 B > d₁)
- 2 調査地 (d₁)
- 3 調査地 (1 B + d₁ > d₂)
- 4 調査地 (d₁ > 1 B + d₂)
- 5 調査地 (1 B > d₂)
- 6 調査地 (1 B > d₁)
- 7 調査地 (1 B + d₁ + d₂)
- 8 調査地 (1 B > d₁ + d₂)
- 9 調査地 (d₁)
- 10 調査地 (1 B + d₁ > d₂)

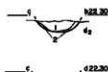
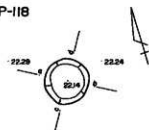
P-117



P-117

- 1 調査地 (1 B > d₁ > d₂)

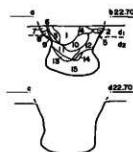
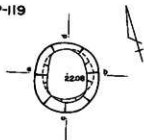
P-118



P-118

- 1 調査地 (1 B > d₁)
- 2 調査地 (1 B < d₁)

P-119

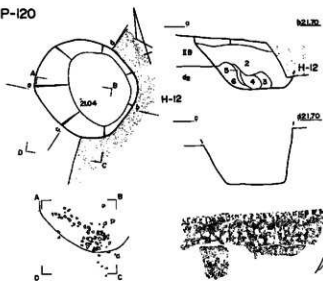


P-119

- 1 調査地 (1 B + d₁ > d₂)
- 2 調査地 (1 B > d₁)
- 3 調査地 (1 B > d₁)
- 4 調査地 (1 B + d₁)
- 5 調査地 (d₁ > 1 B)
- 6 調査地 (1 B + d₁)
- 7 調査地 (d₁)
- 8 調査地 (1 B > d₁)
- 9 調査地 (d₁)
- 10 調査地 (1 B > d₁)
- 11 調査地 (1 B > d₁)
- 12 調査地 (1 B > d₁)
- 13 調査地 (d₁)
- 14 調査地 (1 B + d₁)
- 15 調査地 (1 B)

図44 P-116・117・118・119と遺物

P-120



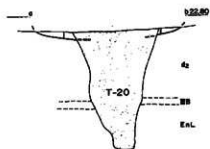
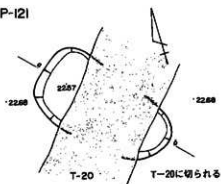
H-12を切る

P-120

- 1 黒色 (E 8)
- 2 黒色 (E 8 > d₁ > d₂)
- 3 暗褐色 (E 8 > d₁ > d₂)
- 4 暗褐色 (E 8 > d₁ > d₂)
- 5 褐色 (d₁ > d₂)
- 6 暗褐色 (d₁ + d₂ > E 8)

横口部のV群c層土器出土状況図

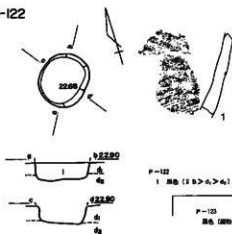
P-121



P-121

- 1 黒褐色 (E 8 > d₁ > d₂)

P-122



P-123

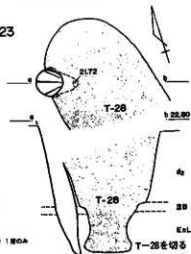
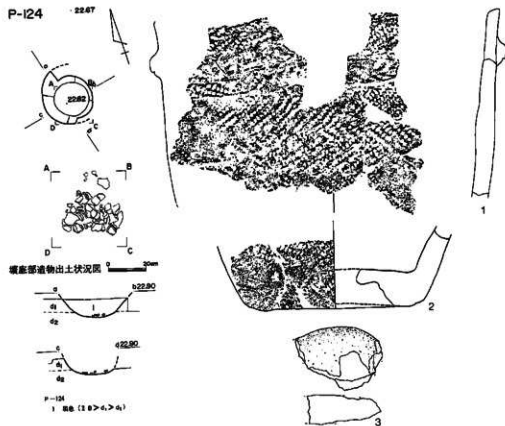


図45 P-120・121・122・123と遺物

P-124

22.67



P-125

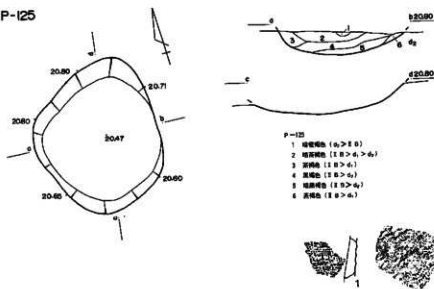
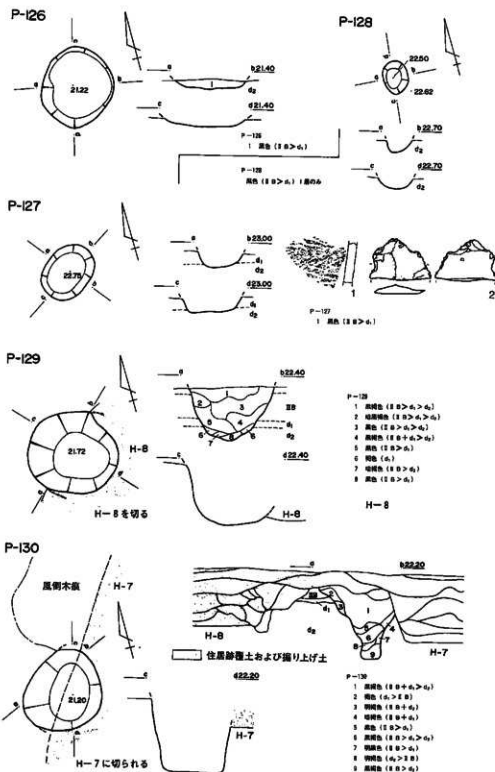


图46 P-124・125と遺物



3) Tピット (図48～図66)

34個検出されたTピットは、昨年度の調査区に隣接する斜面中腹にある1個を除き、いずれも台地上に位置する。台地上のTピットはその分布域から、調査区南半部に分布する一群と調査区北端付近に分布する一群とに分かれ、ほとんどが列をなしている。以下、群ごと、列ごとに分けて記す。なお、各Tピットの土層説明は図中に記載している。また、各土層断面図中のスクリーン・トーンはすべて図48に示す凡例に従っている。

(i) 斜面中腹にあるTピット (T-25)

T-25は今年度検出されたTピットの中で唯一、小判形タイプに属するものである。標高19mほどの比較的急な斜面に作られている。墳底面の長幅比は2.0で、その中央部からは径11cmの杭穴が確認された。覆土の堆積状態は主に黒色土(Ⅱ黒)を多く含む土が互層をなしており、その間に $Ta-d_2$ を主体とする土が流れ込んでいる。このような堆積状態は台地上に分布する一群の中には全く認められない。

(ii) 調査区南半部に分布する一群 (T-4～24・26・28・29)

本群からは24個検出された。これらはいずれも溝状の細長いタイプのもので、その長軸方向から大きく、等高線に直交するように作られて並ぶ一群と等高線に平行するように作られたものがある。前者は主に5列のTピット列(A～E列)で構成されている。

a) 等高線に直交する一群

A列 (T-4～6)

A列は本群の中で最も南側に並ぶ一群で、3個からなる。列の間隔は15～18mほどあり、本群の中で最も長い間隔で並ぶ。長軸方向は $N-52^\circ-E$ (T-4) ～ $N-78^\circ-E$ (T-6) 内にある。墳底面の長幅比は8.5 (T-5)、9.3 (T-6)、9.9 (T-4) で、杭穴を伴うものはない。覆土の堆積状態は主に下部では黒色土(Ⅱ黒主体)と $Ta-d_2$ 主体の土とが互層をなし、上部に厚く黒色土が堆積するパターンである。これらの横断面形はU字型であったと考えられるが、壁の崩落により上部が大きく開くY字型となっている。

B列 (T-8・9・12・13・18・20・26・29)

B列は8個からなり、調査区中央付近の標高22.5m～22.7mほどに並ぶ一群である。列は北側のT-20からT-26までが調査区西側のラインとほぼ平行する北西～南東方向に並び、T-12からT-8にかけて東側へ大きくカーブしている。また、最も間隔が広いT-18・T-29間で後述するC列と交差している。列は大半が5～6mの間隔で並んでおり、前述のT-18・T-29間およびT-13・20間が11mほどと長くなっている。長軸方向は $N-7^\circ-W$ (T-8) ～ $N-57^\circ-E$ (T-26) 内にある。墳底面の長幅比は平均7.5で、最小は4.3 (T-8)、最大は11.3 (T-12) である。このうちC列に属するT-14～16・19と交錯しているT-13・29の覆土上部からは、これらの掘り上げ土と考えられる $Ta-d_2$ や EnL を主体とする土がレンズ状に認められた。このことからみて、後述するC列はB列埋没後に作られた可能性が高い。覆土の堆積状態は上述の2個を除きA列と大差ない。また、壁上部の崩落

も A 列同様認められる。

C 列 (T-14~17・19・21)

C 列は 6 個からなり、調査区中央部で B 列と交錯している。列は北西-南東方向に並び南側に位置する T-17・T-19 で大きく東側にカーブする。列の間隔は一定ではなく、最も短いところ 3 m (T-14・T-15 間)、最長では 12 m ほど (T-15・T-21 間) ある。長軸方向は N-18°-W (T-17) ~ N-45°-E (T-16) 内にある。墳底面の長幅比は平均 8.2 で、最小は 7.7 (T-14)、最大は 8.9 (T-15) あり、確認された列の中では最も長幅比の変化が低いグループである。覆土の堆積状態および横断面形は他の列のものと大差ない。

D 列 (T-7・11)・E 列 (T-10・23・24)

D 列は 2 個、E 列は 3 個からなると判断したが、前述の A ~ C 列に比べて若干不明瞭である。D・E 列は B 列南側の標高 22.4 m 付近にあり、D 列の間隔は 12 m、E 列の間隔は 2 m (T-23・T-24 間) と 12 m (T-10・T-24 間) である。長軸方向は D 列が N-10°-E (T-7) と N-61°-E で、E 列が N-26.5°-E (T-23) ~ N-45°-E (T-10) 内にある。D・E 列の新旧関係は、T-10 が D 列に属する T-11 を切っていることから、E 列の方が新しい。また、E 列に属する T-24 の覆土上部には T-23 の掘り上げ土と考えられる Ta-d₂ を主体とする土が認められた。墳底面の長幅比は D 列が 8.2 (T-7)・3.9 (T-11)、E 列が 13.5 (T-23)・7.8 (T-24) である。このうち T-11 は、検出された T ビットの中で最も大きく、深いものである。墳底面の形状は、中央部がくびれるひょうたん形となっている。しかし、これは壁の崩落によるもので、本来は 40 cm ほどの幅であったと推定される。

b) 等高線に平行な一群 ((T-22・28))

T-22・T-28 は単独で検出されたものであるが、前述の一群同様、列を構成するもののひとつである可能性が高い。長軸方向はどちらも北西-南東方向で、T-28 は P-123 にその一部を切られている。墳底の長幅比は T-22 が 10、T-28 が 7.1 である。このうち、T-22 からは墳底中央部と南側に径 10 cm ほどの杭穴が検出された。覆土の堆積状態や横断面形は他の列のものと大差ない。

(iii) 調査区北端付近に分布する一群 (T-1~3・31~35・37)

本群からは 9 個検出され、いずれも溝状の細長いタイプで、等高線に対して直交する列 (F・G 列) と平行するものがある。また、周辺からは、これらの T ビットの掘り上げ土と考えられる Ta-d₂ 混りの黒褐色~暗褐色土の広がり 11 m 所認められる。

a) 等高線に直交する一群

F 列 (T-1~3・31~33)

F 列は 6 個からなり、標高 22.3 m ほどに並んでいる。列の間隔は最も長いところ (T-2・T-33 の間) で 10 m、他は 6 m 前後である。長軸方向は N-12°-E (T-3) ~ N-57.5°-E (T-32) 内にある。墳底の長幅比は平均 9.8 で、最小は 6.9、最大は 14.3 である。杭穴を伴うものはない。覆土の堆積状況や横断面形は他と大差ない。

G 列 (T-34・35)

G 列は 2 個からなり、F 列の方向とは 90° ほど異なり、個々の長軸方向は N-16.5°-W (T-34)、N-13°-W (T-35) である。竪底の長幅比は T-34 が 11.5 である。T-35 は覆土上部に他の T ビットの掘り上げ土と思われる Ta-d₂ と EnL の混土が認められた。

b) 等高線に平行な T ビット (T-37)

T-37 は南半部にある T-22・28 と同様に列をなす可能性が高い。長軸方向は N-74°-W と 34 個中最も西に偏っており、竪底の長幅比も 15.1 と最も大きい。

遺物 (図 65・66) 34 個の T ビットから検出された遺物は 310 点あり、その内訳は表 13 に示す。このうち、B・C 列の一部は J 5-59 区を中心とした縄文早期末～前期の遺物集中地区を切っており、その覆土上部からは I b-4 類土器やこの時期の石器類が検出されている (T-13～15・20・29)。(野中一宏)

表 12 T ビット一覧

名 称	位 置	平面図	縦 横 (m)			長軸方向	備 考
			確 認 面	底 面	最大深		
T-1	K ₁ -86・89	長方形	2.56 X 0.94	2.16 X 0.18	1.34	N-46.5°-E	
T-2	K ₁ -96・K ₁ -08	*	(2.61) X 1.09	2.28 X 0.26	1.48	N-48°-E	他の T ビットの掘り上げ土に埋め込まれる。
T-3	K ₁ -27・28・37・38	*	2.51 X 0.88	2.15 X 0.15	1.47	N-12°-E	
T-4	I ₁ -06・07	*	2.34 X 0.82	1.98 X 0.20	1.29	N-52°-E	
T-5	I ₁ -69・79・J ₁ -69・70	*	2.25 X 0.95	1.95 X 0.23	1.42	N-74°-E	
T-6	J ₁ -32	*	2.62 X 1.27	2.13 X 0.23	1.44	N-78°-E	
T-7	J ₁ -22・32	*	2.67 X 1.00	2.63 X 0.32	1.42	N-10°-E	
T-8	J ₁ -35	*	2.17 X 1.22	1.38 X 0.32	1.43	N-7°-W	
T-9	J ₁ -14・15・24・25	*	2.14 X 1.15	1.87 X 0.26	1.45	N-22°-E	
T-10	J ₁ -03・13	*	- X 1.05	- X 0.23	1.45	N-45°-E	T-11 に切られる。
T-11	J ₁ -03・13	*	(3.75) X 1.83	2.82 X 0.73	2.00	N-61°-E	T-10 を切る。
T-12	J ₁ -05	*	2.55 X 1.17	2.15 X 0.19	1.40	N-33.5°-E	
T-13	J ₁ -58・59	*	2.43 X 1.15	2.04 X 0.25	1.31	N-36°-E	T-14 から T-23 の掘り上げ土に埋め込まれる。
T-14	J ₁ -58	*	2.33 X 1.14	2.09 X 0.27	1.28	N-26.5°-E	
T-15	J ₁ -58・59	*	2.27 X 1.21	1.95 X 0.22	1.45	N-34°-E	
T-16	J ₁ -68	*	2.40 X 1.08	2.13 X 0.27	1.52	N-45°-E	
T-17	J ₁ -97・98	*	2.56 X 1.01	2.08 X 0.26	1.31	N-8°-W	
T-18	J ₁ -80	*	2.40 X 1.00	1.81 X 0.21	1.40	N-38°-E	
T-19	J ₁ -77・78	*	2.57 X 0.94	2.08 X 0.25	1.32	N-15°-E	
T-20	J ₁ -39・K ₁ -30	*	2.92 X 0.92	2.70 X 0.34	1.38	N-42°-E	P-121 を切る。
T-21	J ₁ -29・39	*	- X 0.95	- X 0.29	1.46	N-26°-E	
T-22	K ₁ -52・53	*	2.54 X 1.40	1.99 X 0.20	1.28	N-14.5°-W	縦穴 2 ケ所検出
T-23	J ₁ -68	*	2.41 X 0.96	2.02 X 0.15	1.18	N-26.5°-E	T-24 が古いと考えられる。
T-24	H ₁ -44・45	*	2.34 X 0.92	1.86 X 0.24	1.18	N-40°-E	T-24 から T-23 の掘り上げ土に埋め込まれる。
T-25	J ₁ -22・23	長方形	1.86 X 1.12	0.94 X 0.46	1.35	N-28.5°-W	竪穴 1 ケ所あり、竪穴 0.11 X 0.10 X 0.20/0.22
T-26	J ₁ -96・97	長方形	2.37 X 0.85	1.83 X 0.33	1.29	N-57°-E	
T-28	K ₁ -50	*	2.48 X 1.04	2.35 X 0.33	1.41	N-17°-W	P-123 に切られる列なし。
T-29	J ₁ -68	*	2.86 X 1.35	1.98 X 0.30	1.50	N-30.5°-E	

名 称	位 置	平面図	規 模 (m)			長軸方向	備 考
			縦 断 面	横 断 面	最大深		
T-31	L ₁ -60	長輪円形	- X0.06	- X0.18	1.36	N-49°-E	
T-32	K ₁ -79	+	2.47 X1.13	2.00 X0.29	1.45	N-57.5°-E	
T-33	K ₁ -17	+	2.50 X1.05	1.92 X0.27	1.49	N-12.5°-E	
T-34	K ₁ -89・97	+	2.53 X0.90	2.30 X0.20	1.52	N-16.5°-E	
T-35	K ₁ -76・77・86・87	+	- X0.71	- X0.15	1.50	N-13°-W	
T-37	K ₁ -26・36	+	2.78 X1.01	2.57 X0.17	1.45	N-74°-W	

表13 Tピットの置物一覧

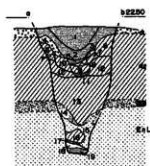
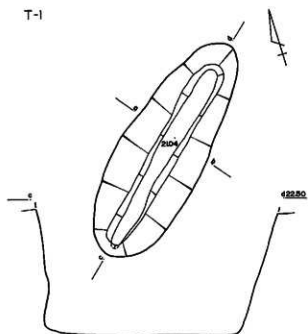
遺 構 番 号	土 器		石 器										計
	I	II	O 群		I 群		II 群		V 群		X		
	b		1a	1・2	A	D	E	J	K				
	4	b			6			4	1	0	1		
T-4	1			1			1						3
T-8												2	2
T-9		1									1		2
T-10												1	1
T-13	14			4			1						19
T-14	145			6	1	1	1		1			3	158
T-15	39	1	1	10							2		53
T-16	5		1				1				13		20
T-19								1			2	1	4
T-20									5			2	7
T-22	4	1		2							2	2	11
T-28	2			1							1	7	11
T-29	8			1			1				6	3	19
計	218	3	2	25	1	1	5	1	6	27	21	310	

表14 Tピットの掲載拓影土器一覧

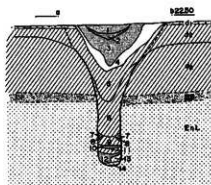
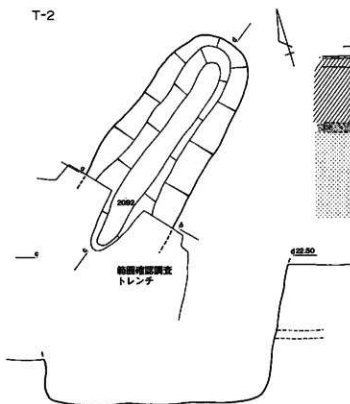
遺構番号	図番号	分 類	部位	層位	備 考	遺構番号	図番号	分 類	部位	層位	備 考
T-4	65-1	1b-4	胴	覆土		T-14	-11	1b-4	胴	覆土	
T-9	+	3	1b	+	+	T-14	-12	+	+	+	
T-13	+	4	1b-4	口	+	T-14	-13	+	底	+	
+	+	5	+	胴	+	T-15	-1	+	胴	+	
+	+	6	+	+	+	T-15	-2	+	+	+	
T-14	+	8	+	口	+	T-15	-3	+	+	+	
+	+	9	+	+	+	T-29	-6	+	+	+	
+	+	10	+	胴	+						

表15 Tピットの掲載石器一覧

遺構番号	図番号	名 称	分類	大きさ(cm)	重量(g)	材 質	層 位	備 考
T-4	65-2	スクレイパー	E	2.7×2.6×0.7	6.5	Obs	覆 土	
T-13	+	7	+	2.6×1.8×0.7	3.3	+	+	
T-14	+	14	石 敷	2.0×1.1×0.2	0.4	+	+	
+	+	15	つまみ付きナイフ	6.4×2.7×0.6	11.3	Sh.	+	
+	+	16	スクレイパー	3.3×1.7×1.1	6.0	Obs.	+	
+	+	17	砥 石	6.7×5.2×2.2	73.8	Sa	+	
T-15	66-4	ウ フ レ イ ク	O1a	4.9×1.7×0.7	4.0	Obs.	+	
T-20	+	5	砥 石	11.3×5.9×6.7	392.4	Sa	+	
T-29	+	7	スクレイパー	4.1×2.4×1.0	10.0	Obs.	+	



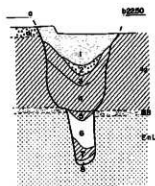
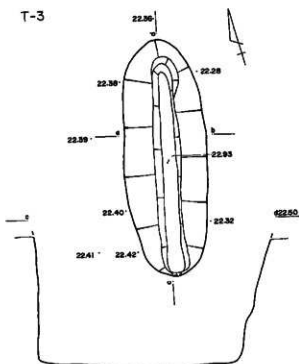
- T-1
- 1 測点 ($X > a_1 > a_2$)
 - 2 測点色 ($X > a_1$)
 - 3 測点色 ($a_1 + a_2$)
 - 4 測点色 ($a_1 > a_2$)
 - 5 測点 ($X > a_1$)
 - 6 測点色 (a_1)
 - 7 測点色 ($a_1 + a_2$)
 - 8 測点色 ($X > a_1$)
 - 9 測点色 ($X > a_1 + a_2$)
 - 10 測点色 (a_1)
 - 11 測点 ($X > a_1$)
 - 12 測点色 (a_1)
 - 13 測点色 (a_1)
 - 14 測点色 ($X > a_1$)
 - 15 測点色 (a_1)
 - 16 測点色 ($a_1 > X > a_1 + X > X > X$)
 - 17 測点 ($X > a_1$)
 - 18 測点色 ($X > a_1 + a_2$)
 - 19 測点 ($X > a_1$)



- T-2
- 1 測点 ($X > a_1$)
 - 2 測点色 ($X > a_1 > a_2$)
 - 3 測点 ($X > a_1 + a_2$)
 - 4 測点色 ($a_1 > X > a_2$)
 - 5 測点色 (a_1)
 - 6 測点色 (a_1)
 - 7 測点色 ($X > a_1$)
 - 8 測点色 (a_1)
 - 9 測点色 (a_1)
 - 10 測点 ($X > a_1$)
 - 11 測点色 (a_1)
 - 12 測点 ($X > a_1$)
 - 13 測点色 (a_1)
 - 14 測点色 (a_1)

図48 T-1・2

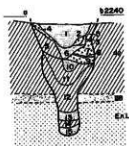
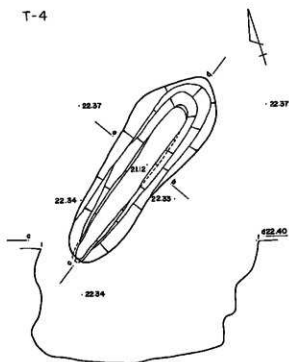
T-3



T-3

- 1 淤色 ($z > a_1$)
- 2 淤积层 ($a_1 > z > a_2$)
- 3 淤积层 ($a_2 > a_3$)
- 4 淤积层 (a_3)
- 5 淤积层 ($a_3 + z$)
- 6 淤积层 ($z > a_3 + a_4$)
- 7 淤积层 ($a_4 + z$)
- 8 淤色 (z)

T-4

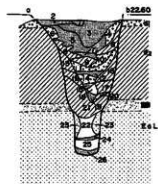
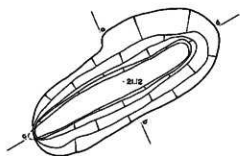


T-4

- 1 淤色 ($z > a_1$)
- 2 淤积层 ($a_1 > z > a_2$)
- 3 淤积层 ($a_2 + a_3$)
- 4 淤色 (a_3)
- 5 淤积层 (a_3)
- 6 淤色 (z)
- 7 淤积层 ($a_3 + a_4$)
- 8 淤积层 ($z > a_4$)
- 9 淤积层 ($a_4 + a_5$)
- 10 淤积层 ($z > a_5 + a_6$)
- 11 淤积层 (a_6)
- 12 淤积层 (a_6)
- 13 淤色 (z)
- 14 淤积层 ($a_6 + z$)
- 15 淤积层 ($z > a_6$)

图49 T-3 · 4

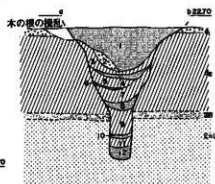
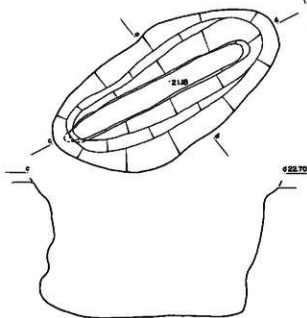
T-5



T-5

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1 泥質砂地 ($S > d_1$) | 18 礫地 ($S > d_1$) |
| 2 泥質砂 ($S > d_1$) | 19 礫地 (d_1) |
| 3 礫地 ($S > d_1 > d_2$) | 20 礫地 ($d_1 > d_2$) |
| 4 礫地 ($d_1 > d_2$) | 21 礫地 (d_1) |
| 5 礫地 ($S > d_1 > d_2$) | 22 礫地 ($d_1 > d_2$) |
| 6 礫地 (d_1) | 23 礫地 ($S > d_1$) |
| 7 礫地 ($S > d_1$) | 24 礫地 ($S > d_1$) |
| 8 礫地 ($d_1 > d_2$) | 25 礫地 ($d_1 > d_2$) |
| 9 礫地 ($d_1 > S > d_2$) | 26 礫地 ($S > d_1$) |
| 10 礫地 (d_1) | |
| 11 礫地 ($d_1 > d_2$) | |
| 12 礫地 ($S > d_1$) | |
| 13 礫地 (d_1) | |
| 14 礫地 ($d_1 > d_2$) | |

T-6

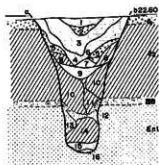
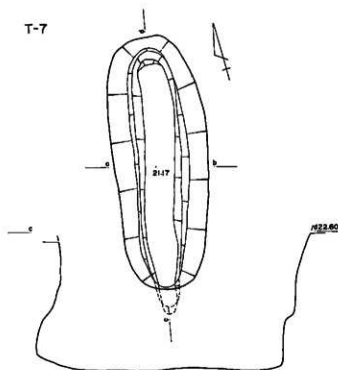


T-6

- | |
|--------------------------|
| 1 礫地 ($S > d_1 > d_2$) |
| 2 礫地 ($d_1 > S > d_2$) |
| 3 礫地 ($d_1 > d_2$) |
| 4 礫地 ($S > d_1$) |
| 5 礫地 ($d_1 > S > d_2$) |
| 6 礫地 ($S > d_1$) |
| 7 礫地 ($d_1 > S > d_2$) |
| 8 礫地 ($S > d_1$) |
| 9 礫地 (d_1) |
| 10 礫地 ($d_1 > d_2$) |
| 11 礫地 ($d_1 > d_2$) |
| 12 礫地 ($d_1 > d_2$) |

図50 T-5・6

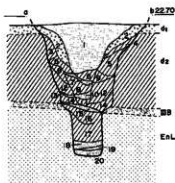
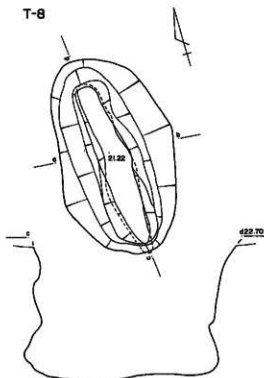
T-7



T-7

- 1 溝底 ($E B > d_1 > d_2$)
- 2 堆砂層底 ($d_1 > E B > d_2$)
- 3 溝底 ($E B > d_1 > d_2$)
- 4 溝底 ($E B + d_1 > d_2$)
- 5 堆砂層底 ($d_1 > d_2$)
- 6 溝底 ($E B > d_1$)
- 7 堆砂層底 ($E B + d_1 > d_2$)
- 8 堆砂層底 (d_1)
- 9 溝底 ($E B > d_1$)
- 10 堆砂層底 (d_1)
- 11 堆砂層底 ($d_1 + E B > d_2$)
- 12 堆砂層底 ($E B$)
- 13 溝底 ($E B$)
- 14 堆砂層底 ($d_1 > E B$)
- 15 溝底 ($E B > d_1$)
- 16 堆砂層底 ($d_1 > E B$)

T-8

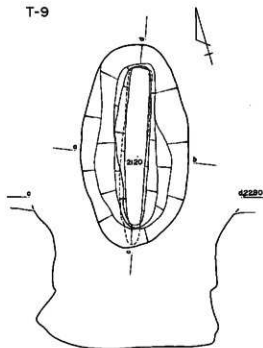


T-8

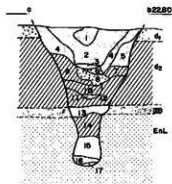
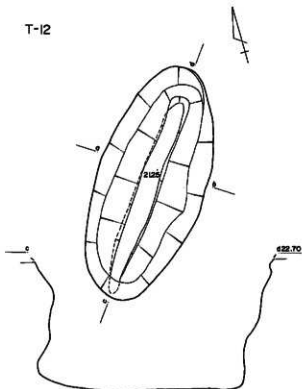
- 1 溝底 ($E B > d_1 > d_2$)
- 2 堆砂層底 ($d_1 > E B > d_2$)
- 3 溝底 (d_1)
- 4 堆砂層底 ($d_1 > E B + d_2$)
- 5 堆砂層底 (d_1)
- 6 堆砂層底 ($d_1 > E B + d_2$)
- 7 溝底 ($E B + d_1$)
- 8 堆砂層底 ($d_1 > E B + d_2$)
- 9 堆砂層底 (d_1)
- 10 溝底 ($E B + d_1 > d_2$)
- 11 堆砂層底 ($d_1 > E B + d_2$)
- 12 堆砂層底 (d_1)
- 13 溝底 ($E B$)
- 14 堆砂層底 (d_1)
- 15 溝底 ($E B + d_1$)
- 16 堆砂層底 (d_1)
- 17 堆砂層底 ($d_1 > E B$)
- 18 溝底 ($E B$)
- 19 堆砂層底 ($d_1 + E B > EAL$)
- 20 溝底 ($E B > EAL$)

图51 T-7 · 8

T-9

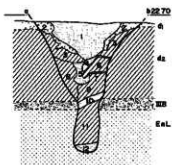


T-12



T-9

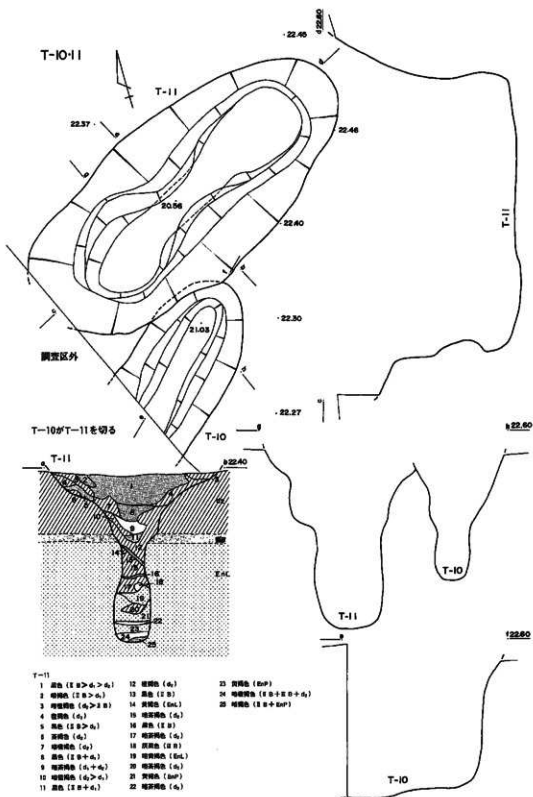
- 1 埋藏物 ($B > a, > d_1$)
- 2 埋藏物 ($B > a_1$)
- 3 埋藏物 ($B > d_1$)
- 4 埋藏物 ($B > a_1$)
- 5 埋藏物 ($B > a + d_1$)
- 6 埋藏物 ($a_1 > d_1$)
- 7 埋藏物 (d_1)
- 8 埋藏物 ($a_1 > B$)
- 9 埋藏物 (d_1)
- 10 埋藏物 (d_1)
- 11 埋藏物 ($B + a_1$)
- 12 埋藏物 (d_1)
- 13 埋藏物 ($B > a_1$)
- 14 埋藏物 (d_1)
- 15 埋藏物 ($d_1 + B$)
- 16 埋藏物 (B)
- 17 埋藏物 ($B > d_1 + a_1$)

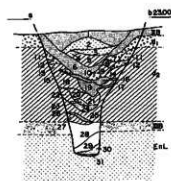
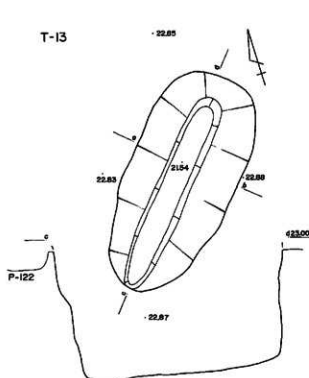


T-12

- 1 埋藏物 ($B > a, > d_1$)
- 2 埋藏物-埋藏物 (a_1)
- 3 埋藏物 (d_1)
- 4 埋藏物 ($B + a_1$)
- 5 埋藏物 (B)
- 6 埋藏物 (d_1)
- 7 埋藏物 ($B + d_1$)
- 8 埋藏物 (d_1)
- 9 埋藏物 (d_1)
- 10 埋藏物 ($B > d_1$)
- 11 埋藏物 (d_1)
- 12 埋藏物 ($B + B > B + d_1$)

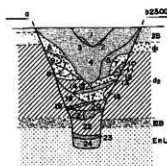
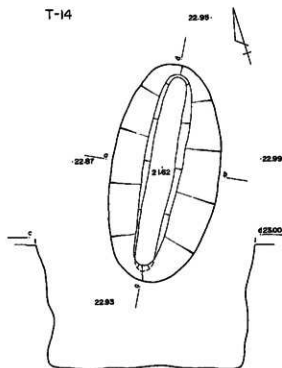
图52 T-9 · 12





T-13

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1 填土 ($\delta > d_1 > d_2$) | 21 填土 ($\delta > d_1$) |
| 2 填土 ($\delta > d_1 > d_2$) | 22 填土 ($d_1 > d_2$) |
| 3 填土 ($\delta > d_1 > d_2$) | 23 填土 (d_1) |
| 4 填土 ($\delta > d_1 > d_2$) | 24 填土 (δ) |
| 5 填土 ($\delta > d_1 > d_2$) | 25 填土 (d_1) |
| 6 填土 ($\delta > d_1$) | 26 填土 (δ) |
| 7 填土 (δ) | 27 填土 ($d_1 + \delta$) |
| 8 填土 ($\delta > d_1$) | 28 填土 ($d_1 + \delta$) |
| 9 填土 ($d_1 > d_2$) | 29 填土 ($d_1 + \delta$) |
| 10 填土 (d_1) | 30 填土 ($\delta > d_1$) |
| 11 填土 (d_1) | 31 填土 (δ) |
| 12 填土 (d_1) | |
| 13 填土 ($d_1 > d_2$) | |
| 14 填土 (d_1) | |
| 15 填土 (d_1) | |
| 16 填土 ($\delta > d_1$) | |
| 17 填土 (d_1) | |
| 18 填土 (d_1) | |
| 19 填土 ($\delta > d_1 > d_2$) | |

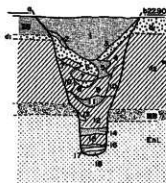
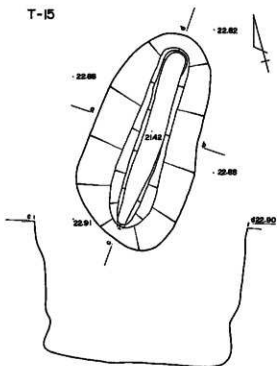


T-14

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 填土 ($\delta > d_1 > d_2$) | 13 填土 ($d_1 > d_2$) |
| 2 填土 (d_1) | 14 填土 ($d_1 > d_2$) |
| 3 填土 ($\delta > d_1$) | 15 填土 ($\delta > d_1$) |
| 4 填土 ($\delta > d_1 > d_2$) | 16 填土 (d_1) |
| 5 填土 ($\delta > d_1$) | 17 填土 ($d_1 > d_2$) |
| 6 填土 (d_1) | 18 填土 (d_1) |
| 7 填土 ($d_1 > d_2$) | 19 填土 ($\delta > d_1$) |
| 8 填土 (d_1) | 20 填土 (d_1) |
| 9 填土 (d_1) | 21 填土 ($\delta > d_1 + d_2$) |
| 10 填土 ($d_1 + d_2$) | 22 填土 (d_1) |
| 11 填土 ($d_1 > d_2$) | 23 填土 (δ) |
| 12 填土 (d_1) | 24 填土 ($\delta > d_1 + d_2$) |

图54 T-13 · 14

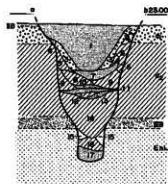
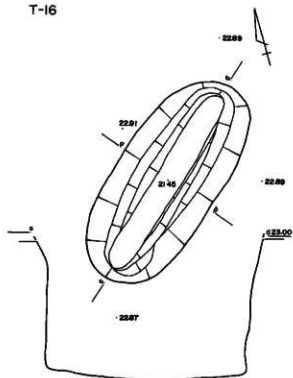
T-15



T-15

- | | |
|------------------------|------------------------------|
| 1 填土 ($2B > d_1$) | 11 堆砌物 ($2B + d_1$) |
| 2 堆砌物 ($2B > d_1$) | 12 堆砌物 (d_1) |
| 3 堆砌物 (d_1) | 13 堆砌物 ($2B$) |
| 4 堆砌物 ($d_1 > 2B$) | 14 堆砌物 ($2B > d_1$) |
| 5 填土 ($2B > d_1$) | 15 堆砌物 (d_1) |
| 6 堆砌物 (d_1) | 16 堆砌物 ($d_1 > 2B$) |
| 7 堆砌物 (d_1) | 17 堆砌物 ($2B + d_1 + 2d_1$) |
| 8 堆砌物 (d_1) | 18 填土 ($2B$) |
| 9 堆砌物 ($d_1 > d_1$) | |
| 10 堆砌物 ($d_1 > d_1$) | |

T-16

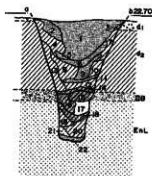
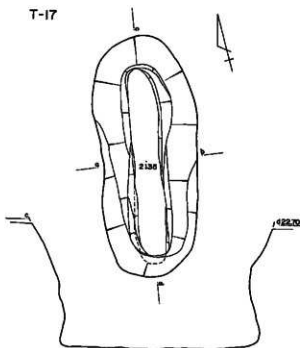


T-16

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 填土 ($2B > d_1 > d_1$) | 11 堆砌物 ($2B + d_1$) |
| 2 填土 (d_1) | 12 堆砌物 (d_1) |
| 3 堆砌物 ($d_1 > 2B$) | 13 堆砌物 ($2B + d_1$) |
| 4 堆砌物 (d_1) | 14 堆砌物 (d_1) |
| 5 堆砌物 (d_1) | 15 堆砌物 ($2B + 2d_1$) |
| 6 堆砌物 ($d_1 > d_1$) | 16 堆砌物 (d_1) |
| 7 填土 ($2B$) | 17 填土 ($2B > d_1$) |
| 8 堆砌物 (d_1) | |
| 9 堆砌物 (d_1) | |
| 10 堆砌物 ($2B > d_1$) | |

图55 T-15·16

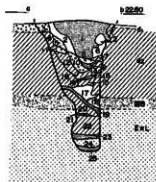
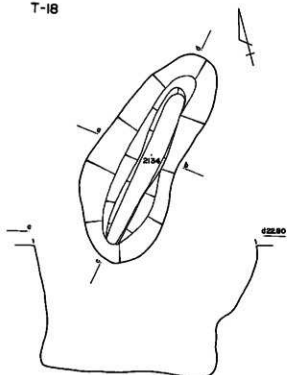
T-17



T-17

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1 船底 ($2B > d_1 > d_2$) | 16 船底 ($2B > d_1$) |
| 2 船底 ($2B + d_1 > d_2$) | 17 船底 ($2B + d_1 > 2B$) |
| 3 船底 (d_1) | 18 船底 ($2B > d_1 > d_2$) |
| 4 船底 (d_1) | 19 船底 (d_1) |
| 5 船底 ($2B > d_1$) | 20 船底 ($d_1 > 2B$) |
| 6 船底 ($2B + d_1$) | 21 船底 ($2B + d_1 > 2B$) |
| 7 船底 (d_1) | 22 船底 ($2B > d_1$) |
| 8 船底 (d_1) | |
| 9 船底 ($2B > d_1$) | |
| 10 船底 (d_1) | |
| 11 船底 ($2B > d_1$) | |
| 12 船底 ($d_1 > 2B$) | |
| 13 船底 (d_1) | |
| 14 船底 ($2B > d_1$) | |
| 15 船底 ($2B + d_1$) | |

T-18

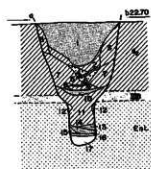
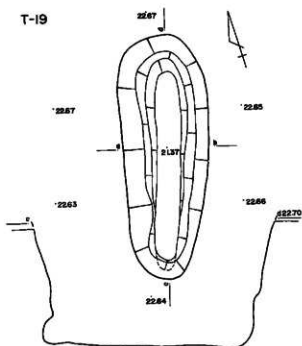


T-18

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 1 船底 ($2B > d_1$) | 16 船底 (d_1) |
| 2 船底 ($2B + d_1$) | 17 船底 ($2B + d_1 > d_2$) |
| 3 船底 (d_1) | 18 船底 (d_1) |
| 4 船底 (d_1) | 19 船底 ($2B$) |
| 5 船底 (d_1) | 20 船底 ($d_1 > 2B$) |
| 6 船底 ($2B + d_1$) | 21 船底 ($2B$) |
| 7 船底 (d_1) | 22 船底 ($d_1 > 2B$) |
| 8 船底 (d_1) | 23 船底 ($2B$) |
| 9 船底 ($2B$) | 24 船底 ($2B > d_1 > 2B$) |
| 10 船底 (d_1) | 25 船底 ($2B > d_1$) |
| 11 船底 ($d_1 + d_2$) | |
| 12 船底 ($d_1 > d_2$) | |
| 13 船底 ($d_1 > d_2$) | |
| 14 船底 ($2B + d_1$) | |
| 15 船底 (d_1) | |

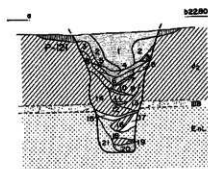
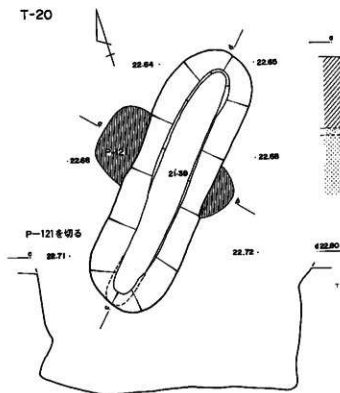
图56 T-17·18

T-19



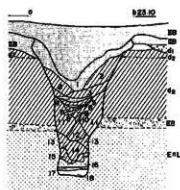
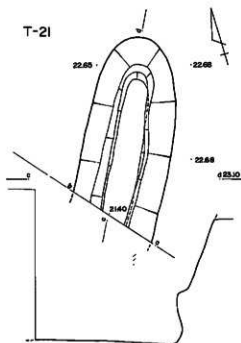
- T-19
- 1 断面 ($h > a_1 > a_2$)
 - 2 断面 ($a_2 > h$)
 - 3 断面 (a_1)
 - 4 断面 (a_1)
 - 5 断面 ($h > a_1$)
 - 6 断面 (a_1)
 - 7 断面 (a_1)
 - 8 断面 ($h > a_1$)
 - 9 断面 ($a_2 > h$)
 - 10 断面 ($h > a_1$)
 - 11 断面 (a_1)
 - 12 断面 ($h > a_1$)
 - 13 断面 ($h > a_1$)
 - 14 断面 ($h > a_1$)
 - 15 断面 ($h > a_1$)
 - 16 断面 ($h > a_1$)
 - 17 断面 ($h > a_1$)

T-20

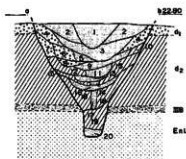
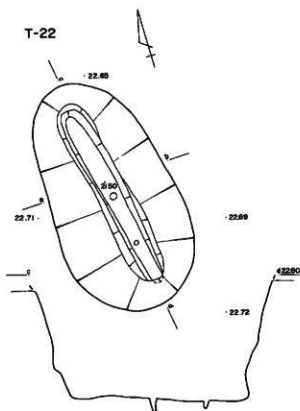


- T-20
- 1 断面 ($h > a_1$)
 - 2 断面 ($h > a_1$)
 - 3 断面 (a_1)
 - 4 断面 ($h > a_1$)
 - 5 断面 (a_1)
 - 6 断面 ($h > a_1$)
 - 7 断面 ($h > a_1$)
 - 8 断面 (a_1)
 - 9 断面 ($h > a_1$)
 - 10 断面 ($h > a_1$)
 - 11 断面 (a_1)
 - 12 断面 ($h > a_1$)
 - 13 断面 ($h > a_1$)
 - 14 断面 ($h > a_1$)
 - 15 断面 ($h > a_1$)
 - 16 断面 ($h > a_1$)
 - 17 断面 ($h > a_1$)
 - 18 断面 ($h > a_1$)
 - 19 断面 ($h > a_1$)
 - 20 断面 ($h > a_1$)
 - 21 断面 ($h > a_1$)
 - 22 断面 ($h > a_1$)
 - 23 断面 ($h > a_1$)
 - 24 断面 ($h > a_1$)
 - 25 断面 ($h > a_1$)

図57 T-19・20



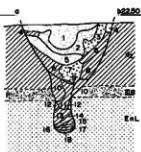
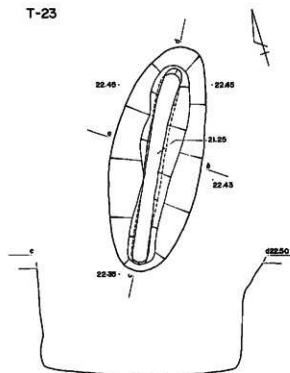
- T-21
- 1 填筑层 ($\Sigma B > d_1$)
 - 2 填筑层 ($d_1 > d_2$)
 - 3 填筑层 ($d_2 > \Sigma B + d_1$)
 - 4 填筑层 ($\Sigma B > d_1$)
 - 5 填筑层 ($d_2 > d_1$)
 - 6 填筑层 ($\Sigma B > d_1$)
 - 7 填筑层 ($d_2 > d_1$)
 - 8 填筑层 ($\Sigma B > d_1$)
 - 9 填筑层 ($d_2 > d_1$)
 - 10 填筑层 ($\Sigma B + d_1 + d_2$)
 - 11 填筑层 (d_1)
 - 12 填筑层 ($d_1 + d_2$)
 - 13 填筑层 ($\Sigma B > d_1$)
 - 14 填筑层 (d_1)
 - 15 填筑层 (ΣB)
 - 16 填筑层 (d_1)
 - 17 填筑层 (ΣB)
 - 18 填筑层 ($\Sigma B + d_1 + d_2$)



- T-22
- 1 填筑层 ($\Sigma B > d_1$)
 - 2 填筑层 ($\Sigma B > d_1$)
 - 3 填筑层 ($\Sigma B > d_1$)
 - 4 填筑层 ($\Sigma B < d_1$)
 - 5 填筑层 ($\Sigma B > d_1 + d_2$)
 - 6 填筑层 ($\Sigma B < d_1$)
 - 7 填筑层 (d_1)
 - 8 填筑层 ($\Sigma B > d_1 + d_2$)
 - 9 填筑层 (d_1)
 - 10 填筑层 ($\Sigma B > d_1$)
 - 11 填筑层 ($\Sigma B > d_1$)
 - 12 填筑层 (d_1)
 - 13 填筑层 ($\Sigma B > d_1$)
 - 14 填筑层 ($\Sigma B > d_1$)
 - 15 填筑层 ($\Sigma B < d_1$)
 - 16 填筑层 ($\Sigma B > d_1$)
 - 17 填筑层 ($\Sigma B > d_1$)
 - 18 填筑层 (d_1)
 - 19 填筑层 (填筑层 $\Sigma < d_1$)
 - 20 填筑层 (填筑层 $\Sigma > d_1$)

图58 T-21 · 22

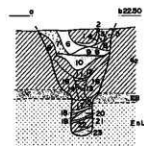
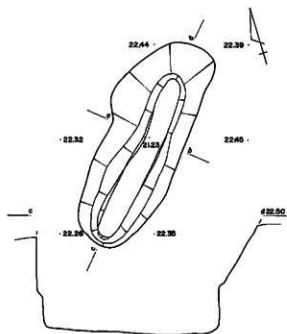
T-23



T-23

- 1 底色 ($1 B > d_1 > d_2$)
- 2 堤岸色 ($1 B + d_1$)
- 3 堤岸色 (d_1)
- 4 堤岸色 (d_1)
- 5 堤岸色 ($1 B > d_1$)
- 6 堤岸色 (d_1)
- 7 堤岸色 (d_1)
- 8 堤岸色 ($d_1 > 1 B$)
- 9 堤岸色 ($1 B > d_1$)
- 10 堤岸色 (d_1)
- 11 堤岸色 ($d_1 > 1 B$)
- 12 堤岸色 ($1 B$)
- 13 堤岸色 ($d_1 > 1 B$)
- 14 堤岸色 ($1 B$)
- 15 堤岸色 ($1 B + d_1 > 1 B$)
- 16 堤岸色 ($1 B$)
- 17 堤岸色 ($1 B + d_1 + E a L$)
- 18 堤岸色 ($1 B$)

T-24

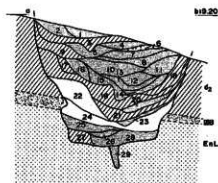
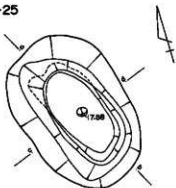


T-24

- 1 堤岸色 (d_1)
- 2 堤岸色 ($1 B > d_1$)
- 3 堤岸色 (d_1)
- 4 堤岸色 (d_1)
- 5 堤岸色 (d_1)
- 6 堤岸色 ($1 B + d_1 + d_2$)
- 7 堤岸色 (d_1)
- 8 堤岸色 (d_1)
- 9 堤岸色 ($1 B + d_1$)
- 10 堤岸色 ($1 B$)
- 11 堤岸色 (d_1)
- 12 堤岸色 ($1 B + d_1$)
- 13 堤岸色 ($d_1 + 1 B$)
- 14 堤岸色 ($1 B + d_1$)
- 15 堤岸色 ($d_1 + 1 B$)
- 16 堤岸色 (d_1)
- 17 堤岸色 ($d_1 > 1 B$)
- 18 堤岸色 ($1 B$)
- 19 堤岸色 ($d_1 > 1 B$)
- 20 堤岸色 ($1 B > d_1$)
- 21 堤岸色 ($1 B$)
- 22 堤岸色 ($d_1 > 1 B$)
- 23 堤岸色 ($1 B > d_1$)

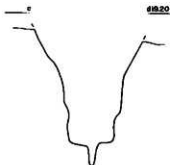
图59 T-23·24

T-25

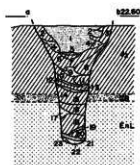
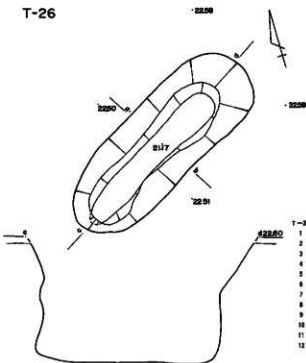


T-25

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 基岩色 ($E B > d_1 > d_2$) | 16 基岩色 ($E B > d_1$) |
| 2 砂质色 ($E B > d_1 > d_2$) | 17 砂质色 ($d_1 > E B$) |
| 3 砂质色 ($E B + d_1 > d_2$) | 18 砂质色 ($d_1 > E B$) |
| 4 基岩色 ($E B > d_2$) | 19 砂质色 ($d_1 > E B$) |
| 5 基岩色 ($E B > d_1 > d_2$) | 20 砂质色 ($E B > d_1 > d_2$) |
| 6 砂质色 ($d_1 > E B$) | 21 砂质色 (d_1) |
| 7 砂质色 ($E B > d_2$) | 22 砂质色 ($E B + d_1$) |
| 8 砂质色 ($E B > d_1$) | 23 砂质色 ($E B > d_1$) |
| 9 砂质色 ($d_1 > E B$) | 24 砂质色 ($E B + d_1$) |
| 10 砂质色 ($E B > d_2$) | 25 砂质色 ($E B > d_1$) |
| 11 砂质色 ($E B > d_1 > d_2$) | 26 砂质色 ($E B > d_1$) |
| 12 砂质色 ($E B > d_1$) | 27 砂质色 ($d_1 > E B$) |
| 13 砂质色 ($E B > d_2$) | 28 砂质色 ($E B > d_1$) |
| 14 砂质色 ($E B > d_2$) | 29 基色 ($E B$) |
| 15 砂质色 ($E B > d_1$) | |



T-26



T-26

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1 基色 ($E B > d_1 > d_2$) | 13 砂质色 ($d_1 > E B$) |
| 2 砂质色 ($d_1 > E B$) | 14 基色 ($E B > d_1$) |
| 3 基色 (d_1) | 15 砂质色 ($d_1 > E B + E B$) |
| 4 砂质色 (d_1) | 16 砂质色 ($d_1 + E B$) |
| 5 砂质色 ($d_1 + E B$) | 17 砂质色 ($E B$) |
| 6 基岩色 ($E B + d_1$) | 18 砂质色 ($d_1 > E B + E B$) |
| 7 砂质色 ($d_1 > E B$) | 19 基色 ($E B$) |
| 8 基岩色 ($d_1 > E B$) | 20 砂质色 ($d_1 > E B$) |
| 9 基色 ($E B$) | 21 基色 ($E B$) |
| 10 砂质色 ($d_1 > E B$) | 22 砂质色 ($d_1 + E B + E B$) |
| 11 砂质色 (d_1) | 23 砂质色 ($E B > E B$) |
| 12 基色 ($E B > d_1$) | |

图60 T-25 · 26

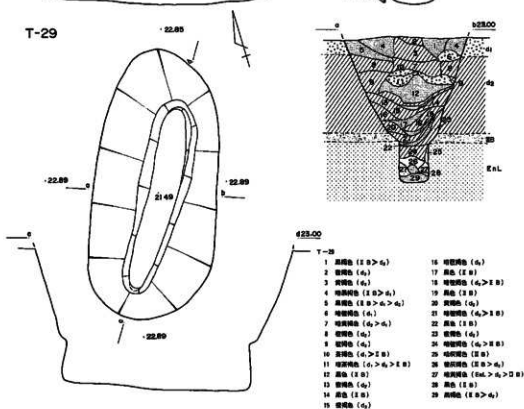
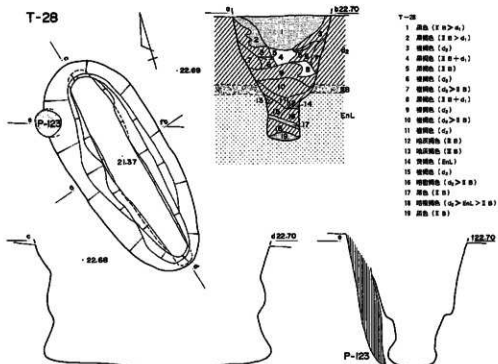
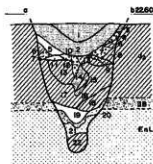
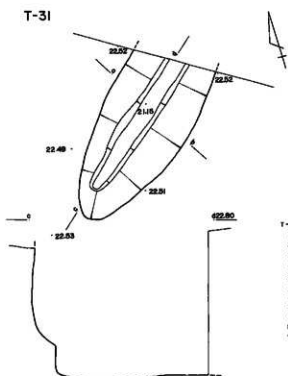
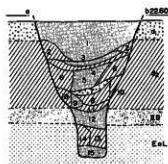
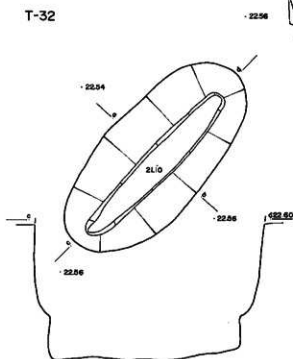


图61 T-28 · 29



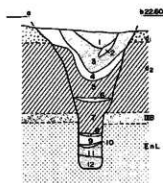
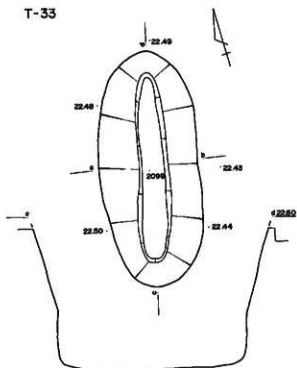
- T-31
- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 测线点 ($E \geq d_1$) | 12 测线点 ($d_1 > E \geq B$) |
| 2 测线点 ($E \geq d_1 > d_2$) | 13 测线点 (d_2) |
| 3 测线点 ($E \geq d_1 > d_2$) | 14 测线点 ($E \geq d_1$) |
| 4 测线点 (d_1) | 15 测线点点 ($d_1 > E \geq B$) |
| 5 测线点 ($E \geq d_1$) | 16 测线点 ($E \geq d_1$) |
| 6 测线点 (d_1) | 17 测线点 (d_1) |
| 7 测线点 (d_1) | 18 测线点点 (d_1) |
| 8 测线点 (d_1) | 19 测线点点 ($d_1 + E \geq B$) |
| 9 测线点 ($E \geq d_1$) | 20 测线点点 ($E \geq B$) |
| 10 测线点 (d_1) | 21 测线点点 (EaL) |
| 11 测线点 ($d_1 + d_2$) | 22 测线点点 (d_2) |



- T-32
- | |
|------------------------------|
| 1 测线点 ($E \geq d_1 > d_2$) |
| 2 测线点 (d_2) |
| 3 测线点点 ($d_2 > E \geq B$) |
| 4 测线点点 ($d_2 > E \geq B$) |
| 5 测线点 ($E \geq d_1 > d_2$) |
| 6 测线点 (d_1) |
| 7 测线点 ($d_1 > E \geq B$) |
| 8 测线点点 ($d_1 > E \geq B$) |
| 9 测线点 ($E \geq d_1$) |
| 10 测线点 (d_1) |
| 11 测线点点 ($d_1 > E \geq B$) |
| 12 测线点 ($E \geq d_1$) |
| 13 测线点点 ($d_1 > E \geq B$) |
| 14 测线点 (d_1) |
| 15 测线点 ($E \geq d_1$) |

图62 T-31 · 32

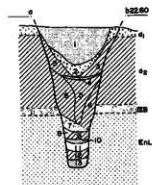
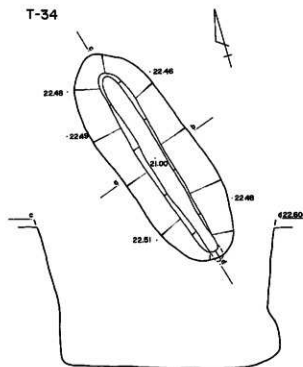
T-33



T-33

- 1 断面 (E B > d₁)
- 2 断面 (a - 木の根の位置)
- 3 断面 (E B > d₁)
- 4 断面 (E B > d₁)
- 5 断面 (d₁ > d₂)
- 6 断面 (E B + 2d₁)
- 7 断面 (d₁)
- 8 断面 (E B)
- 9 断面 (d₁ + 2d₁)
- 10 断面 (E B)
- 11 断面 (E B > d₁)
- 12 断面 (E B)

T-34

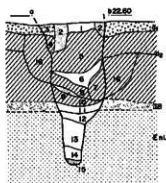
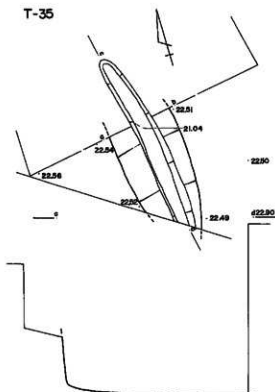


T-34

- 1 断面 (E B > a > d₁)
- 2 断面 (d₁ > E B)
- 3 断面 (d₁ > d₂)
- 4 断面 (E B)
- 5 断面 (d₁)
- 6 断面 (E B)
- 7 断面 (E B)
- 8 断面 (E B)
- 9 断面 (d₁)
- 10 断面 (E B)
- 11 断面 (d₁ + 2d₁)
- 12 断面 (d₁ > E B + 2d₁)
- 13 断面 (E B)

図63 T-33・34

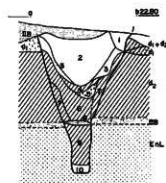
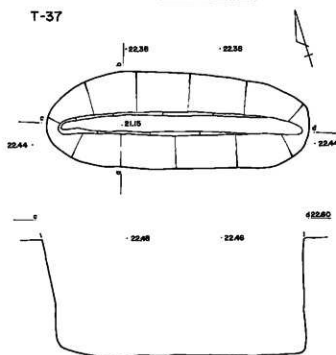
T-35



T-35

- 1 堆積物 ($d_{1L} + d_{1P} + d_1$)
- 2 泥色 ($I \ B$)
- 3 堆積物 (d_1)
- 4 砂質物 (d_1)
- 5 砂質物 (d_1)
- 6 堆積物 ($d_1 + d_1$)
- 7 砂質物 (d_1)
- 8 堆積物 ($d_1 > d_1 > I \ B$)
- 9 泥色 ($I \ B$)
- 10 砂質物 ($d_1 > I \ B$)
- 11 堆積物 ($d_1 + I \ B + d_{1P}$)
- 12 堆積物 ($d_{1L} + d_1$)
- 13 堆積物 ($d_{1L} + d_{1P} > I \ B + d_1$)
- 14 堆積物 ($I \ B + d_{1L}$)
- 15 泥色 ($I \ B$)
- 16 砂質物 (d_1)

T-37



T-37

- 1 堆積物 ($d_1 + d_1$)
- 2 泥色 ($I \ B + d_1$)
- 3 堆積物 ($d_1 + d_1$)
- 4 砂質物 ($d_1 > d_1$)
- 5 砂質物 ($d_1 > I \ B$)
- 6 砂質物 ($d_1 > d_1$)
- 7 砂質物 (d_1)
- 8 泥色 ($I \ B > d_1 + d_1$)
- 9 砂質物 (d_1)
- 10 泥色 ($I \ B + d_{1P}$)

圖64 T-35 · 37

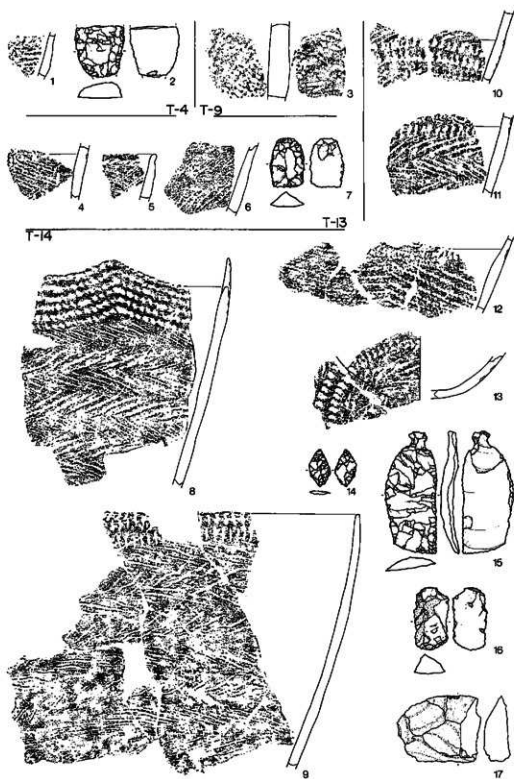


図65 Tビットの遺物(1)

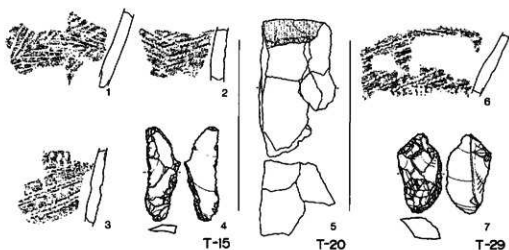


図66 Tピットの遺物(2)

4) 焼土 (図67)

今年度の調査では、住居跡群に伴うものを除き、8ヵ所検出された。これらはいずれも台地縁辺部の住居跡群周辺に分布しており、1ヵ所(F-4)を除きすべて中期～後期の住居跡に関連するものである。これらの焼土には炭化物や骨片等の動植物遺存体はほとんど含まれておらず、土器、石器などの出土量も非常に少ない。

F-1・2はそれぞれH-16・H-12の覆土中から検出された。また、F-3はH-12南西壁に接するようにしてある。F-4は他の焼土がⅡ黒層中または住居跡の覆土から検出されたのに対し、Ⅱ黒層基底部で発見されたもので、縄文時代早期に属すると考えられる。F-5～8はⅡ黒層上部から検出されたもので、F-5はH-7北東側に、F-6はH-13の北側に、F-7はH-8の南西側に、F-8はH-23の南東側に分布している。

遺物 焼土中から検出された遺物の内訳は表15に示す。図67-1・2はⅢb-3類の破片で、1はLRの斜行縄文を地文とした胴部、2は内面に突瘤を伴う円形刺突文が施された口縁部である。

(野中一宏)

表16 焼土一覧

名称	位置	規模		土器		石器		備考
		平面	厚さ	Ⅲb 3	O群 01・02	X		
F-1	H7-19	0.57×0.53	0.08			1		H-16の覆土中に所在
F-2	H7-17	0.50×—	0.08		4	4		H-12の覆土中に所在
F-3	H7-17	0.53×0.50	0.07	7	11			
F-4	H7-17	0.52×0.43	—					
F-5	H7-17	0.69×0.55	0.05		5	1		
F-6	H7-21	0.39×0.32	0.03		1			
F-7	H6-99	0.47×0.42	0.08					
F-8	H6-97	0.65×0.37	0.08		1			

表17 焼土の掲載拓影土器一覧

遺物番号	図番	分類	部位	部位	備考	遺物番号	図番	分類	部位	部位	備考
F-2	67-1	Ⅲb-2	胴	覆土		F-3	67-2	Ⅲb-3	胴	覆土	

(2) 遺物

Ⅱ黒層からは、縄文時代早期後葉～晩期末葉の土器22,843点およびこれらと同時期の所産と考えられる石器・土製品14,848点が検出された。

1) 土器 (図68～78)

22,843点のうち、縄文早期のもの(I群)が69%を占め、以下、中期(Ⅲ群)26%、前期(Ⅱ群)10%と続く。これらの分布をみると、I群は調査区北半部に、Ⅱ群は調査区中央部～南半部にかけて、Ⅲ群は住居跡群が集中する台地縁から斜面にかけて多くなる傾向がある。

I群(1～73) 全体の69%にあたる15,728点が本群に分類される。すべてb類に属するもので、さらに3・4類に細分される。このうち、b-4類が最も多く、95%を占めている。

b-3類(1～15) いずれにも横位に微隆起線(5)または細い貼付帯が付されている。底部は張り出さない。地文は短縄文が多く、羽状縄文が施されたもの(10)もある。

b-4類(16～73) 本類はK 4-56区を中心とした地区、J 5-59区を中心とした地区、H 7-00区を中心とした地区に濃密に分布する傾向がある。これらは羽状効果を出す木目状燃糸文が施文されたもの(16-18・24-35・48・49・69-73)と山形文を構成する燃糸文が施文されたもの(19-23・36-47・50-68)に大別される。両者の平面分布は若干異なり、遺物集中地区を境に北へ行くほど後者が多く、前者の出現率は低くなる。口縁部には両者ともに燃糸または格条体圧痕文が施されるものがほとんどである。木目燃糸文を地文とする一群の大半は、燃った方向と軸に巻く方向が逆の原体を用いているため施文した際に燃りが戻っている。

底部は平底のもの(70・71)と尖底のもの(69・73)があり、両者ともに口縁部と同様の圧痕文が付されている場合が多い。連続山形文を構成する一群の燃糸文には2条または3条を1単位としたもの(21・43・55-58)、組紐を用いたもの(19・36・59・60)、2段燃りの縄を密に軸巻して回転させたもの(37・41・62-64・68)などがあり、前者に比べてバラエティに富む。2条1単位の燃糸文には同じ燃りの縄を組み合わせる場合(55-57)と逆燃りの縄を組み合わせている場合(43・58)がみうけられ、燃りが戻されているものが多い。一方、L・Rの原体をそれぞれ1本として施文しているものは、縄の燃り方向とは逆に軸巻してしっかりと施文するものがめだつ。組紐を用いた燃糸文は本類が分類されるものでは初出資料である。組紐は平組のもの(36・59・60)のほか丸組のものも用いられている。これらの口縁には、縦方向に押圧する燃糸または格条体圧痕が施されるほか、横位に数条縄を押圧しているもの(19-21・39-47)や棒状工具による刺突列をめぐらせるもの(21)もある。

Ⅲ群(74～99) 全体の10%に相当する2,146点が本群に分類される。このうち、Ⅱb類がほとんどで、Ⅱa類はわずかに4点出土しただけである。

a類(74～76) 74はa-1類に、75・76はa-2類に細分される。

b類(77～99) 本類はさらに円筒下層式(96～99)と植苗式(77～95)に細分される。植

苗式は口縁部に縄文だけが施されたもの(78)、横走沈線が1条めぐらされたもの(79・80)、縄線文がめぐらされたもの(77・85)、貼付帯がめぐらされたもの(86・89)がある。これらの大半は、羽状縄文を地文とし、口唇上や器内面にも施されている。円筒下層式に属するものはいずれも胴部破片で、捺糸文が施されている。

Ⅲ群 (100~178) 全体の26%にあたる5,177点が検出された。a類とb類に分類され、b類はさらに1~3類に細分される。この中ではb-2類が最も多く、59%を占める。

a類 (149) 1点だけ検出された胴部破片である。縦位および横位に貼付帯が付され、その上には捺糸文が施文されている。地文はLRの斜行縄文である。

b-1類 (100・101・150~152) 100・101は口縁が肥厚し、棒状の突起を有する。突起上および肥厚帯上には半截竹管による刺突文が施されている。150・151は半截竹管状工具による2条1組の沈線で文様が描かれている。152は複線の斜行縄文が施されている。

b-2類 (102~134・133~159・171~175) 器形は円筒形または胴部が膨らむ器形で、底部は大きく張り出すもの(171・172・174)と張り出さないもの(173・175)がある。器内面は一般に後述するb-3類に比べ研磨されており、中には非常に丁寧に研磨しているものもみられる。これらの口縁部には小型の突起を有するものが一般的で、幅広の貼付帯を横位または縦位に付したものの(102~115・153~157)と付されないもの(116~134・158~160)がある。貼付帯上には縄の圧痕文(102~108・153・154)や棒状工具による刺突文(109~104・155~157)が施されている。貼付帯のないものには口縁部に横走沈線(116~118)、刺突文(119・120・158)、押し引き文(121~124・126)、縄線文(125・126・159・160)が施文されたものや、これらの文様が口唇にのみ施されたもの(132~134)のほか縄文だけのもの(127~130)もある。地文は、斜行縄文、結束第1種・第2種の羽状および斜行縄文で、縄文だけのグループには横走する縄文が施される例もある。

b-3類 (135~148・163~170・176~178) 本類はトコロ6類のグループ(135~145・163~166)と煉瓦台式のグループ(146~148・167~170・178)に大別される。前者には器内面に明瞭な瘤を伴う円形刺突文が施されており、口縁が肥厚するもの(135~138)と肥厚しないもの(139~145)がある。口縁付近および口唇上には刺突文や押し引き文が施される例が多く、口縁が肥厚するグループには口縁部から胴部上半にかけて貼付帯を付したものもある(135・163~165)。地文は結束第1種、第2種の羽状縄文が多い。後者のグループの特徴は器壁が薄く、内面を非常に丁寧に研磨している点で、突起下や口縁、胴部の最大径付近に貼付帯を付し、その上に縄線文を施している。地文はLRの斜行縄文が多く、貼付帯の断面は原体の回転押捺のため、くの字形になっている。

Ⅳ群 本群は全体の1.5%にあたる182点しか出土していない。これらはa~c類に分けられ、この中ではa類が最も多い。

a類 (179~184) すべて余市式のもので、口縁および胴部には貼付帯が付され、羽状縄文

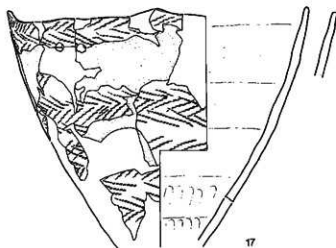
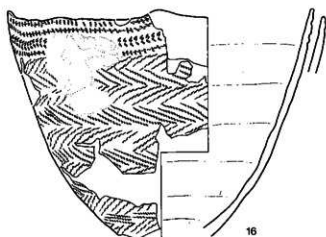
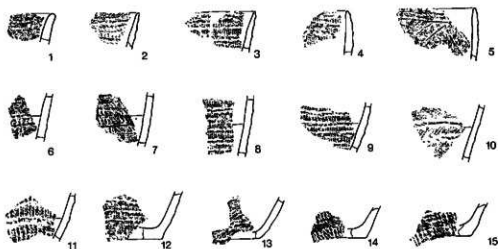


図68 包含層の土器(1)

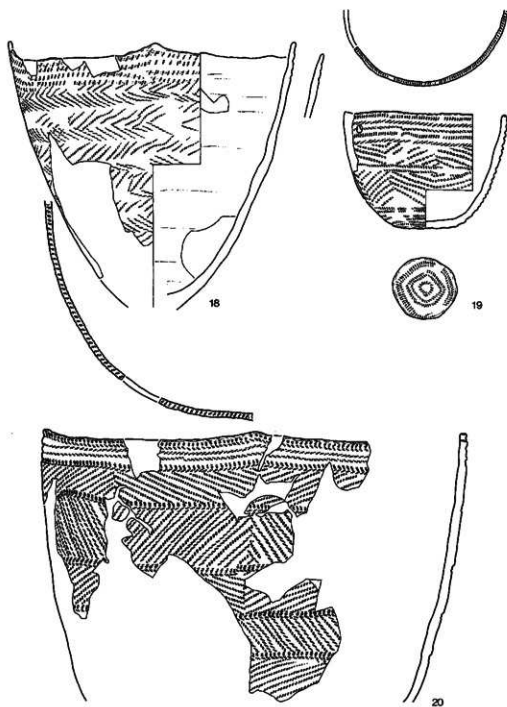


図69 包含層の土器(2)

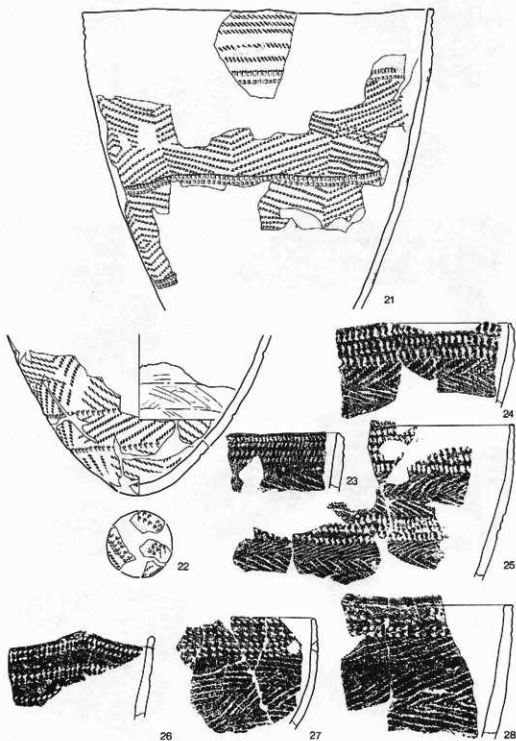


図70 包含層の土紋(3)

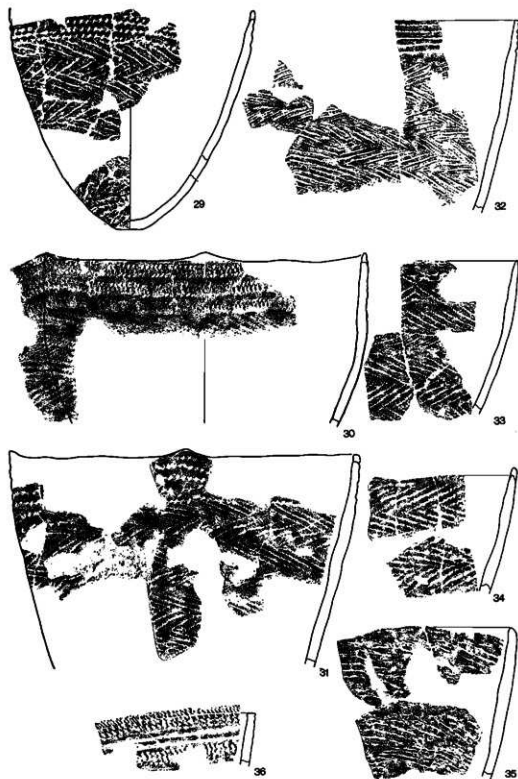


図71 包食層の土器(4)

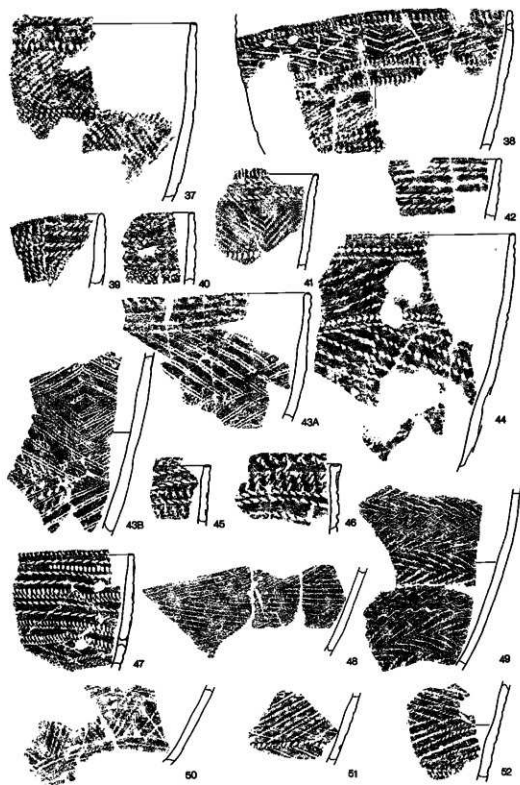


図72 包含層の土層(5)

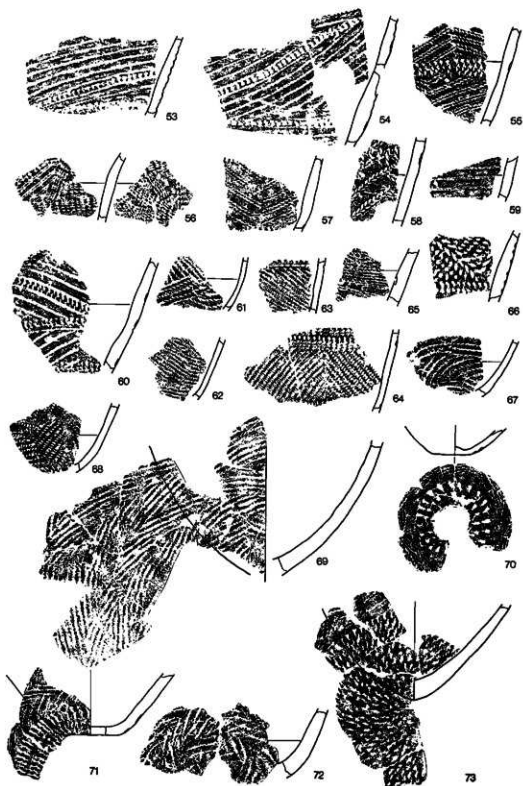


図73 包合層の土體(s)

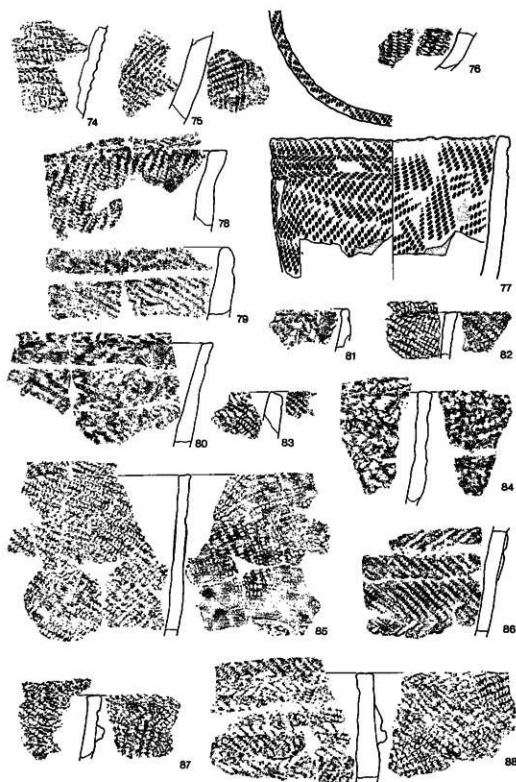


図74 包含層の土器(?)

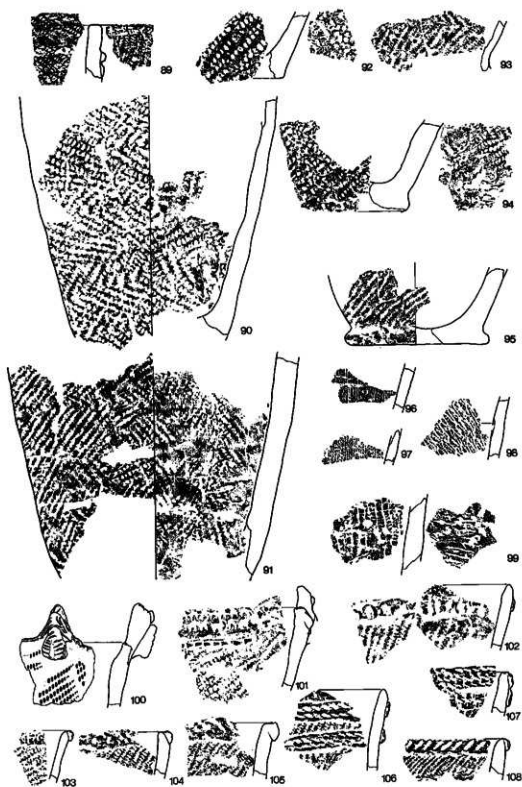


図75 包含層の土層(8)

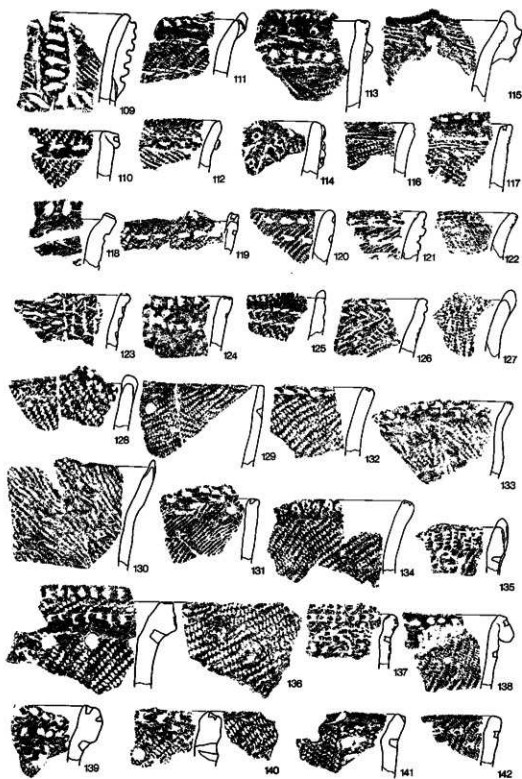


図76 包舎層の土器(9)



図77 包含層の土剖図

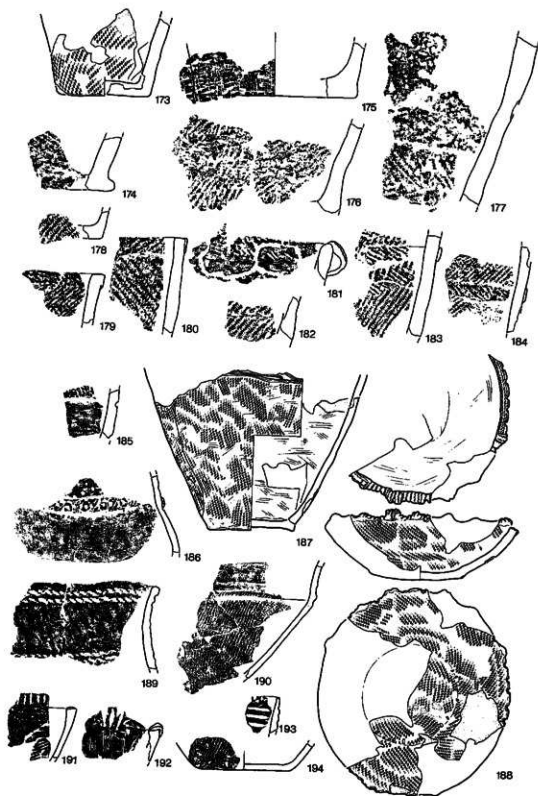


図78 包舎層の土器(1)

を地文としている。

b類・c類 (185・186) 185は磨消帯が比較的幅広い沈線で区画されている。186は壺の頸部～胴上半の破片で、頸部には貼付帯とともに刺突文がみられる。

V群 (186～194) 本群は全体の1.6%にあたる213点が出土し、すべてc類に分類される。187・190・194は大洞A式で、187は深鉢、190・194は同一個体の浅鉢である。189は口縁と頸部に縄線文が施された壺である。188・191～193はタンネトウL式で、188・191・192は浅鉢、193は深鉢である。
(野中一宏)

2) 石器 (図79～90)

14,848点検出された石器類のうち、フレイク、チップ、礫、礫片が94%を占め、石器では6:4の割合で剥片石器が多い。剥片石器の器種別出土頻度は、石鏃が29%、スレイパーが28%を占め、以下Uフレイク、つまみ付ナイフと続く。礫石器は石斧が36%と最も多く、以下すり石、石錐の順に続く。しかし、いずれの器種も完形品が極めて少なく、砥石を除き破片が80%を占めている。

石鏃 (1～71) 320点出土したうち、175点は2～7類に細分され、残りは破片である。

3類 (1～25) 柳葉形、木葉形、五角形を呈する薄身の石鏃で、早期に属するものである。石材は黒曜石が卓越している。柳葉形のもの(1～7)は基部が尖るもの(3)と平基のもの(4)が、木葉形のものは基部先端が丸味を帯びるもの(8・9)と尖るもの(10～12)がある。五角形のもの(13～25)は長さ1cmほどの非常に小型なもの(13・14)から4cmほどの大型のもの(24)まである。25は他に比べ厚みがあり、形態から前期後半のものと考えられる。

4類 (26～50) 石材は黒曜石に限られている。H-22床面出土の資料と類似するものが多いことから、前期前半に属するものが大半を占めていると思われる。形態は基部が平基をなすもの(26～36)と明瞭に内湾するもの(42～50)、どちらともつかないもの(37～41)がある。

5類 (51～55)・6類 (56～58) 石材はすべて黒曜石である。

7類 (59～71) 石材は99%まで黒曜石で、わずかにメノウ製のものがみられる。形態はかえしが不明瞭なもの(59・60)と明瞭なもの(61～71)があり、明瞭なものの中には71のように肩部が内湾するものもある。

石槍またはナイフ (72～84) 41点出土したうち、18点は細分不能の破片である。

1類 (72～77) 石材は黒曜石が比較的多い。72・73は肩部が寸詰まりで左右非対称である。また、73～75は基部端が若干外へ張り出している。76は焼けており、白色化している。

2類 (79～81・83・84) 石材は黒曜石、頁岩、珪岩で、83・84を除き1類に比べ厚味があふ。80の尖頭部には磨耗痕がみられる。83・84は形態から前期に属するものと思われる。

4類 (78・82) 石材は黒曜石である。82は肩部周縁に非常に細かな調整痕がみられ、尖頭部と基部には、わずかに原石面が残されている。

石錐 (85～90) 剥片石器の中で最も少なく、わずかに9点だけである。

1 類 (85・86) 黒曜石の剥片の一端に刃部を作出したもので、85は原石面を残す素材の表裏に入念な調整を加えて刃部としている。

2 類 (87~90) 石材はすべて頁岩で、棒状のもの (87・88)、比較的薄味の素材に入念な二次加工を施し、一端に尖頭部を作出して刃部としたもの (89)、つまみ部を作出したもの (90) がある。87は両端に磨耗痕がみられる。

つまみ付ナイフ (91~141) 142点出土のうち、29点は細分不能の破片である。本類には 1 類 (91~109)、3 類 (110~121)、4 類 (122~137)、5 類 (138~141) の 4 タイプがある。タイプ別の出現頻度は 1 類が23%と最も多く、4 類がこれに次ぐ。石材の使用頻度はどのタイプも頁岩が卓越しているが、4 類の中で厚味のあるグループは黒曜石を比較的多く用いているようである。

スクレイパー (142~171) 石鏝に次いで多く、310点が出土した。石材の使用頻度は形態によって異なり、エンドスクレイパー類は黒曜石が卓越しており、側縁や一端に刃部を作出するものには、頁岩や珪岩なども多用されている。142~149は片面全面加工で裏面の側縁にも調整痕がみられる。150~157は縦長の素材の側縁に二次加工を施して刃部としている。158は黒曜石製で、両側縁にノッチがみられる。159~171はエンドスクレイパーで、両面加工のヘラ状のもの (160)、片面周縁加工のもの (161~171) がある。

使用痕・加工痕のあるフレイク (172~176) 261点中、過半数は黒曜石の素材である。

石核 (177~180) いずれも原石面を残している剥離が進んだ黒曜石の残核である。

石斧 (181~205) 279点出土のうち、80%は細分不能の破片である。石材は泥岩 (黒色および緑色を含む) がほとんどで、1 類 (181)、2 類 (182~193)、3 類 (194~200)、未製品 (201~205) に細分される。

2 類 (182~193) 側縁に剥離調整が施されたもの (182~185)、全面磨製のもの (186~193) がある。後者には比較的小型で偏平なもの (187~190)、大型で肉厚のもの (193) がある。186・187は側縁にベッキングが施されており、186はその部分が著納部であったため凹んでいる。

3 類 (194~199) 細身のタイプ (194~198) と比較的幅のあるもの (199) がある。

未製品 (200~205) 200は石のみの未製品で擦り切り痕がまだ残されている。201~205は素材面を残し、側縁に剥離調整が施されたもので、刃部は作出されていない。

たたき石 (206~214) 54点のうち39点は細分不能の破片である。石材は安山岩が比較的多く、泥岩や片麻岩なども使われている。206は棒状礫 (1 類)、207~211は偏平礫 (2 類)、212・213は球形礫 (3 類) を素材とし、側縁や腹背面に敲打痕がみられるものである。214は6面体に近い素材を使っており、各面の中央部は敲打によって大きく凹んでいる (4 類)。

すり石 (215~225) 213点のうち、202点は破片で、タイプ別では北海道式石冠が最も多い。石材は、北海道式石冠には砂岩が多用されており、その他のものには安山岩が多い。215は三角柱状礫の腹を擦ったもの (1 類) で、早期のものと思われる。216は偏平礫の側縁を擦ったもの (2 類) で、剥離調整痕もみられる。217~224は北海道式石冠 (4 類)。使用面に大き

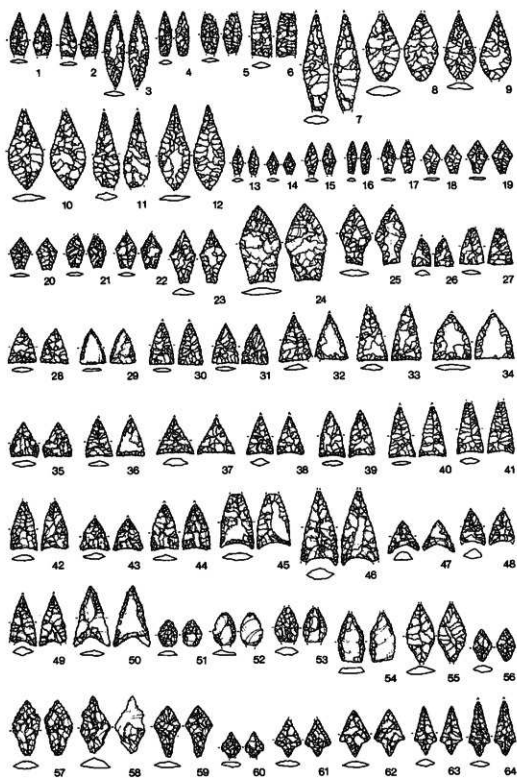


図79 包含層の石鏃(1)

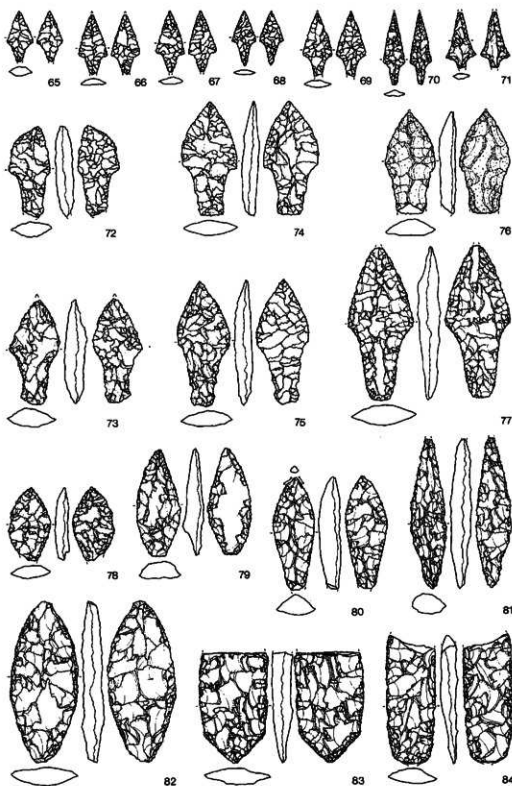


図80 包舎層の石器(2)

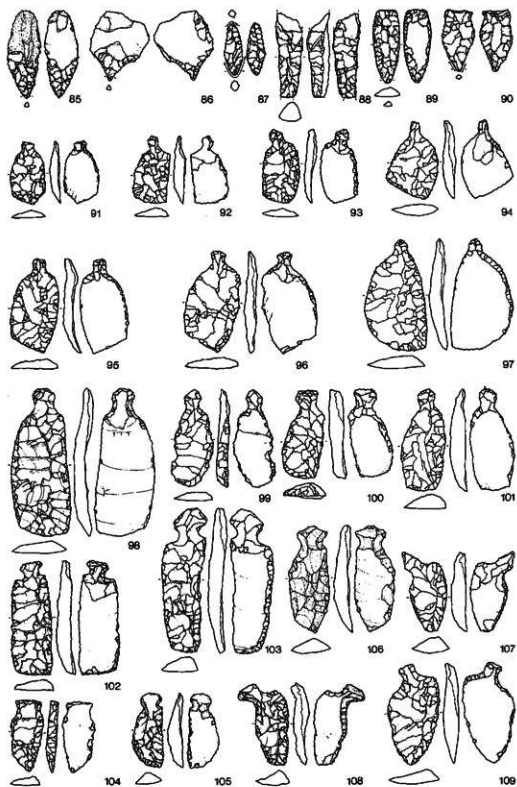


図81 包舎層の石鏡(3)

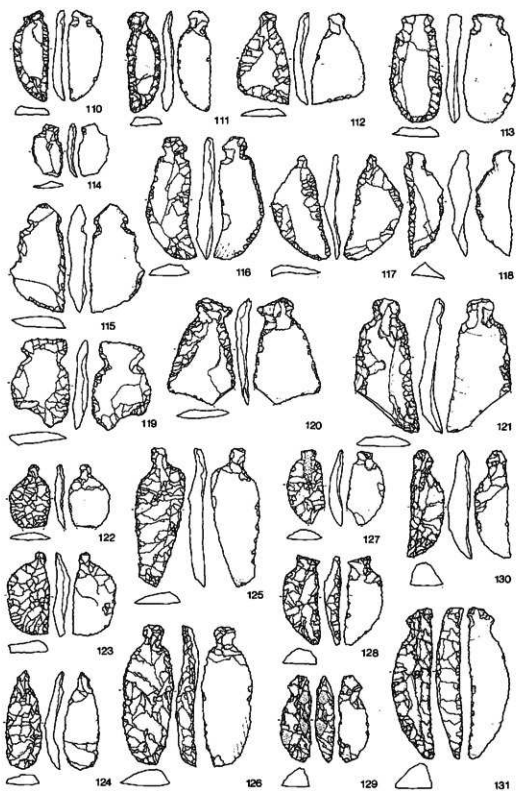


図82 包含層の石器(4)

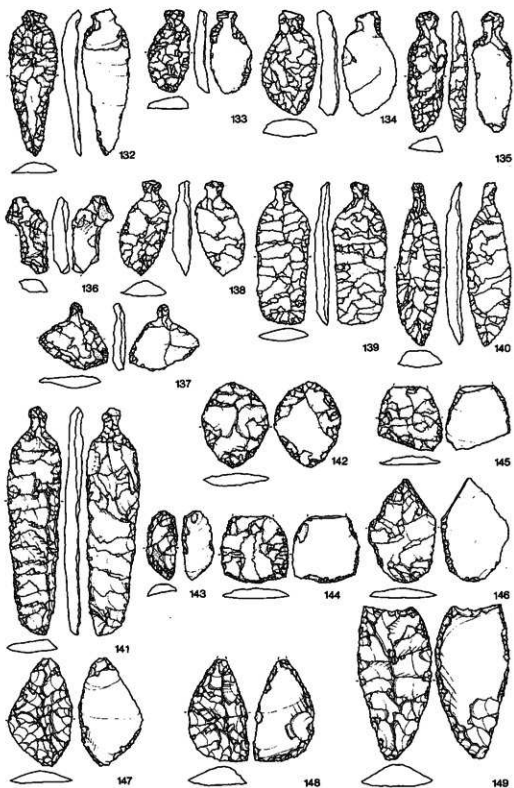


図83 包合層の石函(5)

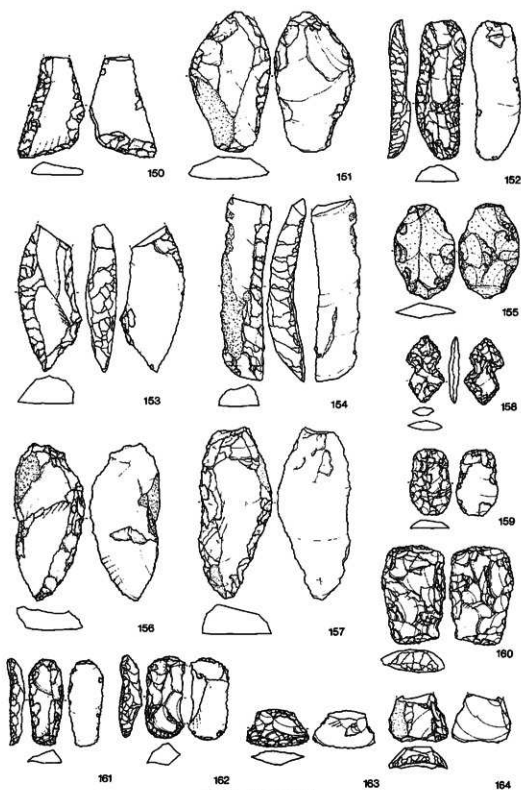


図84 包合層の石脈(6)

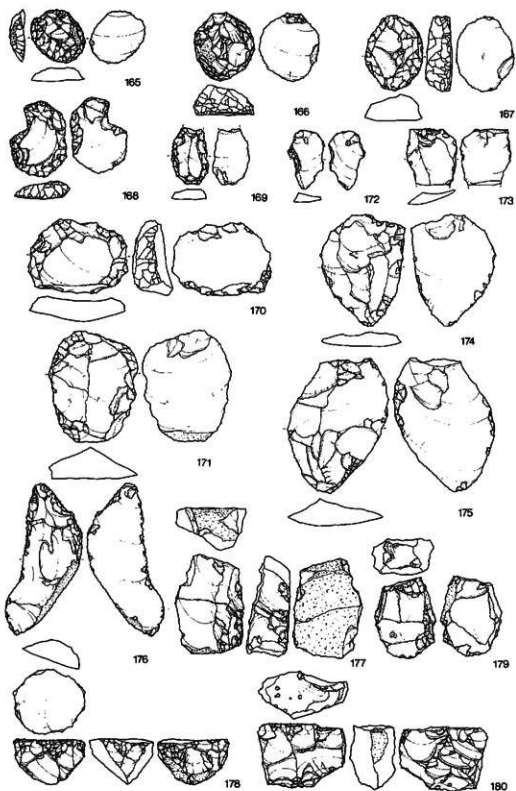


図85 包舎層の石録(7)

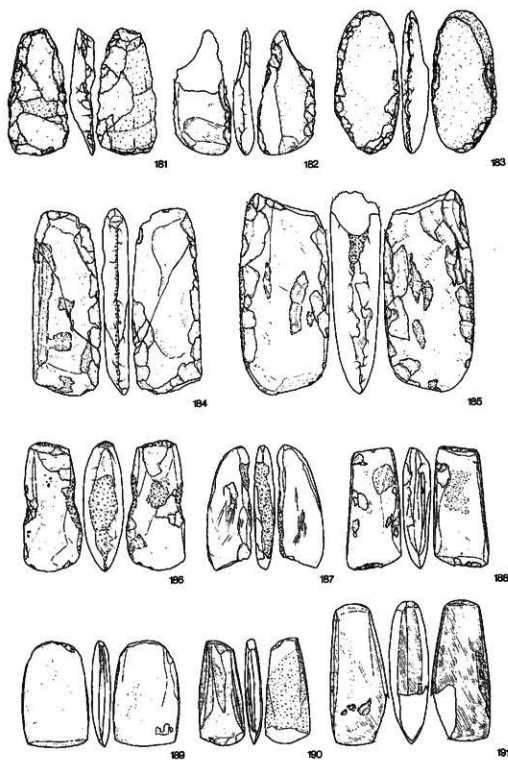


図86 包層の石(8)

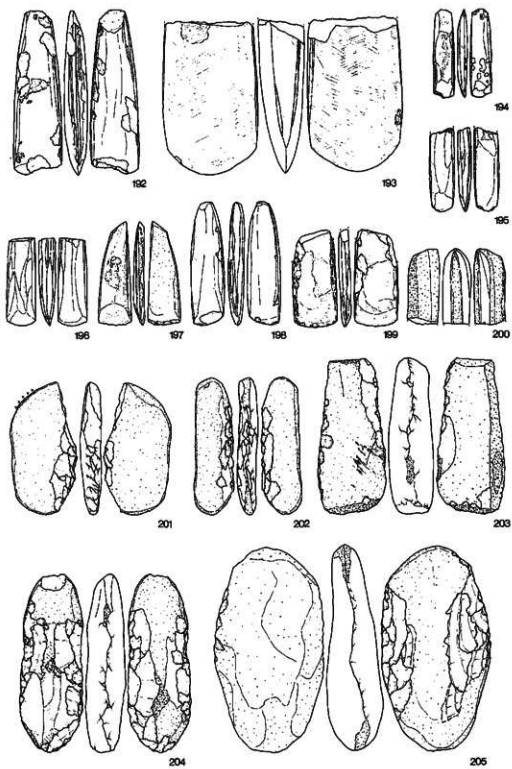


図87 包含層の石器(9)

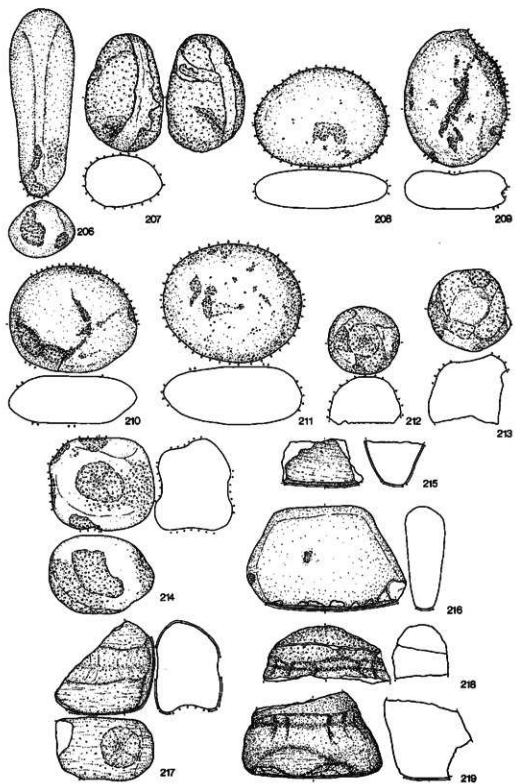


図88 包含層の石類

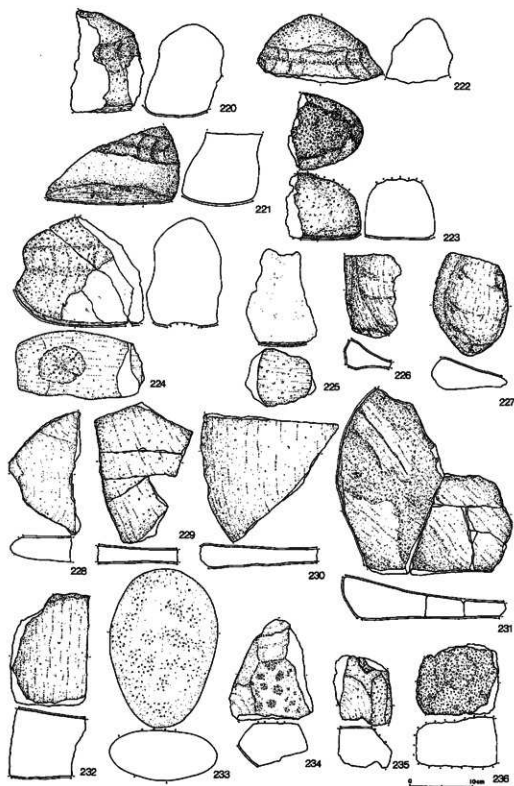


図89 包含層の石器(1)

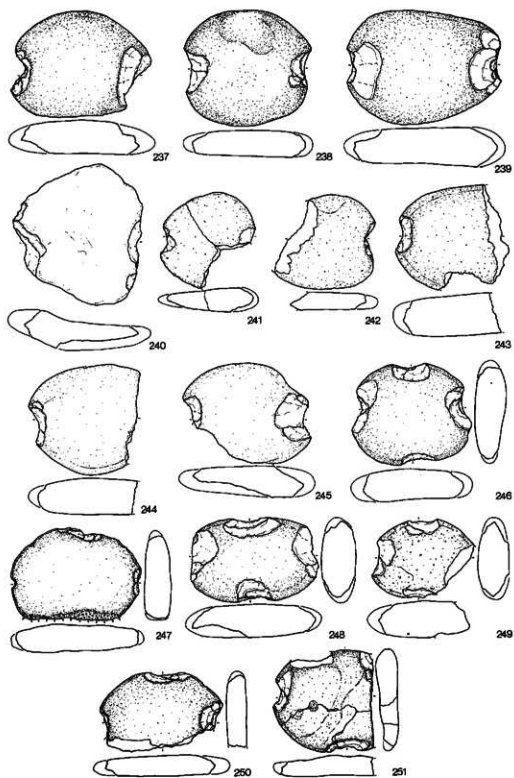


図90 包含層の石鏡(1)

な凹みを伴うものがめだつ (217・224)。223は頭部破損後、破損した箇所を敲打している。
225はスタンプ状の形をした軽石の一端を擦っている。

礫石 (226~232) すべて砂岩を用いている。偏平な素材の両面を使用しているもの (226~231) が多く、角礫の各面を砥面としているもの (232) も若干みられる。

石皿・台石 (233~236) 図の縮尺は1:6である。石材は砂岩、安山岩で、大型精円礫の腹背面に敲打痕がみられるもの (233) と使用面が平滑化しているもの (234~236) がある。

石鍾 (237~251) 102点のうち81点は破片である。石材は片麻岩が卓越しており、他に砂岩、珪岩なども使われている。タイプは4ヵ所に打ち欠きのある+ (プラス) 型 (246・248~251)、長軸の両端と短軸の一方に打ち欠きのあるもの (247)、長軸の両端に打ち欠きのある- (マイナス) 型 (237~245) がある。247の一端には敲打痕もみられる。 (野中一宏)

表18 包含層の掲載実測・推定還元土器一覧

番号	名称	分類	発掘区	大きさ (mm)		備考	番号	名称	分類	発掘区	大きさ (mm)		備考			
				長さ	幅						長さ	幅				
16	陶片	1b-4	16-02	—	(32.0)	—	30	陶片	1b-4	16-02-50	—	(25.0)	—	推定還元		
17	+	+	16-06-51-02	—	(32.4)	—	31	+	+	16-09-09	—	(37.0)	—	+		
18	+	+	16-09	(27.7)	35.5	—	38	+	+	K4-05	—	(22.1)	—	+		
19	+	+	K5-02	12.0	17.4	6.9	77	+	1b	16-09	—	25.5	—	—		
20	+	+	K4-05-55	—	(45.0)	—	171	+	1b-2	16-04	—	—	—	8.2	推定還元	
21	+	+	K4-07-56-66-75-77	—	(37.0)	—	173	+	1b-3	K6-08	—	—	—	9.7	—	
22	+	+	K5-02	—	—	7.0	187	+	Va	H7-41	—	—	—	6.2	—	
23	+	+	K5-02	(17.4)	(19.0)	2.0	推定還元	188	浅鉢	+	H7-16	7.4	6.4	25.7	—	—

表19 包含層の掲載拓影土器一覧

番号	分類	部位	発掘区	番号	分類	部位	発掘区	番号	分類	部位	発掘区
1	1b-3	口	17-16	42	1b-4	口	K4-05	72	1b-4	底	J6-51
2	+	+	H7-07	43	+	+	K4-56	73	+	+	K4-35-36
3	+	+	H5-07	44	+	+	K4-05	74	1a-1	胴	J6-24-34
4	+	+	H7-37	45	+	+	K5-00	75	1a-2	+	16-91
5	+	+	H7-08	46	+	+	16-88	76	+	底	H7-66
6	+	胴	H7-07	47	+	+	J5-59	78	1b	口	H7-19-28
7	+	+	H7-27	48	+	胴	J6-41	79	+	+	16-97-98
8	+	+	H6-98	49	+	+	J6-30	80	+	+	K5-31
9	+	+	+	50	+	+	J6-51-61	81	+	+	16-93
10	+	+	H7-07	51	+	+	K4-08	82	+	+	J5-58
11	+	+	H7-06	52	+	+	K4-56	83	+	+	16-65
12	+	胴	H6-07	53	+	+	K4-05	84	+	+	5458
13	+	+	H7-36	54	+	+	K4-25-56	85	+	+	J5-96
14	+	+	H7-07	55	+	+	K4-05	86	+	+	J5-58
15	+	+	H6-96	56	+	+	J5-59	87	+	+	H7-32
24	1b-4	口	K5-00	57	+	+	17-01	88	+	+	J5-58
24	+	+	J5-69	58	+	+	K5-22	89	+	+	K5-70
25	+	+	J5-07-07-04	59	+	+	K4-75	90	+	胴	K5-21
26	+	+	J6-52	60	+	+	K4-75	91	+	+	17-04
27	+	+	J6-50	61	+	+	K4-55	92	+	底	J5-58
28	+	+	H7-03-14	62	+	+	出土地点不明	93	+	+	K5-11
32	+	+	J5-02	63	+	+	J5-79	94	+	+	K5-51
33	+	+	16-87	64	+	+	K4-05	95	+	+	J5-58
34	+	+	J5-08	65	+	+	17-06	96	+	胴	16-97
35	+	+	J6-51	66	+	+	K4-38	97	+	+	H7-17
36	+	+	K4-76-86	67	+	胴	16-84	98	+	+	J6-23
37	+	+	J5-69	68	+	+	K4-05	99	+	+	17-03
40	+	+	J6-69	69	+	+	J5-96	100	1b-1	口	J7-21
42	+	+	K4-75	70	+	+	J5-69	101	+	+	H7-39-49
43	+	+	J5-59	71	+	+	J6-62	102	1b-2	+	H7-04

番号	分類	部位	地 區 区	番号	分類	部位	地 區 区	番号	分類	部位	地 區 区
103	Ⅱb-2	□	H7-04	133	Ⅱb-2	□	H7-30	163	Ⅱb-3	Ⅱ	H7-31
104	"	"	H7-22	134	"	"	H7-46	164	"	"	H7-48
105	"	"	H7-34-35	135	Ⅱb-3	"	H7-23	165	"	"	H7-38
106	"	"	H7-43	136	"	"	出土地点不明	166	"	"	H7-54
107	"	"	H7-33	137	"	"	H7-19-29	167	"	"	H6-99
108	"	"	H7-28	138	"	"	H7-17	168	"	"	H7-31
109	"	"	H7-28	139	"	"	H7-47	169	"	"	H7-49
110	"	"	H7-22	140	"	"	H7-17	170	"	"	H7-19-29
111	"	"	H6-90	141	"	"	H7-28	171	Ⅱb-2	Ⅱ	H7-32-33-34
112	"	"	H7-18	142	"	"	H7-04	174	"	"	H6-98
113	"	"	H7-22	143	"	"	H7-28	175	"	"	H7-31
114	"	"	H7-18	144	"	"	H6-97	176	Ⅱb-3	Ⅱ	H7-17
115	"	"	H7-08	145	"	"	埴土-38	177	"	"	H7-37
116	"	"	H7-18	146	"	"	H7-15	178	"	"	H7-37
117	"	"	H7-21	147	"	"	H7-39	179	Ⅱa	□	H7-18
118	"	"	H6-97	148	"	"	H7-18	180	"	"	H7-40
119	"	"	H7-35-36	149	Ⅱa	Ⅱ	H7-18	181	"	"	H6-08
120	"	"	H7-45	150	Ⅱb-1	"	H6-90	182	"	Ⅱ	H6-06
121	"	"	H7-01	151	"	"	H7-13	183	"	"	H6-06
122	"	"	H7-05	152	"	"	H7-31	184	"	"	H7-24
123	"	"	H7-07	153	Ⅱb-2	"	H6-89	185	Ⅱa	"	H6-96
124	"	"	H7-15	154	"	"	H7-21	186	Ⅱc	"	H7-03
125	"	"	H7-22	155	"	"	H7-11	189	Ⅱc	□	H6-86-87
126	"	"	H7-35	156	"	"	H6-80	190	"	"	H7-41
127	"	"	K4-83	157	"	"	H7-30	191	"	"	H7-40
128	"	"	H7-22	158	"	"	H6-31	192	"	"	H7-32
129	"	"	H7-33	159	"	"	H7-24	193	"	"	G7-69
130	"	"	H7-17	160	"	"	H7-44	194	"	Ⅱ	H7-41+47
131	"	"	H7-02	161	"	"	H7-39				
132	"	"	H7-39	162	"	"	H6-90				

表20 包倉層の掲載石器一覧

番号	名称	分類	発掘区	大きさ(mm)	長さ(g)	材質	番号	名称	分類	発掘区	大きさ(mm)	長さ(g)	材質
1	石 槌	A.3	H7-05	(2.2)×1.0×0.2	(0.4)	Obs	23	石 槌	A.3	K4-23	2.8×1.4×0.3	0.8	Obs
2	"	"	H7-36	(2.3)×0.9×0.2	(0.4)	"	24	"	"	K4-36	4.1×2.2×0.4	3.4	"
3	"	"	K5-41	(3.8)×1.1×0.4	(1.4)	"	25	"	"	I6-78	3.0×1.8×0.3	1.4	"
4	"	"	H7-07	2.5×0.7×0.2	0.3	"	26	"	A.4	I6-30	3.0×1.0×0.2	6.3	"
5	"	"	H7-38	(2.1)×0.9×0.2	0.4	"	27	"	"	I6-98	(1.9)×1.3×0.3	(0.5)	"
6	"	"	I5-96	(2.3)×1.0×0.3	0.9	"	28	"	"	I6-51	1.8×1.5×0.3	0.6	"
7	"	"	K4-35	5.1×1.4×0.4	2.9	Sh	29	"	"	I6-23	1.8×1.4×0.3	0.3	"
8	"	"	H7-17	3.6×1.8×0.5	2.2	"	30	"	"	I6-51	(2.2)×1.3×0.2	(0.5)	"
9	"	"	I6-96	3.4×1.5×0.3	1.3	Obs	31	"	"	K5-41	2.1×1.4×0.3	0.6	"
10	"	"	I6-95	(4.2)×1.9×0.4	(2.0)	"	32	"	"	K4-35	2.4×1.7×0.3	1.0	"
11	"	"	I7-22	4.0×1.4×0.4	(1.7)	"	33	"	"	I6-06	(2.8)×1.6×0.3	(1.1)	"
12	"	"	I7-15	4.4×1.6×0.3	1.8	Obs	34	"	"	K4-65	2.4×2.1×0.2	1.2	"
13	"	"	I6-51	1.3×0.6×0.2	0.1	Obs	35	"	"	I5-58	1.8×1.5×0.3	0.6	"
14	"	"	K5-70	1.1×0.6×0.1	0.1	"	36	"	"	I6-74	2.0×1.4×0.2	0.5	"
15	"	"	I6-50	1.6×0.7×0.2	0.2	"	37	"	"	I6-84	1.9×2.0×0.4	1.0	"
16	"	"	I5-58	1.7×0.5×0.3	0.1	"	38	"	"	I7-14	(2.8)×1.4×0.3	(0.7)	"
17	"	"	K5-60	1.7×0.8×0.2	0.2	"	39	"	"	K5-49	2.4×1.3×0.3	0.7	"
18	"	"	K4-45	1.5×0.9×0.1	0.1	"	40	"	"	I6-17	2.6×1.4×0.3	0.6	"
19	"	"	I6-92	1.7×1.1×0.2	0.3	"	41	"	"	I5-95	(2.7)×1.4×0.3	(1.0)	Obs
20	"	"	I5-59	1.7×1.1×0.2	0.3	"	42	"	"	K4-18	2.5×1.5×0.3	(1.0)	Obs
21	"	"	I7-32	1.7×1.0×1.2	0.3	"	43	"	"	I6-12	1.7×1.5×0.3	0.6	"
22	"	"	I6-79	1.9×1.1×0.2	0.3	"	44	"	"	I6-74	2.4×1.5×0.3	0.9	"

番号	名 称	分類	規格	大きさ(mm)	重量(kg)	材 質	
45	石 籠	A4	K4-05	(2.0)×1.8×0.4	(2.1)	Sh	
46	"	"	K4-05	(3.0)×2.0×0.7	(3.6)	Obs	
47	"	"	I6-07	1.6×1.7×0.4	0.6	"	
48	"	"	K5-11	1.9×1.3×0.5	(0.9)	"	
49	"	"	K4-18	3.0×1.4×0.4	(1.0)	"	
50	"	"	K4-05	3.2×1.9×0.4	1.5	Sh	
51	"	A5	K4-76	1.4×1.0×0.3	0.4	Obs	
52	"	"	K4-76	1.7×1.2×0.3	0.5	"	
53	"	"	I5-07	1.8×1.2×0.4	0.8	"	
54	"	"	K4-06	2.6×1.4×0.3	1.2	"	
55	"	"	K5-40	(3.0)×1.5×0.5	(1.0)	"	
56	"	A7	G7-09	1.7×1.0×0.4	0.5	"	
57	"	"	G7-30	2.8×1.4×0.4	1.4	"	
58	"	"	H7-10	3.0×1.6×0.6	1.9	"	
59	"	"	I7-31	2.7×1.4×0.3	0.8	"	
60	"	"	H7-02	1.3×1.0×0.3	0.3	"	
61	"	"	I6-40	2.0×1.4×0.3	(0.6)	"	
62	"	"	I7-24	2.4×1.6×0.4	0.9	"	
63	"	"	I6-23	2.5×1.2×0.4	0.7	"	
64	"	"	H7-06	2.8×1.1×0.3	0.7	"	
65	"	"	I6-02	2.7×1.4×0.5	1.3	Obs	
66	"	"	K5-12	(3.1)×1.5×0.4	(1.3)	Obs	
67	"	"	I6-02	3.3×1.5×0.4	1.3	"	
68	"	"	K4-04	2.8×1.3×0.3	0.6	"	
69	"	"	I7-12	2.3×1.5×0.4	1.4	"	
70	"	"	I7-10	3.8×1.1×0.3	0.9	"	
71	"	"	K4-18	(2.0)×1.6×0.4	(1.0)	"	
72	石籠土留付(7)	B1	K5-21	4.7×2.2×0.5	7.7	Obs	
73	"	"	K5-40	5.5×2.7×1.0	10.8	"	
74	"	"	K5-52	6.0×3.0×0.8	12.4	Sh	
75	"	"	K5-41	6.6×2.8×0.8	13.6	"	
76	"	"	K5-31	5.4×3.7×0.8	10.3	Obs	
77	"	"	H7-04	6.1×3.4×1.1	22.0	"	
78	"	B4	K4-45	3.8×2.3×0.7	5.6	"	
79	"	B2	K5-21	5.6×3.3×0.9	11.8	Obs	
80	"	"	K5-22	5.9×3.2×1.1	13.0	Sh	
81	"	"	K5-30	7.9×3.3×1.1	14.8	"	
82	"	B4	I7-01	8.5×3.5×1.2	34.4	Obs	
83	"	B2	I7-11	(5.0)×3.6×1.0	(18.1)	"	
84	"	"	I7-22	(6.0)×2.6×0.9	(13.1)	"	
85	石 籠	C1	I6-40	4.6×1.8×0.9	6.8	"	
86	"	"	I5-06	3.7×2.5×0.5	4.5	"	
87	"	C2	I6-58	2.7×1.0×0.7	1.6	Sh	
88	"	"	K5-11	4.4×1.4×1.1	7.0	"	
89	"	"	I5-02	3.9×1.3×0.6	3.1	"	
90	"	"	I6-40	2.3×1.7×0.7	4.8	"	
91	つばね付(7)	D1	K4-45	3.4×1.8×0.4	2.4	"	
92	"	"	I6-09	3.6×1.8×0.5	3.4	Obs	
93	"	"	I6-07	3.8×2.0×0.5	(20.8)	"	
94	"	"	K4-45	4.1×2.5×0.6	5.9	Sh	
95	"	"	I6-76	4.9×2.5×0.5	7.3	Obs	
96	"	"	K5-03	5.3×2.7×0.5	8.6	Sh	
97	つばね付(7)	D1	I6-20	5.5×3.3×0.7	12.0	Sh	
98	"	"	I5-58	7.8×3.0×0.7	19.2	"	
99	"	"	K4-55	5.1×2.1×0.6	6.6	Sh	
100	"	"	I6-04	4.7×2.0×0.7	7.3	Obs	
101	"	"	"	I7-05	5.4×2.2×0.8	9.1	"
102	"	"	I5-05	6.0×2.1×0.6	9.8	"	
103	"	"	K5-41	7.4×2.2×0.8	14.1	Sh	
104	"	"	I6-40	3.8×1.7×0.4	3.4	Sh	
105	"	"	K5-40	4.0×1.7×0.7	4.0	Obs	
106	"	"	I6-75	5.6×2.1×0.8	8.8	Obs	
107	"	"	I6-51	4.3×2.0×0.7	6.0	Obs	
108	"	"	I6-09	4.4×2.4×0.6	6.1	"	
109	"	"	I6-23	5.4×2.7×0.7	9.8	Sh	
110	"	"	D3	I7-08	4.8×1.9×0.5	5.0	"
111	"	"	I7-02	5.3×1.7×0.5	5.5	"	
112	"	"	I6-05	4.9×2.8×0.6	6.0	"	
113	"	"	K5-40	5.7×3.8×0.5	9.6	Obs	
114	"	"	I6-08	2.8×1.6×0.3	1.6	Sh	
115	"	"	I7-07	5.8×3.1×0.8	11.0	"	
116	"	"	I6-24	6.5×2.2×0.8	10.2	"	
117	"	"	I6-56	5.6×2.5×0.5	5.1	"	
118	"	"	I6-49	5.5×1.8×0.7	6.2	"	
119	"	"	I6-75	4.6×3.1×0.6	9.2	Obs	
120	"	"	I7-03	(5.0)×3.0×0.7	(10.0)	"	
121	"	"	I6-09	7.2×3.1×0.7	15.4	"	
122	"	"	D4	I6-06	3.3×2.2×0.4	2.8	Sh
123	"	"	I5-51	4.5×2.3×0.7	7.0	"	
124	"	"	K4-55	5.2×1.9×0.6	5.9	"	
125	"	"	I6-51	7.3×2.5×0.7	11.1	"	
126	"	"	I6-54	7.5×2.6×0.8	15.6	"	
127	"	"	I5-49	3.9×1.9×0.6	4.2	"	
128	"	"	L2-40	4.8×1.9×0.8	6.6	"	
129	"	"	I5-49	4.6×1.4×1.0	6.4	"	
130	"	"	K5-41	5.7×1.8×1.1	10.8	"	
131	"	"	K5-22	8.0×2.0×1.1	18.8	"	
132	"	"	K5-40	7.7×2.5×0.8	12.3	"	
133	"	"	I6-76	4.3×2.2×0.5	5.6	Obs	
134	"	"	K4-55	5.5×2.9×0.9	13.8	"	
135	"	"	I6-70	6.3×2.1×0.8	10.4	"	
136	"	"	I6-46	3.8×1.6×0.8	5.9	"	
137	"	"	K4-45	2.6×3.8×0.6	6.4	"	
138	"	D5	I6-41	5.0×2.3×0.9	9.4	Obs	
139	"	"	I6-47	7.5×2.8×0.7	15.6	Sh	
140	"	"	I6-57	9.6×2.3×0.8	16.5	"	
141	"	"	K5-00	12.0×2.7×0.7	22.1	"	
142	つばね付(7)	E	I6-57	4.5×4.6×0.8	10.9	Obs	
143	"	"	K5-15	3.6×1.7×0.8	3.5	"	
144	"	"	K4-30	3.6×3.6×0.7	9.4	Sh	
145	"	"	K4-45	(12.0)×2.5×0.5	(6.2)	"	
146	"	"	I7-31	5.4×2.6×0.5	10.4	Obs	
147	"	"	K4-08	5.7×3.4×0.8	12.3	Sh	
148	"	"	K4-45	5.5×3.1×1.1	16.7	"	

番号	名称	分類	発掘区	長さ (m)	重量 (g)	材質	番号	名称	分類	発掘区	長さ (m)	重量 (g)	材質
149	スズレイバー	石	K-45	8.3×2.9×1.2	25.6	*	301	石 界	F	I7-22	10.4×5.2×1.4	131.8	Gr-Mat
150	*	*	I6-47	5.4×2.8×0.8	14.0	Chc	302	*	*	I7-05	10.8×3.3×1.4	89.1	*
151	*	*	I6-22	7.5×4.2×1.2	45.0	*	303	*	*	I7-06	12.2×5.4×3.4	268.7	*
152	*	*	I6-09	7.3×5.4×0.9	21.0	Sh	304	*	*	I7-23	14.1×5.1×3.0	218.1	Met
153	*	*	K5-11	7.7×3.1×1.3	37.4	Pa	305	*	*	I6-05	16.4×6.8×2.9	690.0	Gal
154	*	*	I7-20	9.7×2.4×1.5	26.2	Sh	306	丸石	G1	I7-30	16.9×4.1×3.1	481.0	Sh
155	*	*	I7-13	5.0×3.2×0.8	9.8	*	307	*	G5	I6-77	9.3×6.4×4.2	247.7	And
156	*	*	I6-09	8.3×3.9×1.1	39.4	And	308	*	*	I6-79	7.8×10.5×3.1	415.7	*
157	*	*	I5-09	8.9×3.7×1.4	30.4	Obs	309	*	*	I6-79	10.8×8.2×3.1	656.6	Gal
158	*	*	I7-28	3.5×1.8×0.5	3.0	*	310	*	*	I6-79	8.6×10.4×3.9	970.0	*
159	*	*	I5-29	3.5×2.2×0.5	4.7	Sh	311	*	*	I6-05	9.3×11.0×4.8	765.0	And
160	*	*	K4-57	5.2×3.4×1.1	25.1	*	312	*	G3	K5-35	4.1×5.7×5.5	193.0	Met
161	*	*	K4-45	4.6×1.8×0.7	6.6	Obs	313	*	*	I7-15	5.6×5.5×5.4	253.8	*
162	*	*	K4-26	2.0×4.4×1.3	10.5	*	314	*	G4	K5-31	8.3×7.2×6.3	599.0	Agg
163	*	*	K4-55	2.0×3.3×0.7	3.8	*	315	十字石	J1	I6-72	16.0×14.3×1.2	1336.0	And
164	*	*	I7-12	2.6×3.1×1.1	8.8	*	316	*	J3	I5-68	7.9×12.8×3.0	480.0	*
165	*	*	I6-84	2.7×3.1×0.7	5.8	*	317	北瀬式石	J4	K5-40	7.1×17.3×5.3	270.0	Sh
166	*	*	I7-12	3.4×3.1×1.4	16.1	*	318	*	*	K5-60	14.2×10.0×4.6	224.1	*
167	*	*	K5-41	3.9×3.0×1.3	17.3	*	319	*	*	I7-11	16.3×11.3×6.6	683.0	*
168	*	*	K4-85	4.0×3.0×0.7	8.7	*	320	*	*	K5-12	8.1×(6.0)×5.5	323.2	Gal
169	*	*	K4-53	3.0×1.9×0.5	3.6	*	321	*	*	I6-05	16.0×10.7×7.2	1587.0	*
170	*	*	I6-84	3.9×5.3×1.8	42.4	Sh	322	*	*	K5-41	13.7×10.1×15.7	218.0	*
171	*	*	I5-29	5.7×4.7×1.9	48.8	Obs	323	*	*	K5-11	16.0×10.0×15.2	245.7	And
172	スズレイバー	石	I6-73	3.1×2.0×0.4	2.2	*	324	*	*	I5-05	8.6×16.0×6.0	680.0	*
173	*	*	K4-26	3.0×2.7×0.8	5.7	*	325	十字石	J1	I6-90	17.0×15.0×16.7	147.0	Perm
174	*	*	K5-22	5.8×4.4×0.8	18.5	*	326	黒石	K1	K5-22	6.7×4.5×2.1	62.7	*
175	*	*	K4-35	7.4×4.9×1.5	46.4	Sh	327	*	*	I6-97	8.4×6.1×2.4	117.3	*
176	*	*	I7-13	8.1×3.1×1.5	33.4	Obs	328	*	*	K5-11	8.5×5.3×3.2	121.2	*
177	石 界	DO	I6-73	5.3×3.6×2.1	40.1	*	329	*	*	I7-10-13	11.3×7.9×1.8	132.8	*
178	*	*	I6-44	2.3×3.8×2.3	27.3	*	330	*	*	I6-72	10.1×10.8×2.1	219.5	*
179	*	*	I6-60	4.2×3.9×1.7	35.6	*	331	*	*	I5-49	14.7×14.0×3.1	569.0	*
180	*	*	K4-36	3.4×4.7×2.4	36.8	*	332	*	*	I5-68	9.2×6.1×5.5	433.2	*
181	石 界	F1	I6-92	10.0×4.8×11.0	396.0	Gr-Mat	333	台石・石壁	M	I7-26	25.3×17.0×7.3	4050.0	*
182	*	F2	I6-92	9.9×4.4×1.5	45.7	*	334	*	*	I7-12	15.8×13.8×6.3	1290.0	*
183	*	*	I7-13	11.2×5.1×1.9	154.5	Met	335	*	*	K5-41	11.1×12.0×8.7	1170.0	And
184	*	*	I7-11	14.0×5.3×1.8	278.4	Gr-Mat	336	*	*	I7-39	11.1×12.8×7.5	1530.0	*
185	*	*	I7-31	15.9×7.1×3.6	690.0	*	337	石 界	N	K5-13	9.6×11.1×2.7	359.2	Sh
186	*	*	I6-90	10.3×4.6×3.1	221.0	*	338	*	*	K5-03	5.2×10.2×2.1	332.9	And
187	*	*	I6-23	9.8×3.6×1.4	34.7	*	339	*	*	K5-13	9.1×12.5×3.2	549.0	*
188	*	*	K5-21	9.8×6.4×2.2	185.0	Met	340	*	*	I7-01	11.3×10.4×2.8	323.8	Chc
189	*	*	I6-85	8.5×5.3×1.4	114.0	Gr-Mat	341	*	*	I6-05	17.0×17.0×1.8	1323.7	Gal
190	*	*	I6-85	8.5×5.3×1.3	61.5	*	342	*	*	I7-14	7.5×(7.0)×1.4	130.0	Sh
191	*	*	K5-32	11.4×(4.0)×3.0	242.1	*	343	*	*	I5-77	16.1×10.7×3.3	246.7	*
192	*	*	I7-13	13.0×3.9×1.8	114.0	*	344	*	*	I7-04	8.8×(8.0)×2.9	339.0	Sh
193	*	*	I7-32	12.1×7.5×3.4	1279.0	*	345	*	*	I6-47	16.0×16.0×2.4	1225.0	Gal
194	*	F3	I6-05	7.0×1.7×0.8	116.7	Met	346	*	*	I6-01	8.0×9.6×2.6	300.5	Gal
195	*	*	I7-14	16.0×7.0×1.1	127.0	Gr-Mat	347	*	*	I6-90	7.2×10.4×2.3	291.1	*
196	*	*	I7-14	17.0×7.4×1.4	142.0	*	348	*	*	K5-11	6.8×10.4×2.8	245.2	Sh
197	*	*	I6-84	8.2×2.6×0.9	31.3	Met	349	*	*	I6-75	16.0×(17.0)×2.8	1171.0	And
198	*	*	K5-49	9.7×2.6×1.2	58.0	Gr-Mat	350	*	*	I6-46	19.7×6.1×1.7	1166.1	Gal
199	*	*	K5-49	17.7×3.5×0.8	147.7	*	351	*	*	I6-58	6.1×(7.0)×1.8	142.4	Gal
200	*	*	I7-22	6.0×2.6×2.0	57.2	*							

4. II 黒層上面にみられた動物の足跡と風倒木痕 (図91)

動物の足跡は S. P. 2, 600~2, 640の間で多数検出された。このうち、列として確認できたものは6ヵ所 (A~F 列) ある。大半は痕跡の大きさや歩様からキツネが残したものと思われるが、その痕跡は美沢川流域のものに比べて非常に不明瞭であり、進行方向などは確認できない。

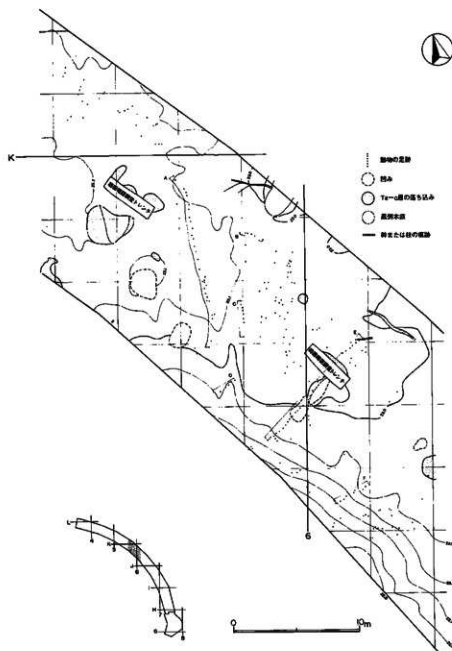


図91 II 黒層上面の地形と動物の足跡

かった。足跡列はB列を除き、平坦面から斜面方向に延びている。列として確認できなかったものは主にA列の北側、A列とE列の間、F列の南東側に分布している。

A列 J5-89区からJ5-87区にあり、ほぼ南北に進路をとっている。総延長は14mほどで、歩幅は30-40cm前後と思われるが、一部に1mほどと離れた部分がみられる。南端付近では列に乱れがみられる。

B列 J5-98区にある。北西-南東方向に延びており、延長3mほどを確認した。歩幅はA列同様30cm前後と思われる。

C列 J5-87区にある。延長4mほどで、ほぼ南北に延びており、歩幅は40-50cmである。

D列 J5-86区にある。延長3mほどで、北東-南西方向に延び、歩幅は50cm前後である。

E列 J6-07区からJ5-95区にかけてである。D列同様北東-南西方向に延びており、延長16mほどを確認した。歩幅は30-40cmである。

F列 J6-04区にある。延長4mほどで、北東-南西方向に延び、歩幅は50cm前後である。

これらの足跡のほかⅡ黒層上面にはTa-c火山灰をまき込む風倒木痕や凹地が多数みられる。風倒木痕の大多数は北西方向に倒れた痕跡を示しており、中には幹や枝の痕跡を残しているものもみられる。J5-99区にあるものはその典型的な例で、樹木の幹の太さは根元付近で直径20cmほどと思われる。また、J6-17区内にある幹の痕跡には炭化した部分が認められた。なお、Ⅱ黒層分析の際の検鏡によれば(第1分冊Ⅱ章)、その上部に炭化植物片が比較的多くみられるとのことで、ほとんどの樹木が北西方向に倒れている点とともに当時の環境を知る上で非常に興味深い。

(野中一宏)

5. 火災住居跡出土木炭の液体シンチレーション炭素年代

京都産業大学 理学部 山田 治

測定番号	住居跡番号	層 位	測 定 結 果
KSU-1647	H-7	床	3,770±70y. B. P.
KSU-1648	H-9	＊	2,900±140y. B. P.
KSU-1649	H-15	覆土層	3,950±50y. B. P.
KSU-1650	H-16	HP-2 覆土	3,680±130y. B. P.
KSU-1651	H-26	床	4,010±40y. B. P.

6. 美沢10・美沢11遺跡出土の土器の胎土分析

美沢川流域周辺における縄文時代前期に属する土器の形式の違いと胎土との関係、及び同一型式内での胎土との関係をみるために、主に土器胎土の一次鉱物組成を調べた。供試土器は昭和61年度に調査した美沢10および11遺跡出土の中野式、楕苗・大麻V式、及び円筒下層式の四型式4点である(写真図版33-3)。

土器の胎土分析にあたっては、東京都埋蔵文化財センターの上條朝宏氏に実験方法と文献、及び胎土中の海綿骨針について直接御教示頂いた。深く感謝する次第である。

1. 試料の処理

試料の処理方法は上條（1983）に準じた。処理の手順は次の通りである。

土器片の採取→写真・拓本等による記録→肉眼や実体顕微鏡による土器表面の観察→乾燥→10gを鉄製乳針にて粉砕→1NのHCl中で超音波洗浄→クエン酸法による脱鉄処理→乾燥→篩分け→極細粒砂分（1/8-1/16mm）についてカナダバルサムを封入剤としてプレパラート作成→偏光顕微鏡下でカバーガラス全域を鏡検→雲母類を除いた鏡検数に対する各鉱物・生物起源粒の粒数%を算出。雲母類については、その粒数が全鉱物粒数の1%>のとき「まれ」、1-10%のとき「少ない」、10-25%のとき「多い」、25%≦のとき「非常に多い」と表現した。各プレパラートにおいて、風化粒、粘土塊、及び雲母類を除いた総鏡検粒数は150-345粒である。

火山ガラスについては、形態分類を行い、各型の量比を粒数%で表わした。形態は、主に、粒子全体の形状、気泡の形状と大きさによって以下のように分類した。

F型：扁平で、気泡が繊維状に細長く平行に伸びているもの。

L-C型：気泡が破砕し、泡壁がridgeをなして直線-曲線状に走るもの。

M型：気泡と泡壁がつくる模様は網目状にみえるもの。気泡の断面はほぼ円形。

N型：扁平または塊状で、針状の気泡・条線があるもの。微小の針状結晶を含むことが多い。

P型：薄い平板状。比高が極く小さいridgeが1-2本走る場合がある。

UT：未分類

2. 結果

土器の表面観察結果を表21に、胎土の一次鉱物組成を図92に示す。

試料1は、内・外面に植物圧痕を有する土器で、砂粒が多い。極細粒砂分では、重鉱物が少なく、火山ガラスが多い。火山ガラスはL-C型が多い。重鉱物量は、角閃石>斜方輝石>

表21 供試土器の表面観察

試料	胎土地	時代	型式	地文	部位	厚8mm	色		焼成及び 保存状態	表面観察
							外	内		
1	浅沢11	縄文・中	野	R.L	胴	12.0-13.0	5YR 6/4	10YR 4/2	良	径1mm>のangularな石英・石炭屑。量比約10%。内・外面に植物圧痕あり。
2	浅沢10	縄文・前 大塚	V	R.L (地文不明)	口縁	11.1-14.8	7.5YR 4/3	10YR 7/3	良	径3mmの扁平雲母等のangular, sub-angular な碎片を含む。外・内面に植物圧痕あり。重鉱物少。
3	浅沢10	縄文・前 大塚	V	R.L (地文不明)	口縁	7.2-9.6	7.5YR 4/1	2.5Y 4/1	良	中粒砂質のangularな重鉱物多。重鉱物比約10%。重雲母を含む。花崗岩類、片雲母の碎片を含む。断面には片雲母の付着あり。土器片は厚がやや不均一。
4	浅沢	縄文・前 大塚	V	西沢文L	胴	9.2-9.8	7.5YR 6/6	7.5YR 5/4	良	分級の良い中粒砂質のangularな石英・重鉱物を含む。内・外面に植物圧痕あり。

●水色・灰乾後の色。標準土色係による。
●●上條（1983）による。
●●●おかけの炭色。

単斜輝石≒不透明鉱物(鉄鉱物)。角閃石はほとんど緑色系である。まれに、雲母類と長柱状の植物珪酸体を含む。

試料2は、外面と断面に植物圧痕を有する土器で、岩片を含む。極細粒砂分では、重鉱物が比較的多い。重鉱物量は、斜方輝石>不透明鉱物>角閃石≒単斜輝石。角閃石は緑系のものが多い。

試料3は、砂粒の他、岩片も比較的多く含む。土器断面には片岩様の片理が認められ、板状の剥離性を有する。極細粒砂分では、重鉱物が非常に多い。重鉱物量は、角閃石>斜方輝石>不透明鉱物≒単斜輝石。角閃石はほとんど緑色系である。雲母類を非常に多く含む。円心目の珪藻と二軸型の海綿骨針(宇津川ほか、1979、及び宇津川・上條、1980の分類による)をまれに含む。

試料4は、内・外面に植物圧痕を有する土器で、分級の良い砂粒を含む。極細粒砂分では、重鉱物が少なく、火山ガラスが多い。火山ガラスはL-C型が多い。重鉱物量は、角閃石≒斜方輝石>単斜輝石≒不透明鉱物。角閃石はほとんど緑色系である。長柱状の植物珪酸体と、羽状目の珪藻を少量含む。

3. まとめ

極細粒砂分の一次鉱物組成上、試料1と試料4の胎土は類似している。ともに、重鉱物が少なく、火山ガラスが多い。火山ガラスの形態は、両試料ともL-C型が多い。ただし、試料1にまれに含まれる雲母類は試料4に含まれず、また試料4に含まれる不透珪藻は試料1に含まれない。この点で、両試料の胎土は類似しているが、同一ではないと思われる。表面観察上では両者に明瞭な違いはない。型式上では、中野式と円筒下層式に当たる。

試料2と試料3は、同一型式(植苗・大森V式)の土器であるが、胎土は互いに異なる。他の試料の胎土とも異なる。特に試料3は、一次鉱物組成上他の試料と著しく異なり、表面観察においても容易に区別される。

以上のことから、ここで分析に供した4点の試料に限ってみれば、土器型式が異なれば胎土も異なるらしいこと、及び同一型式の土器であっても胎土が異なることが明らかとなった。

(花岡正光・野中一宏)

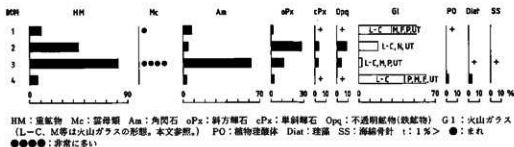


図92 土器胎土の一次鉱物組成

7. まとめ

昭和61・62年度の2か年にわたる調査の結果、縄文時代早期～統縄文文化期にかけての遺構、遺物がTa-c層をはさむ上下の文化層から検出された。これらの遺構、遺物は時期によって出土量や分布域に差が認められる。ここでは、遺跡での時間的な変遷を整理し、今年度得られた成果の中でも特徴的な縄文早期末葉の遺物分布についてまとめてみたい。

本遺跡内から検出された遺物の中で最も古く位置付けられるのは縄文早期の東剣路Ⅲ式（I b-1類）期のもので、これ以降、と切れたり増減を繰り返しながら統縄文期のもので出現する。早期では前述のI b-1類期以降中茶路式（I b-3類）期までわずかに増加する傾向にあり、東剣路Ⅳ式（I b-4類）期に最盛期を迎える。しかし、前期初頭になると遺物は極端に減少しており、中野式（Ⅱ a-2類）期から植苗式（Ⅱ b類）期へと変遷して行くごとに順次増加傾向を示し、中期に入って一時姿を消す。再び現われるのは中葉の円筒上層d・e式（Ⅲ a類）期からで、柏木川式・紅葉山式（Ⅲ b-2類）期に最盛期を迎え、トコロ6類（Ⅲ b-3類）期以降減少傾向をたどりながら、後期初頭の糸市式（Ⅳ a類）期をもってと切れる。これ以降は量的にも減少し、出現、消滅を繰り返している。出現するのは、後期中葉の手摺式またはホッケマ式（Ⅳ b類）期～後葉の堂林式（Ⅳ c類）期、晩期末葉の大洞A式・タンネトウL式（Ⅴ c類）期、統縄文文化後半の後北C₁式（Ⅵ群）期で、晩期末葉に一時増加する傾向がみられる（図93）。これらの主たる分布域をみると、台地上から斜面へ、斜面から台地上へと時期ごとに移動を繰り返している。主に台地上に分布する時期は、I b-4類期とⅡ b類期である。一方、I b-3類・Ⅲ a類～Ⅳ a類期・Ⅴ c類期は台地縁～斜面中腹に、Ⅱ a-2類期は斜面中腹～下位に主たる分布域がみられる。このうち、Ⅱ a-2類期とⅢ b-2類～Ⅳ a類期には前述のごとく集落が形成されており、最も活発に本遺跡が活用されていた時期である。

(1) 縄文早期末葉の遺物と遺物分布

2か年の調査では、この時期に属する住居跡などの遺構は発見されていないが、遺物量は最も多い。これらは主に調査区北半の台地平坦部に多出する傾向がみられ、特に濃密に分布する遺物集中地区が3か所確認された（図93・A～C群）。この遺物集中地区は60mほどの間隔で認められており、各ブロック間では土器の文様構成の違いによる出現頻度に相違がみられる。

I b-4類土器はその文様構成からみて二つに大別できるようである。一つは図68-16・17、図69-18に代表される木目状燃糸文が施されたグループ（a類）、他の一つは図69-19・20、図70-21・22に代表される横位に回転させた燃糸文によって連続山形文を構成するグループ（b類）である。

a類には口縁部と底部に絡条体圧痕文を施文する例と燃糸文だけを施文する例があり、絡条

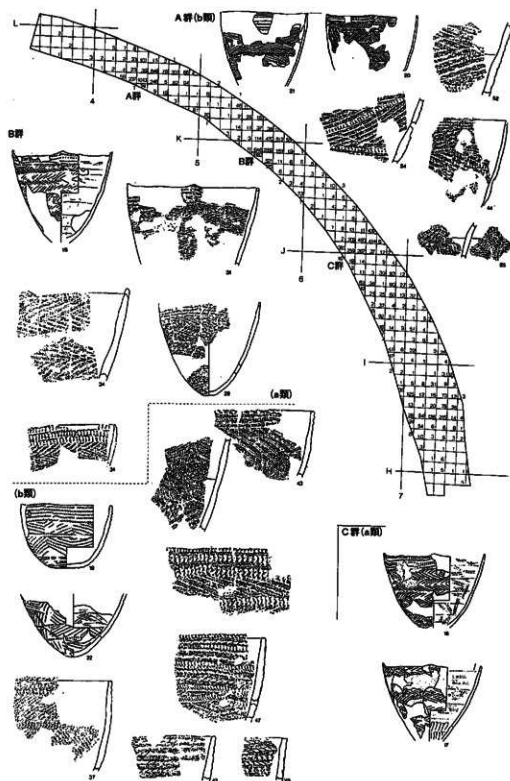


図93 I b-4 類土器の分布頻度と集中地区別の遺物

体圧痕文は図70-25のように稀に胴部にも付されるものがみられる。両者に付される燃糸文は後述する一群に比べ燃糸そのものが細く、軸に巻く段階で撓が戻されているのが一般的である。

b類は横環する格条体圧痕文によって文様帯を区切るものが一般的で、中には図72-43のように上下の山形文によって菱形を構成する例もある。これらに用いられる燃糸文の原体には、1段の縄1条の軸巻、1段の縄2条または3条を1単位とした軸巻、2段の縄1条の軸巻、組紐の軸巻があり、稀にこれらを組み合わせたものもみられる。1段の縄1条を軸巻したものはLとRをそれぞれ用いた原体が交互に施文されている。木目状燃糸文の一群に比べ回転圧痕がはっきりしており、このうちの一方は撓りが戻っている場合が通例である。1段縄2条または3条を1単位として軸巻したものには、同方向の撓糸を用いる場合と異方向の撓糸を用いる場合がみられる(図70-21と図73-55)。図69-20は1条の軸巻と3条1単位の軸巻が交互に施文されたものである。2段の縄1条を軸巻したものは、一般に写真図版33-2)-eにみられるような密に巻かれた原体が使用されている。組紐が施文される例はこの時期のものとしては初めて検出された資料であり、原体には平組みのほか丸組みのものもみられる。

これらの土器の底部は図70-20・図73-69・73に代表される尖底と図71-29・図73-70・71に代表される非常に小さい底径の平底のものが一般的で、a・b類ともにみられる。しかし、b類に細分できる底部の形態についてはその出土量が極めて少なく、しかも1例だけではあるが図69-19にみられるような底径の大きいものも出土していることから、現時点ではこれらの出現比を論ずることはできない。

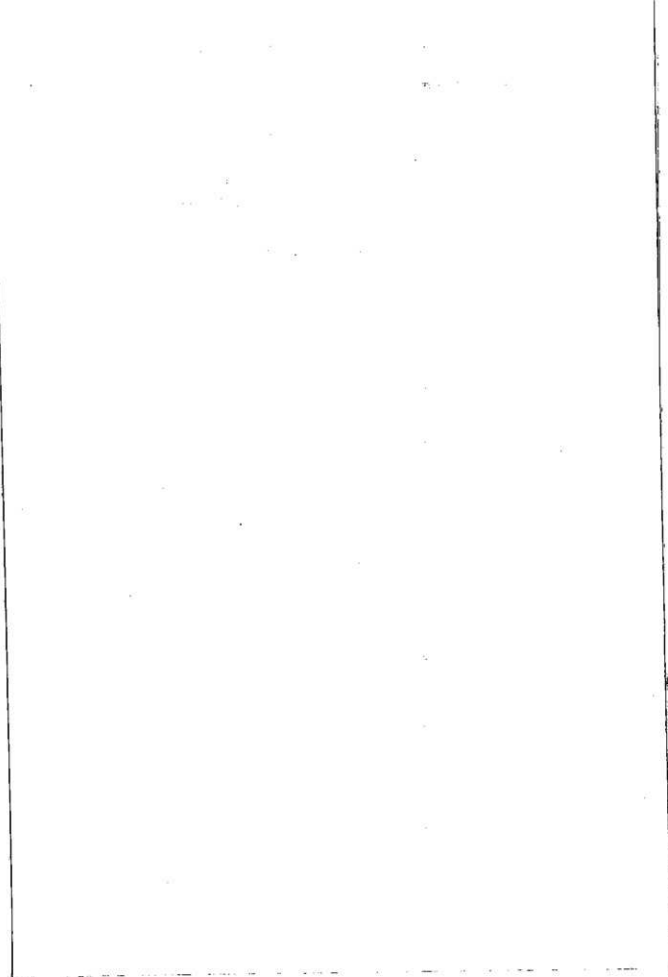
次に、これらの出土量や分布域についてみると、a類とb類の量比は6:4の割合でa類が多く、南半部に多出する傾向がある。遺物集中地区ではA群がこれにあたり、b類の出現比は1割にも満たない。一方B・C群ではこれらの比が逆転しており、B群ではほぼ6割が、C群では9割以上がb類に属している。b類の文様は1段1縄→1段多条→2段1条→組紐の順に出土しており、中でも1段1条のものが過半数を占めている。1段多条のものでは、同方向の撓糸を単位としたものが多い。これらの平面分布では、北に位置する集中地区ほど1段多条や組紐が施文されるグループの出現頻度が高くなる。

本遺跡におけるIb-4類期の遺物の有り方は、台地上に濃密に集中する地区がある。美沢川流域でも、こうした遺跡ではIb-3類土器や後、晩期の遺物出土量が極めて低いという共通点がみられる。しかし、美沢川流域の場合は本遺跡で検出されたb類の出現率が極めて低く、この点に違いがある。これは、本遺跡内においてもa・b類における分布域に差がみられる点からみると、a類とb類は時間差をもつものと考えられる。しかし、ここでは両者の新旧関係を特定するまでには至らなかった。今後、全道的あるいは東日本を含めた上での整理、分析を試みて行くべき課題である。

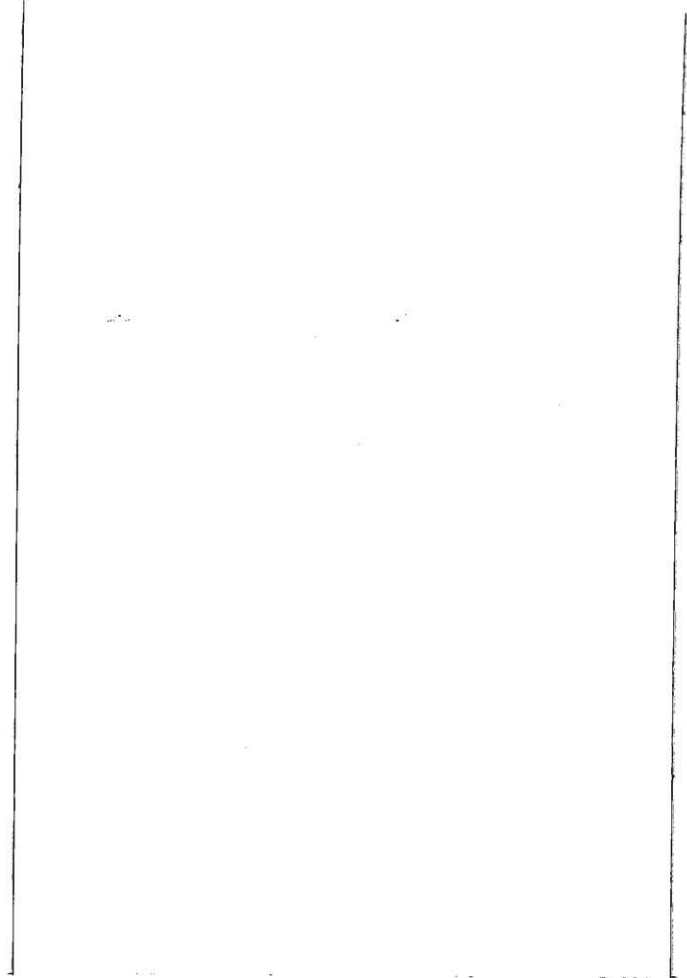
(野中一宏)

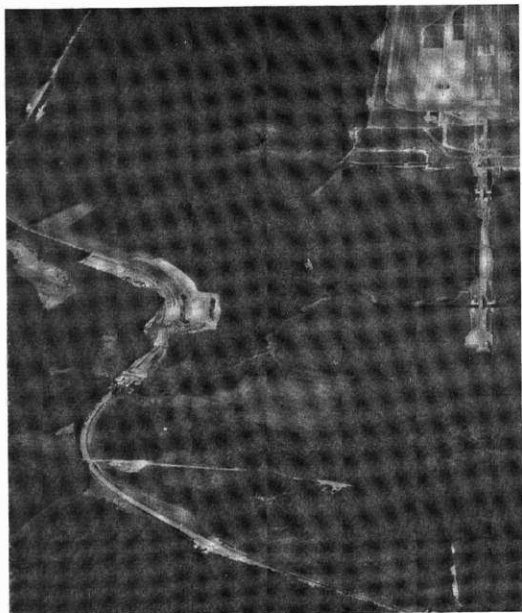
引用・参考文献（出典順）

- 上條朝宏（1983）：胎土分析Ⅰ。加藤晋平・小林達雄・藤本 強編「縄文文化の研究 5」、270 pp. : pp. 雄山閣出版。47-67.
- 小山正忠・竹原秀雄（1976）：新版標準土色帳（5版）、日本色研事業。
- 宇津川 徹・細野 衛・杉原重夫（1979）：テラフ中の動物珪酸体 " Opal Sponge Spicules " について。ペドロジスト、23、 pp. 134-144.
- 宇津川 徹・上條朝宏（1980）：土器胎土中の動物珪酸体について(1)。考古学ジャーナル、181、 pp. 22-25.



写真図版





遺跡遺景（南から、右上は新空港滑走路）

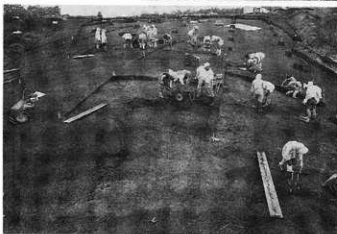
調査風景



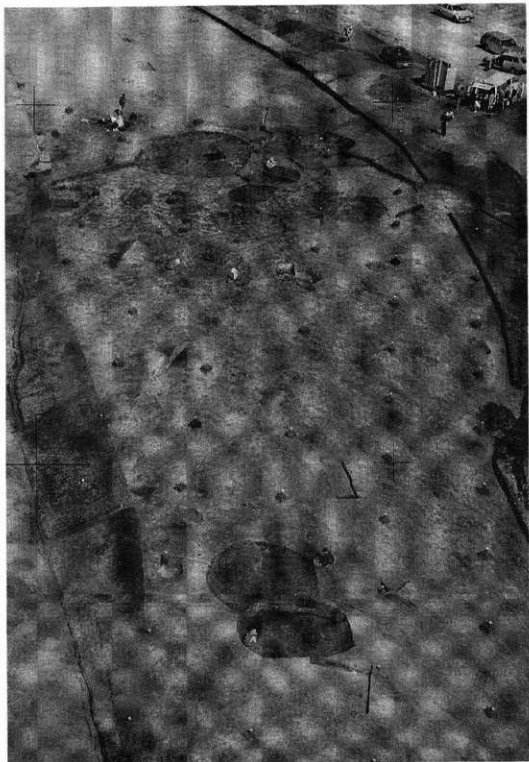
1) 住居跡群周辺 (北から)



火山灰(Ta-c)除去 2)▷



3) 斜面部 (南から)



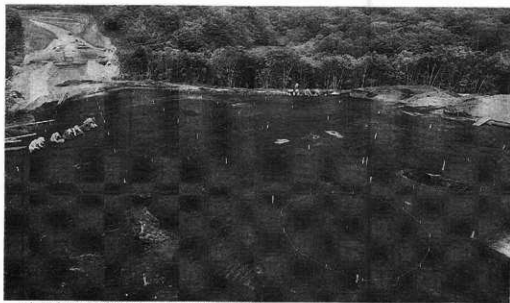
住居跡群全景（南から、RCヘリコプターから撮影）

住居跡群の調査

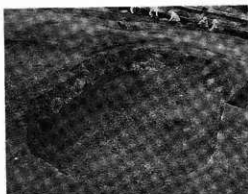
図版 4



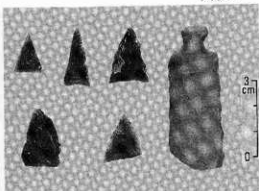
1) 住居跡群近景 (西から、手前はH-20)



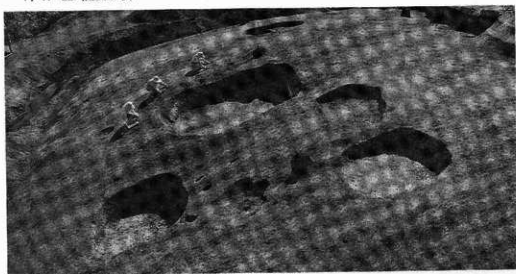
2) 調査前風景 (北東から、水系部分が住居跡)



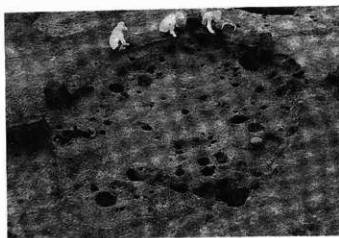
1) H-22 (南西から)



2) H-22の石器



3) 斜面下部の住居跡群 (北から、昭和61年度の調査)

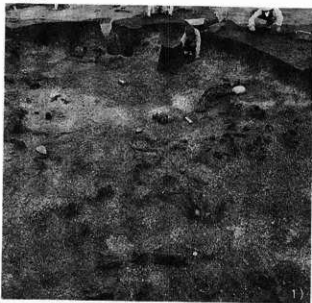


4) H-7 (北東から)



5) H-7 遺物出土状況 (東から)

図版 6



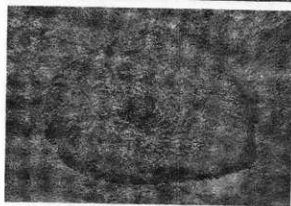
△ 2)



1) H-7 炭化材出土状況
(南東から)

2) H-7 炭化材・遺物出
土状況 (西から)

◁ 3) H-8 (北から)



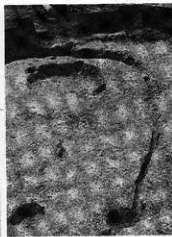
4) H-9 (南から)



5) H-9 炭化材出土状況 (南東から)



1) H-10・17 (南東から)



2) H-17周溝部 (東から)



3) H-17 (北西から)



4) H-17遺物出土状況 (東から)



5) H-11遺物出土状況 (北から)

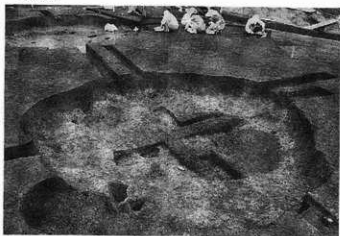


6) H-18遺物出土状況
(北西から)



7) H-11・18 (西から)

図版 8



1) H-12・19 (西から)



2) H-13炉跡 (西から)



3) H-13遺物出土状況
(北から)



4) H-13 (西から)



5) H-20土器出土状況 (北西から)



6) H-20土器出土状況 (南西から)



1) H-20 (南東から)



2) H-14掘り上げ土範囲 (南から)

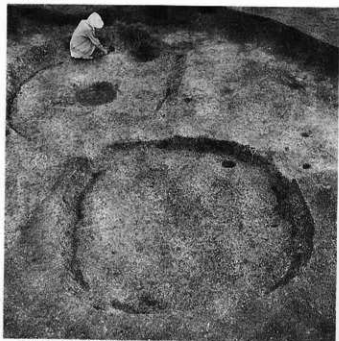


3) H-14遺物出土状況 (北から)



4) H-14 (北から、上方はH-22)

図版10



1) H-15・16 (北から、上方がH-16)



2) H-15遺物出土状況 (東から)



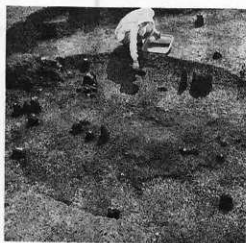
3) H-15炭化材出土状況 (南から)



4) H-16確認状況 (南西から)



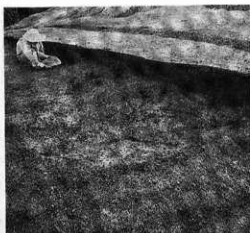
5) H-16遺物出土状況 (南から)



6) H-16遺物出土状況 (東から)



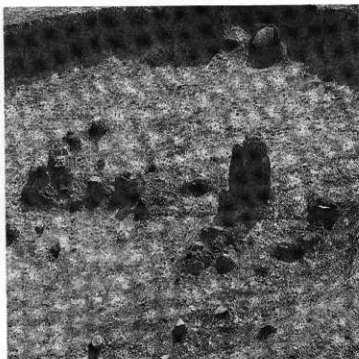
1) H-21 (南東から)



2) H-23 (北東から)



3) H-24 (北東から)



4) H-24炭化材出土状況 (北から)

図版12



1) H-26 (南東から)



2) H-26周溝部 (東から)



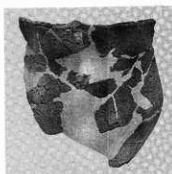
3) H-26遺物出土状況 (北から)



4) H-26炉跡 (南東から)



5) H-26炭化材出土状況 (北西から)



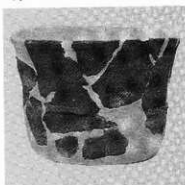
1)



2)



3)



4)



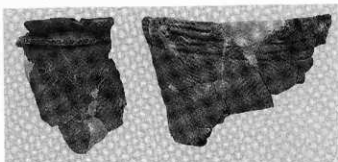
5)



6)



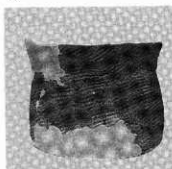
7)



8)

住居跡の土器(1)

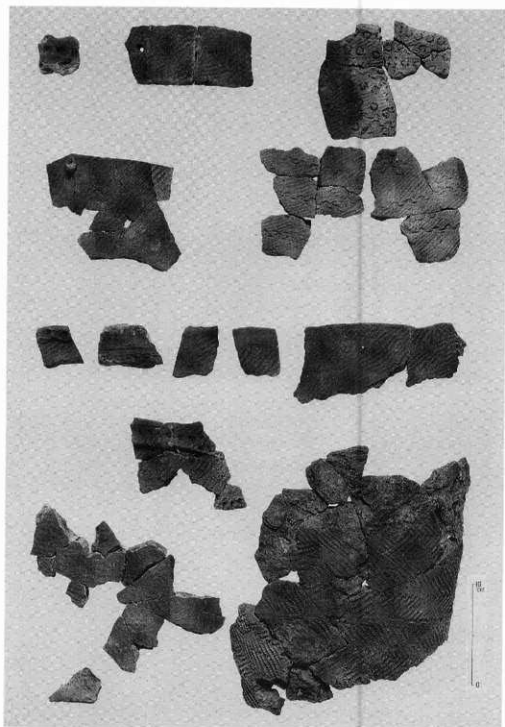
- 1)・2) H-7
- 3) H-10
- 4) H-11
- 5)・6) H-20
- 7) H-14
- 8) H-18
- 9)・10) H-26



9)

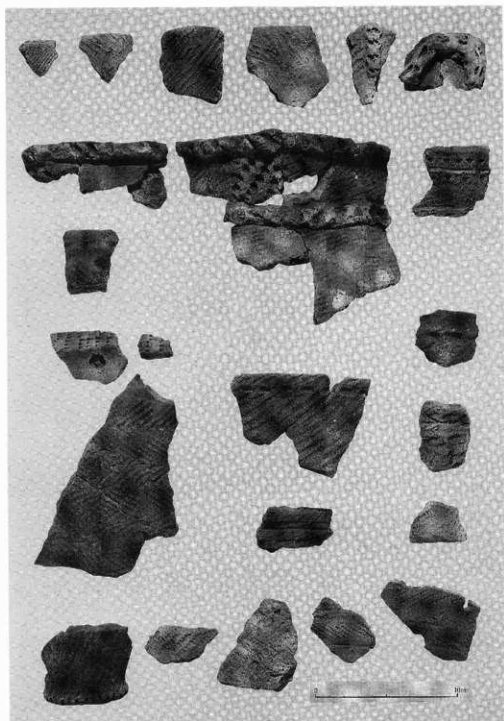


10)



住居跡の土器(2)

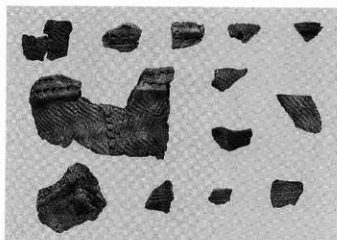
H-7△



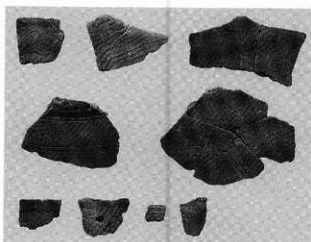
△H-8

住居跡の土器(3)

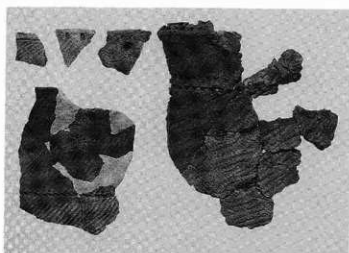
住居跡の土器(4)



1) H-10



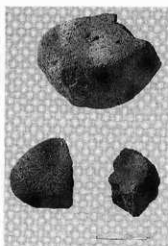
H-17 2)



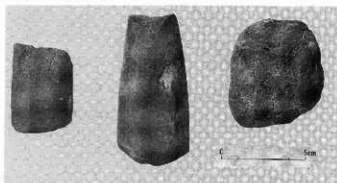
3) H-12



1) H-7 剥片石器

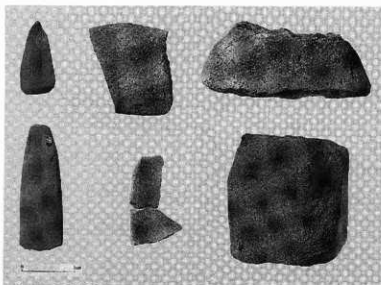


2) H-7 の台石・石皿



3) H-7 の石斧・たたき石

住居跡の石器(1)



4) H-8 の礫石器

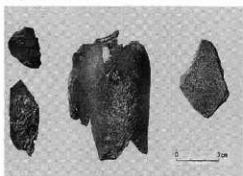
住居跡の石器(2)



1) H-8 剥片石器



2) H-17の石皿



3) H-17床面の石斧接合資料と砥石



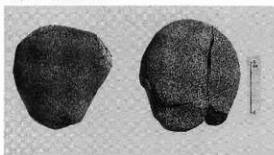
4) H-17床面の石斧片および剥片



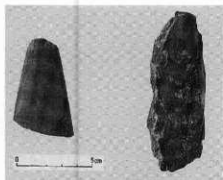
5) H-10剥片石器



7) H-16剥片石器

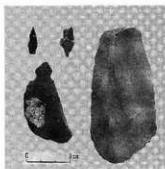


6) H-10曜石器



8) H-16の石斧

住居跡の石器(3)



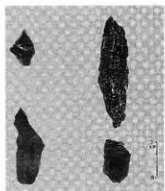
1) H-12の剥片石器



2) H-12の石斧



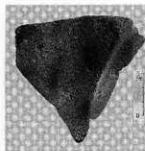
3) H-11の石斧



4) H-11の剥片石器



5) H-19の石斧



6) H-14の砥石



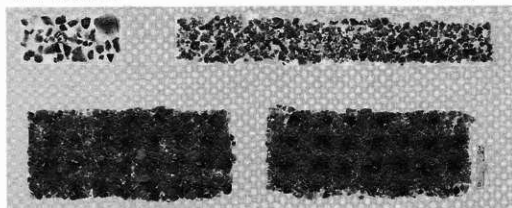
7) H-13の石槍



9) H-18の剥片石器



8) H-13の石皿

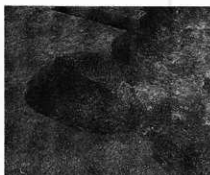


10) H-16床面のフレイク・チップ

図版20



△1) P-17 (西から)



△2) P-120 (西から)



△3) P-120遺物
出土状況(西から)



△4) P-130 (東から)



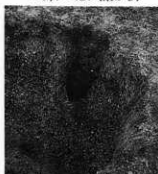
△5) P-124 (東から)



△6) P-119 (北東から)



△7) P-115 (北西から)



△8) P-123 (北東から)



△9) P-125 (西から)



△10) P-116 (南西から)



△11) P-122 (東から)

土壌の調査

- 1) I 黒層の土壌
- 2)~11) II 黒層の土壌



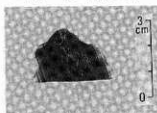
△1)P-126 (北から)



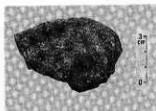
△3)P-128 (東から)



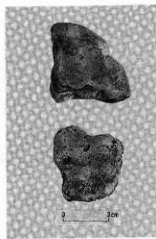
△2)P-113 (北東から)



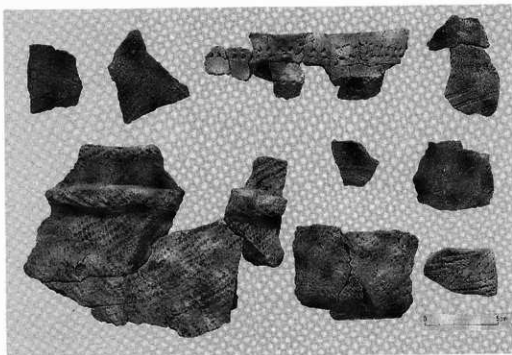
△4)土壙出土の剥片石器



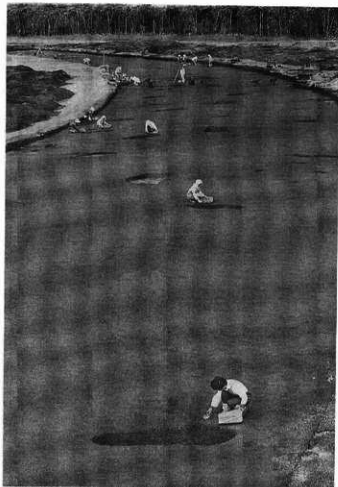
△5)土壙出土の礫石器



△6)P-113出土の焼成粘土塊



△7)土壙出土の土器



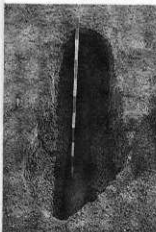
△1) Tピット群配列風景1 (南東から)

Tピットの調査

調査区南部に分布する一群



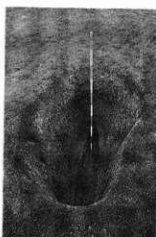
△2) T-7土層断面(南西から)



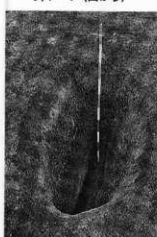
△3) T-4 (西から)



△4) T-7 (南から)



△5) T-8 (北から)



△6) T-9 (南から)



△1)Tピット群配列風景2 (北東から)



△2)Tピット群確認状況 (北東から)



△3)Tピット群配列風景3 (北西から)



△4)Tピット群配列風景4 (北西から)



△5)T-23・24 (南西から)



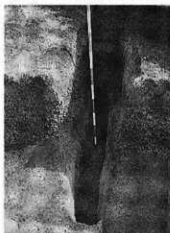
△6)T-23・24土層断面 (南西から)

調査区中央部付近のTピット群

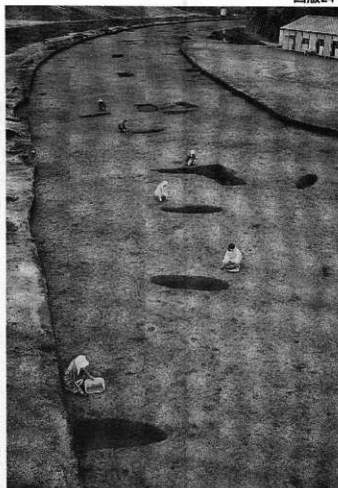
調査区北側のTピット群と
小判形のTピット



△1) T-35土層断面 (北から)



△2) T-35 (北から)



△3) Tピット配列風景 (北西から)



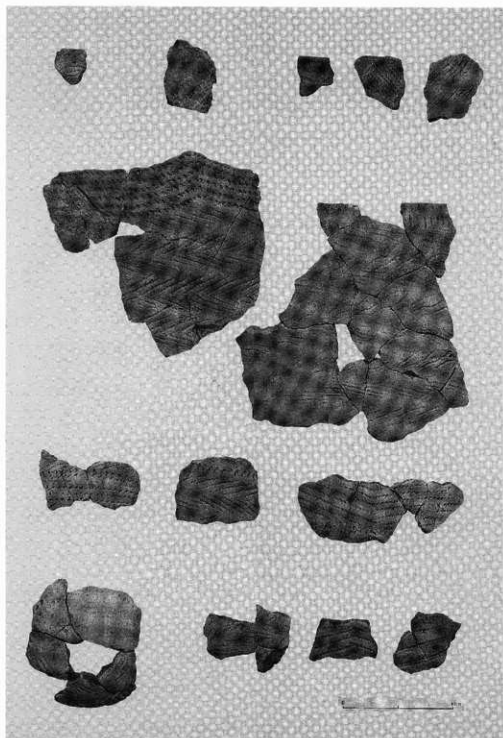
△4) T-31 (西から)



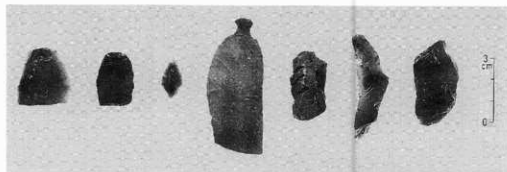
△5) T-33 (南から)



△6) T-25 (南東から)



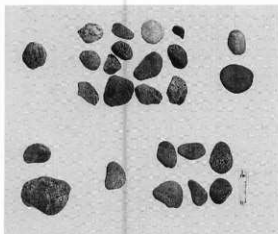
△Tピット出土の土器



△1) Tピット出土の剥片石器



△2) Tピット出土の礫石器



△3) Tピット出土の小礫

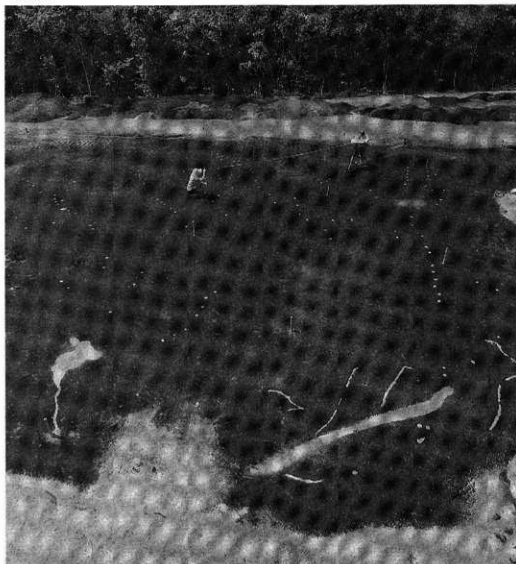


△4) F-2 (南東から)

焼土の調査



△5) 焼土出土の土器



△1) 動物の足跡列 (東から)

動物の足跡と風倒木痕
の調査



2) 風倒木痕の土層断面△



△1) I群b-4類土器集中地区出土状況 (北東から)



△2) 同上 (南西から)



△3) II群b類土器出土状況 (南東から)



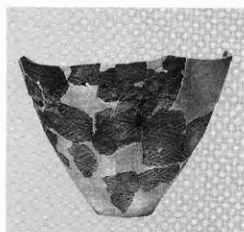
1) V群c類土器出土状況
(東から)



2) 罐出土状況 (南から)



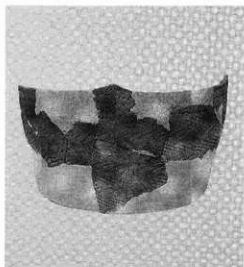
3) 罐集中地区出土状況
(南東から)



4)



5)



6)

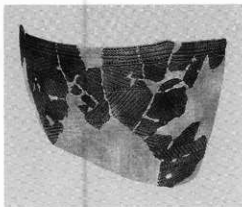


7)

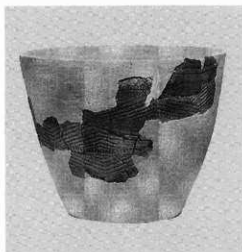
4) ~ 7) I群b-4類土器



1)



2)



3)

1) ~ 3) Ib-4

4) IIb

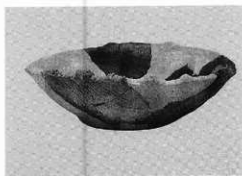
5) - 6) Vc



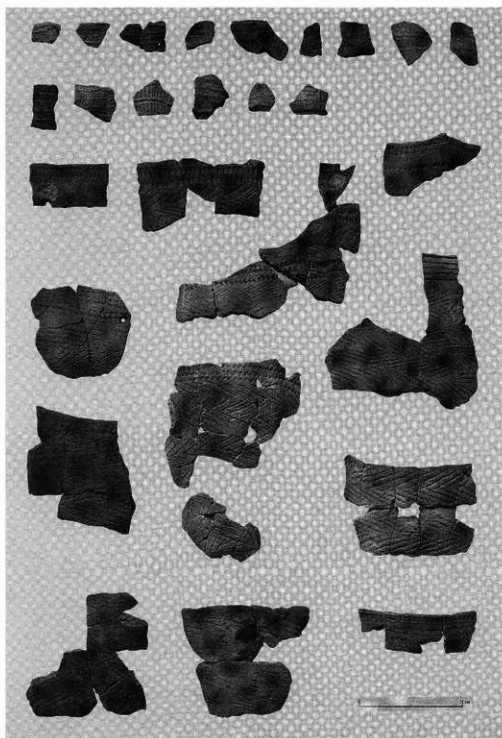
4)



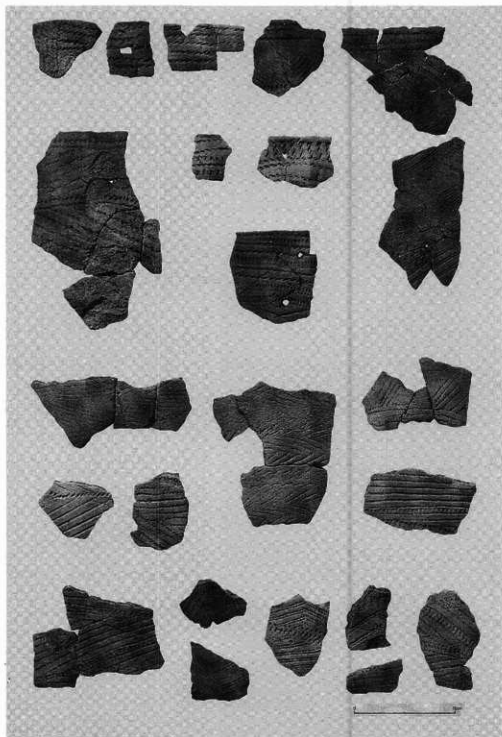
5)



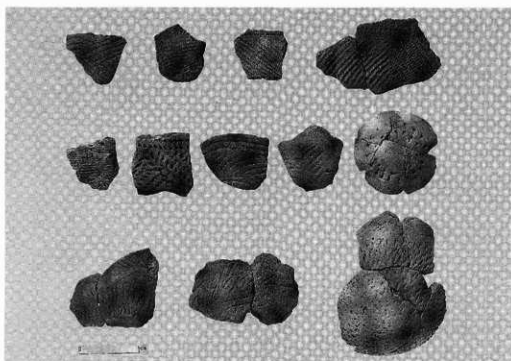
6)



I 群b-3・4 類土器



I 群b-4 類土器

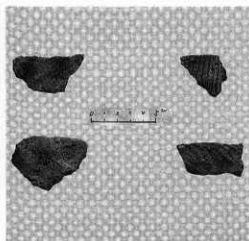


1) I 群b-4 類土器

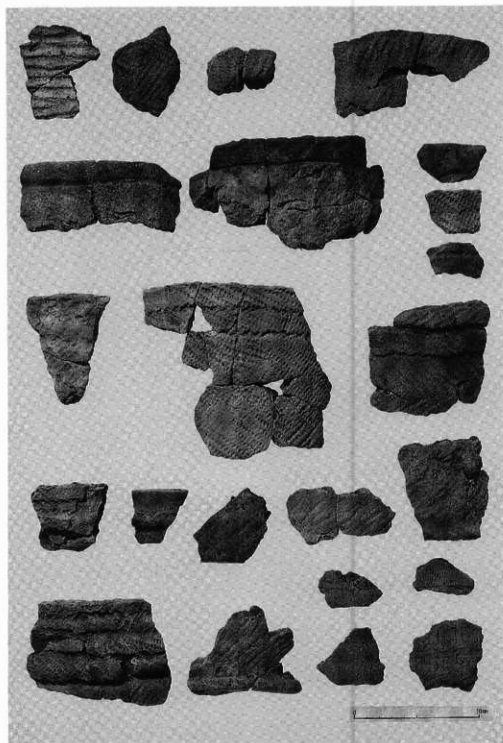


2) I 群b-4 類文様各種

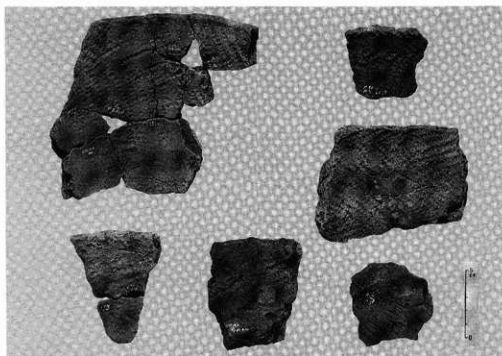
- 2) a 図72-49 d 図73-60
 b 図71-32 e 図73-64
 c 図72-43 f 図72-47



3) 土器の胎土分析用資料 (本文 6 参章)



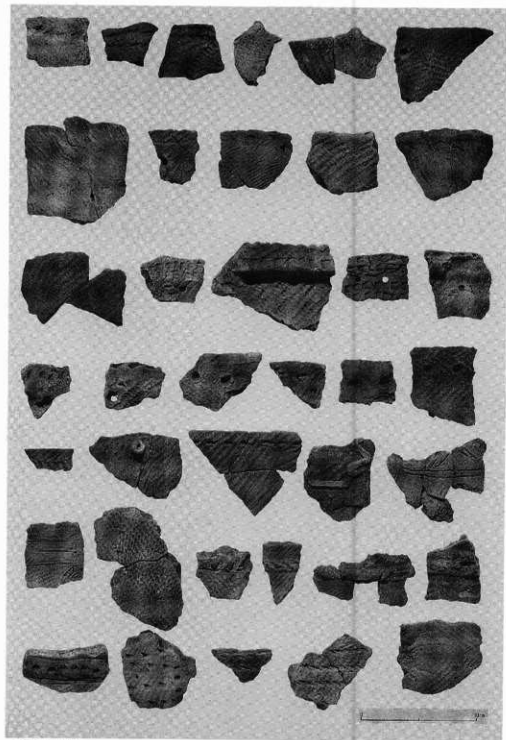
Ⅱ 群土器



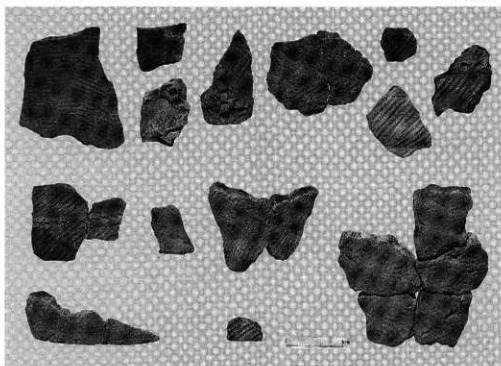
1) Ⅲ群b類土器内面の文様



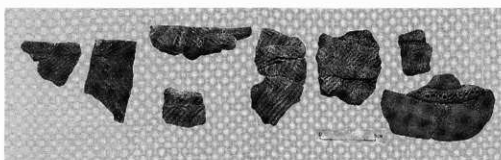
2) Ⅲ群土器



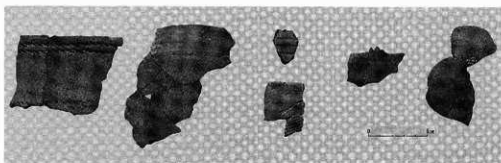
Ⅲ群b類土器



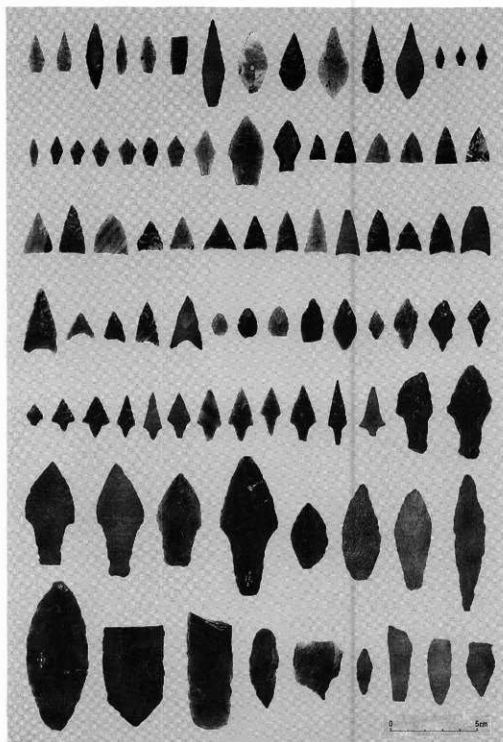
1) b群土器



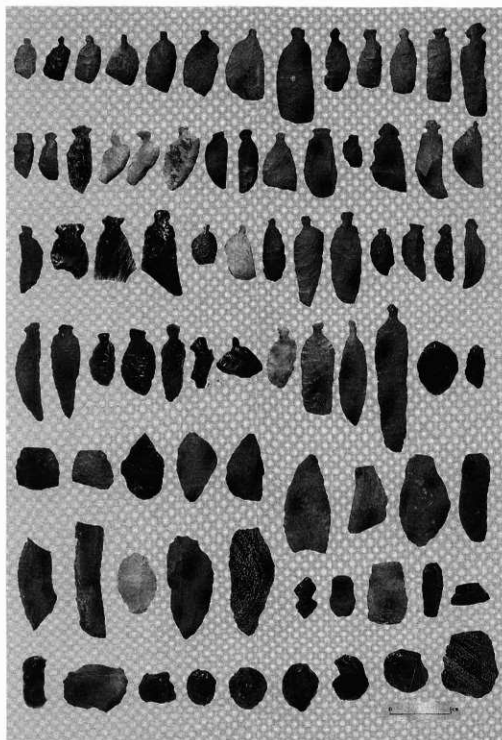
2) M群土器



3) V群土器



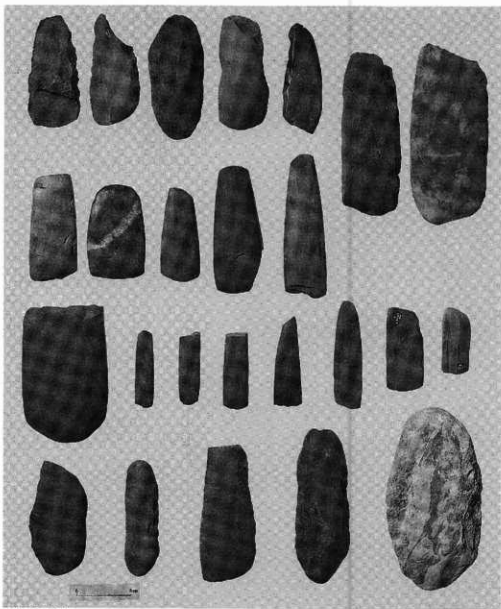
A·B·C類石器



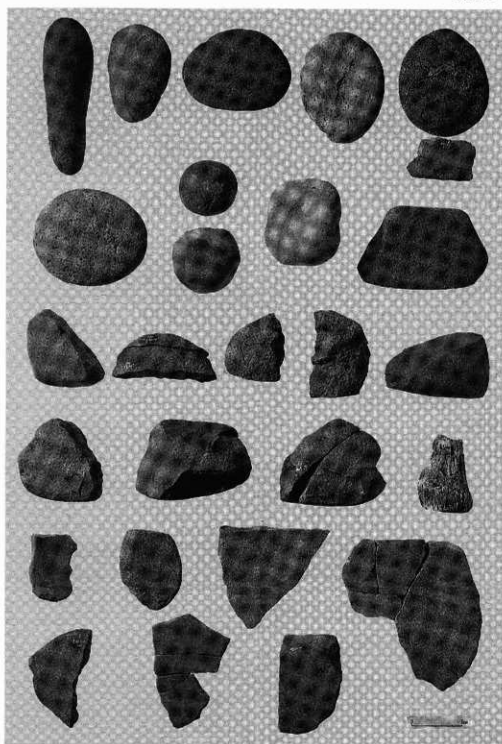
D・E類石器



1) Oia・OO類石器

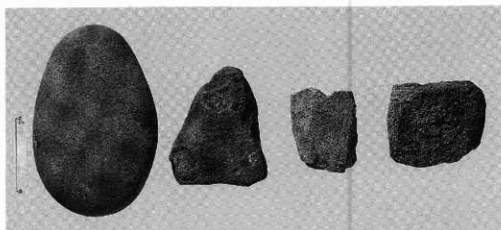


2) F類石器

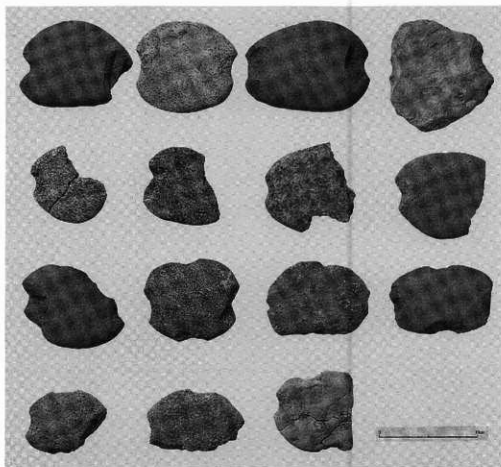


G·J·K 磨石器

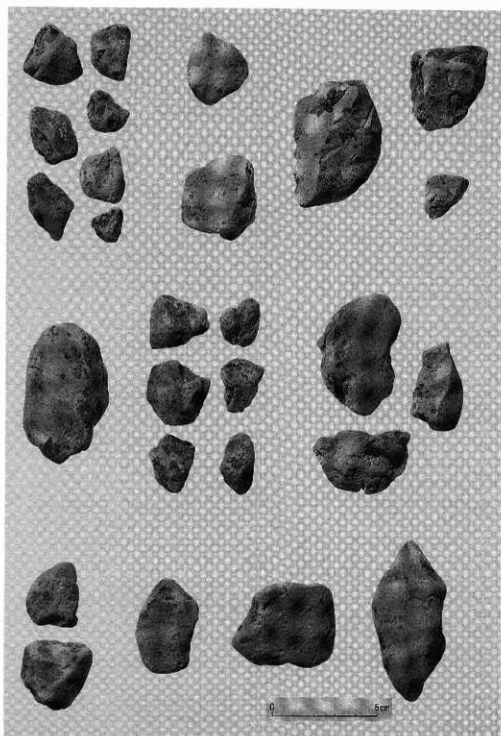
図版42



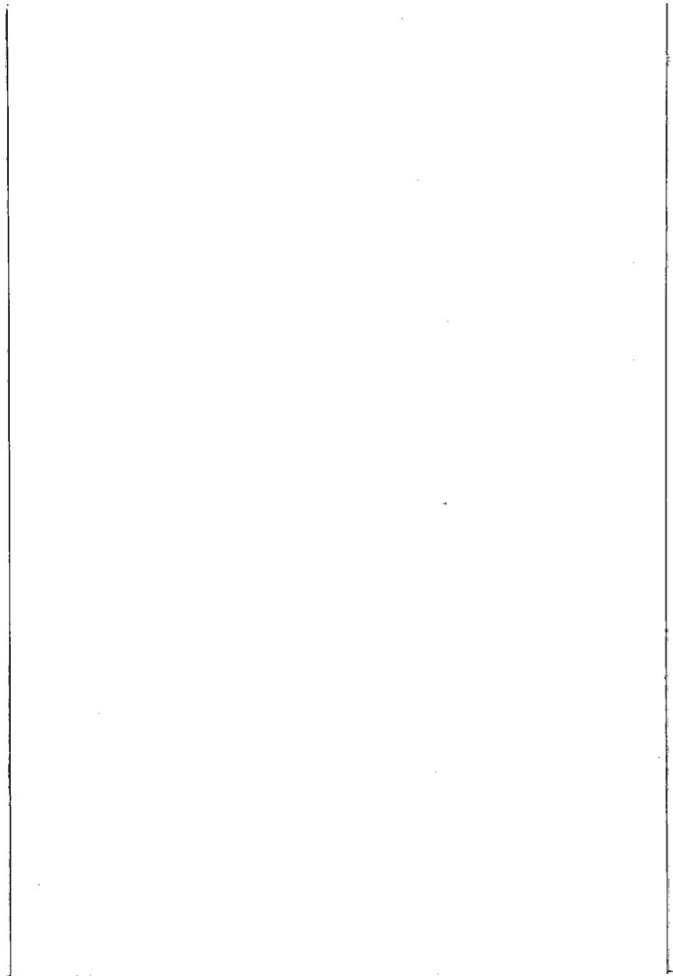
1) M類土器



2) N類石器



烧成粘土塊



⑧北海道埋蔵文化財センター調査報告 第44集
新千歳空港用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第3分冊 ベンケナイ川流域の遺跡群Ⅱ

発行日 昭和63年3月26日
発行者 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒 064 札幌市中央区南26条西11丁目
Tel (011)561-3131
印刷者 富士プリント株式会社
〒 064 札幌市中央区南16条西9丁目
Tel (011)531-4711

これは、北海道開発局札幌開発建設部の承認を得て増刷したものである。

